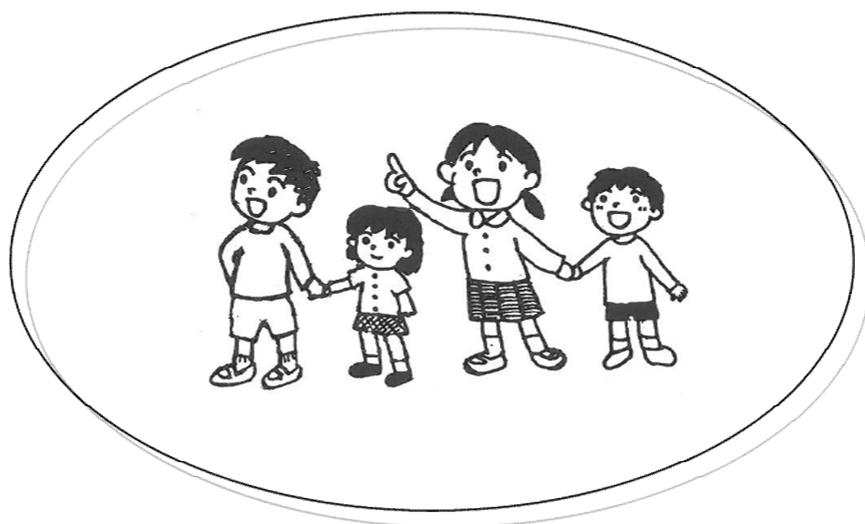


中野区 就学前教育プログラム改訂版 理論編



平成31年2月

中野区教育委員会

はじめに

中野区教育委員会教育長
入野 貴美子

子どもたちが、日々の生活を楽しみながら自分らしさを精一杯発揮して生き生きと学び、自分の力を信じて仲間と共に未来の中野区を、日本を、そして世界を支え発展させていく力を身に付けていく。「中野区教育ビジョン（第3次）」は、そのような子どもたちを育てることを目指しています。

平成30年4月から、幼稚園、保育所及び幼保連携型認定こども園においては、新しい幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が全面実施されました。小学校においても、新学習指導要領の総則に示されている内容が施行されることとなり、「保幼小が相互に連携し、円滑な接続を図るよう努めること」と示されたその実践の第一歩がいよいよスタートしました。

この保・幼と小学校間の円滑な接続については、中野区では既に、教育大綱や教育ビジョン（第3次）において、「保・幼・小・中の連携」として、重点施策の1つに掲げているところです。平成30年度は具体的にこの施策を推進していくため、就学前教育推進担当を子ども教育部から教育委員会へと組織を改編いたしました。生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育で育まれた資質・能力をしっかりと小学校へと引き継ぎ、子どもたち一人ひとりが安心して学校生活を送れるようにするためには、学びの連続性を確保した教育を一層展開すること、更に、指導者が行う日々の指導に、教育要領、指針、学習指導要領等に基づく根拠のある指導及び発達の特性に応じた指導が重要です。

就学前教育と小学校との円滑な接続を図るためには、それぞれの教育内容について、相互理解を図る必要があります。幼児期から児童期にかけての教育のつながりを互いに理解し、連続性・一貫性を意識しながら教育活動を充実させていただきたいと考えています。

本プログラムには、子どもを取り巻く全ての人々との「つながり」の中で、子どもたちに確かな発達と豊かな生活を保障していきたいという願いが込められています。関係者の皆様には、本プログラムを活用し、地域の特性を生かして、各年齢の発達段階に応じた就学前教育の充実を図っていただくことを期待しています。

結びにあたり、本プログラムの作成に熱心に取り組んでこられた連携教育検討委員会をはじめとして、ご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

目次

はじめに

I	中野区の就学前教育の現状	3
1	中野区の現況	3
	(1) 就学前における集団生活の経験	3
	(2) 就学前教育・保育施設(幼児教育施設)と運営・概要(平成30年11月1日現在)	3
	(3) 就学前教育施設と幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領との関連	7
	(4) 子どもの遊び場	8
2	中野区の子どもの姿	9
3	中野区が目指す子ども像	11
4	中野区におけるこれまでの就学前教育の取組	12
5	中野区におけるこれからの就学前教育の取組	12
II	就学前教育について	13
	【幼稚園教育要領】【保育所保育指針】【幼保連携型認定こども園教育・保育要領】(平成29年3月告示)	
1	生きる力の基礎を培う就学前教育の充実	13
	(1) 乳幼児期の教育及び保育の重要性	13
	(2) 子どもの発達と学びの連続性を踏まえた教育及び保育の充実	13
	① 就学前教育において育みたい資質・能力と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について	14
	② 幼稚園における教育課程の編成や、保育所及び幼保連携型認定こども園における全体的な計画の作成について	15
	③ 就学前教育と小学校教育との円滑な接続について	16
2	就学前教育プログラム改訂版(理論編)の基本的な考え方	17
	(1) 生きる力と0歳児(乳児)の教育・保育の重要性	17
	(2) 生きる力の基礎を身に付けた子ども像	17
	(3) 乳幼児期の子どもの発達に応じて確実に経験させたい内容の視点	20
	(4) 乳幼児期の子どもの発達過程の区分についての考え方	22
	(5) 0歳児から5歳児・小学校入門期の発達に応じて確実に経験させたい内容	23
	① おおむね6か月未満～おおむね2歳	23
	② 3歳児～5歳児	24
	③ 小学校入門期と入学当初期	25
	④ 各時期に応じた家庭との連携	26
	⑤ 発達や学びの連続性を考慮した具体的な指導方法	28
3	就学前教育プログラム改訂版(理論編)を活用したアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの編成など	58
	(1) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)	58
	(2) 就学前【5歳児10月から3月まで】の取組例・指導計画(区立かみさぎ幼稚園)	59
	(3) 就学前【5歳児10月から3月まで】の取組例・指導計画(私立とちの木保育園)	62
	(4) 小学校入学当初期【4月第1週から5月第1週まで】の取組例・指導計画・単元配列表・週ごとの指導計画(区立上鷲宮小学校)	64
	(5) 就学前教育プログラム改訂版(理論編)を活用した教育課程・全体的な計画の編成	67
	① 幼稚園教育課程全体的な計画(区立ひがしなかの幼稚園)	68
	② 保育園全体的な計画(区立弥生保育園)	69
	③ 幼保連携型認定こども園全体的な計画(私立やよいこども園)	70
III	就学前教育プログラム改訂版(理論編)の指導資料としての意義	71
IV	これからの方向性	72
	委員等名簿	73



「虹の光の誕生日」
平成29年度 第八中学校美術部作成

本作品は、「誕生日」をテーマとして作成されています。
絵の具の虹から新しい命（光）が誕生し、徐々に赤ちゃんは歩くことができるようになります。
その赤ちゃんはしだいに大きくなり、学校に通い、社会人となります。
明るい未来だと信じて、笑顔で道を歩く人の姿を、星の輝く明るい宇宙が描かれた作品の中で表現しています。

I 中野区の就学前教育の現状

1 中野区の現況

(1) 就学前における集団生活の経験

中野区においては、就学前教育・保育施設の在園児の割合は年々増加し、この10年間の「0歳児から2歳児の在園率」は急激に高くなっています。また、「3歳児から5歳児の在園率」は、年齢別人口の増加傾向もあり横ばいですが、95%を越える幼児が集団生活を経験して小学校に入学しています。

保育園・幼稚園等在園率（平成30年4月1日現在）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
H21年度	15.9%	30.1%	33.9%	95.3%	97.5%	97.7%
H29年度	24.5%	44.1%	48.5%	95.6%	97.1%	97.2%
H30年度	26.3%	51.3%	53.5%	92.5%	95.8%	94.3%

$$(\text{区内幼児教育施設在園幼児数}) \div (\text{年齢別人口数}) = (\text{在園率})$$

(2) 就学前教育・保育施設（幼児教育施設）と運営・概要（平成30年11月1日現在）

今回、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の3法令が同時に改訂されました。このことにより、幼稚園も保育所も認定こども園も、「日本の大切な幼児教育施設」として位置付けられただけでなく、3つの就学前教育・保育施設に共通する教育・保育のあり方として、「環境を通じた教育」「乳児期からの発達と学びの連続性」「小学校教育との接続のあり方」などが明らかになり、各施設での教育・保育の充実が求められています。

① 区立幼稚園・私立幼稚園

幼稚園教育要領により、文部科学省が所管する区内21園ある区立幼稚園や私立幼稚園における3歳児以上の幼児を対象とする教育課程の基準が定められました。

区立幼稚園	「かみさぎ」 「ひがしなかの」 【2園】	私立幼稚園	「みやしろ」「ナザレン」「こまどり」「中野たから」 「新渡戸文化」「宝仙学園」「桃園」「上ノ原」「ほぜんじ」 「徳育」「まこと」「野方学院」「沼袋」「中野小鳩」「金の峯」 「大和」「やはた」「ワカバ」「若宮」 【19園】
--------------	-----------------------------------	--------------	---

② 区立保育園・公設民営園・公設保育室・私立保育園・小規模保育事業所・事業所内保育事業所・家庭的保育事業所・居宅訪問型保育事業・認証保育所・認可外保育施設

保育所保育指針により、厚生労働省が所管する「区立保育園」「公設民営園」「公設保育室」「私立保育園」「小規模保育事業所・事業所内保育事業所」「家庭的保育事業所」「認証保育所」「認可外保育施設」の区内124園ある全ての保育所における保育の内容に関する事項及びこれに関する運営に関する事項が定められました。また、今回の保育所保育指針の改定により、改めて、幼児教育(環境を通して行う教育)とは何かを考え保育を見直すこと、「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)を意識して計画・評価すること、保育所保育指針の「乳児・1歳以上3歳未満児の保育」を理解し、幼児期への学びの連続性を考えることが喫緊の課題となっています。

区内124園は、4頁の通りです。

<p>区立保育園（公設公営園）</p>	<p>「中野」 「弥生」 「本町」 「鍋横」 「仲町」 「もみじやま」 「昭和」 「あさひ」 「沼袋」 「江原」 「丸山」 「野方」 「大和東」 「白鷺」</p> <p>【14園】</p>	<p>私立保育園（民設民営園）</p>	<p>「中野南台ちとせ」「アートチャイルドケア中野南台森の保育園」 「中野みなみ」「徳田」「マミーズエンジェル新中野」 「太陽の子中野中央」「キッズガーデン中野白鷺」 「陽だまりの丘・陽だまりの丘分園」「東中野プチ・クレイシュ」 「ひまわり」「なかのまるのなか保育園大きなおうち」 「桃が丘さゆり」「コンビプラザ中野」 「ナーサリールームベリーベアー中野」 「さくらさくみらい中野」「あけぼの」「ピオニイ」 「中野りとるばんぷきんず」「松が丘」「沼袋西」 「にじいろ保育園松が丘」「なかよしの森」「ピノキオ幼児舎野方」 「にじいろ保育園中野野方」「七海」「野方さくら」 「オンビーノスクエア野方」「田中ナースリー若宮」 「まなびの森保育園鷺ノ宮」「聖ピオ」「グローバルキッズ鷺ノ宮」 「とちの木」「中野ひかり」「キッズガーデン中野上高田」 「江古田ここわ」「なかみなみコスモ」「鷺宮クローバー」 「橋場そらとみどりの保育園大きなおうち」 「にじいろ保育園江古田の杜」</p> <p>【39園】</p>
<p>区立保育園（公設民営園）</p>	<p>「南台」 「大和」 「宮の台」 「宮園」 「打越」 「西鷺宮」</p> <p>【6園】</p>	<p>小規模保育事業</p>	
		<p>「キャリア保育園なかのふじみちょう」「TAC 未来こども保育園南台」 「ゆめのいろ保育園中野」「あーす保育園中野坂上」 「マザーズハート南台園」「かたつむり保育園野方」 「おうち保育園なかの大和」「子ごころ園沼袋」 「子ごころ園都立家政」「子ごころ園大和町」「ふたばクラブ鷺宮保育園」 「あーす保育園鷺ノ宮」「あーす保育園中野新橋」 「おうち保育園なかの新橋」「TAC 未来こども保育園大和町」</p> <p>【15園】</p>	
		<p>事業所内保育園</p>	<p>「ひなぎくの丘」</p> <p>【1園】</p>
<p>保育室（公設民営）</p>	<p>「上高田5丁目」 「新井2丁目」 「沼袋1丁目」 「沼袋3丁目」 「野方3丁目」 「江原町1丁目」 「江古田1丁目」</p> <p>各保育室 【7室】</p>	<p>認証保育所</p>	<p>「幼保育園ベビーサロン南台」「グローバルキッズ中野新橋園」 「ぼけっとランド中野坂上」「幼保育園ベビーサロン新中野」 「にじいろ保育園中野」「幼保育園ベビーサロン東中野」 「エデュケアセンター・ひがしなかの」「ピノッキオ保育園」 「エンゼル保育室」「小学館アカデミーあらいやくし保育園」 「マミーナ野方」「龍の子保育室」 「マミーズエンジェル中野白鷺保育園」 「ぼけっとランドさぎのみや」「ピノキオ幼児舎中野園」</p> <p>【15園】</p>
<p>家庭的保育事業</p>			
<p>「ずずめのおやど保育室」「保育室こどものせかい」「昼間のおうち」「比留間恵美」 「じゅんちゃんの保育室」「新谷裕子」「Hiro's ベビールーム」「キッズルームカジワラ」 「ハッピークレヨン」「ひまわり保育ルーム」</p> <p>【10園】</p>			

認可外保育施設	
ベビーホテル【9園】 「マ・メール」「バイリンガルアート 保育ルーム FairyTale」「江古田ゆめの木保育園」 「保育所どれみ」「ちっちゃな保育園リトルフェアリー」「にじいろキッズ 保育園」 「マミールーム保育園」「24保育」「だっどぼーる託児園」	
その他認可外保育施設【3園】 「新中野キリスト教会附属子どもセンター」「新渡戸文化幼稚園（こども園）」 「NPO 法人すみれの庭こども園」	
企業主導型保育施設【4園】 「アロハエンジェルナーサリー中野坂上園」 「あかつき保育園」「カメラキッズ東中野園」「保育ルーム F e I i c e 中野新橋園」 【16園】	
居宅訪問型保育事業所	障害児訪問保育アニー 【1園】

【出典：子育て支援ハンドブック「おひるね」2018-2019版 「中野区保育所等のご案内」平成30年11月】
 各保育園等の運営は、以下の表の通りです。

区立保育園	中野区が設置・運営している認可保育園
私立保育園	民間事業者(社会福祉法人・株式会社等)が設置・運営している認可保育園
公設民営保育園	中野区が設置し、民間事業者が運営している認可保育園
区立保育室	待機児解消のため、0歳児～2歳児を対象に期限を設けて開設している保育施設
家庭的保育事業所	保育士等の資格を持つ者、または保育に必要な一定の研修を修了した者が、自宅等で生後57日～2歳児の健康な子どもを預かる保育施設
小規模保育事業所	保育士等の資格を持つ者、または保育に必要な一定の研修を修了した保育従事者を配置し、小規模(定員6～19人)な環境の施設(全員保育士と保育士5割以上の2種類)
事業所内保育事業所	事業所の従業員の子どもの保育する施設において、地域の子どもを受け入れるための定員枠を設けた保育施設
居宅訪問型保育事業所	主に障害や疾病等により医療的ケアが必要で、集団保育が著しく困難な乳幼児を乳幼児の自宅において1対1で保育する保育施設
認証保育所	東京都の認証を受けている保育施設
認可外保育所	東京都の認証・認定は受けていないが、届け出をしている保育施設

今回の「保育所保育指針」の改定には、2つの大きな特徴があります。1つは、保育所が「幼児教育施設」として位置付けられただけでなく、乳児保育と1歳以上3歳児未満児の保育のねらい及び内容の記載を充実させたことにあります。

③ 認定こども園

幼保連携型認定こども園教育・保育要領により、内閣府・文部科学省・厚生労働省は所管する区内の2園の認定こども園(平成18年:認定こども園法)における教育・保育の内容が定められました。

認定こども園	
「やよいこども園」(幼保連携型)	「認定こども園みずのとう」(幼稚園型) 【2園】

幼保連携型認定こども園とは、教育・保育を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方のよさを合わせもった施設です。

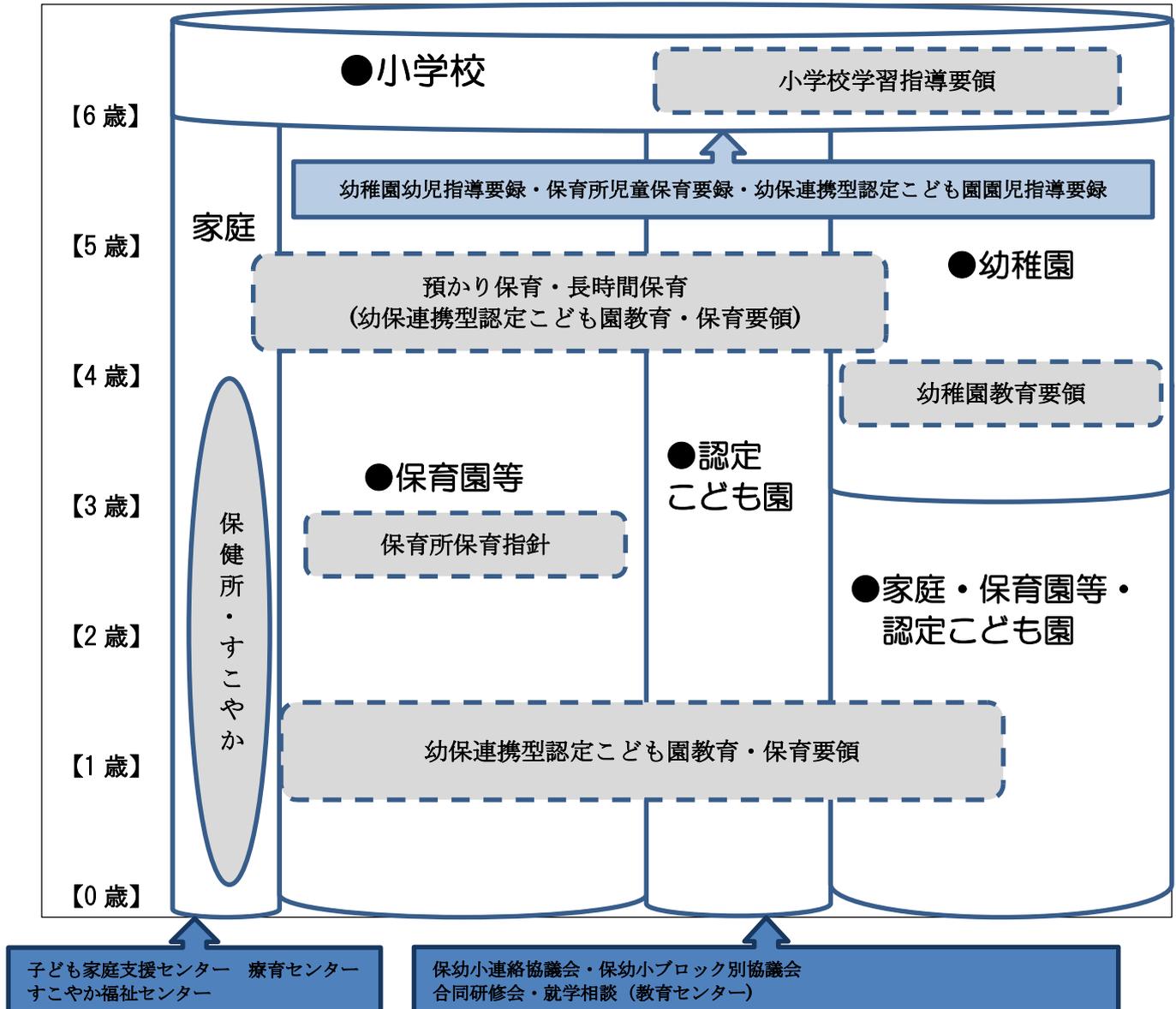
中野区では、幼稚園の機能と保育所的機能を合せもつ単一の施設「幼保連携型認定こども園」と、認可幼稚園が保育の必要な子どものための保育時間を確保するなどの保育所的な機能を備えた「幼稚園型」認定こども園の2つのタイプがあります。

また、認定こども園には、「幼保連携型」「幼稚園型」に加え、「保育所型」「地方裁量型」の多様なタイプがあります。その運営等は、以下の通りです。

	幼保連携型 認定こども園	幼稚園型 認定こども園	保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園
法的性格	学校かつ 児童福祉施設	学校 (幼稚園 + 保育所機能)	児童福祉施設 (保育所 + 幼稚園機能)	幼稚園機能 + 保育所機能
設置主体	国、自治体、 学校法人、 社会福祉法人	国、自治体、 学校法人	制限なし	
職員の要件	保育教諭 (幼稚園教諭+ 保育士資格)	満3歳以上→ 両免許・資格の併有 が望ましいがいずれ かでも可 満3歳未満→ 保育士資格が必要	満3歳以上→ 両免許・資格の併有 が望ましいがいずれ かでも可、ただし教 育相当時間以外は保 育士資格が必要 満3歳未満→ 保育士資格が必要	満3歳以上→ 両免許・資格の併 有が望ましいがい ずれかでも可 満3歳未満→ 保育士資格が必要
給食の提供	2・3号子ども に対する食事の 提供義務 自園調理が原則・調理室の設置義務 (満3歳以上は、 外部搬入可)	2・3号子どもに 対する食事の提供義務 自園調理が原則・調 理室の設置義務 (満3歳以上は、外部 搬入可) ※参酌基準のため各都 道府県の条例による	2・3号子どもに 対する食事の提供義務 自園調理が原則・調 理室の設置義務 (満3歳以上は、外部 搬入可)	2・3号子どもに 対する食事の提供義務 自園調理が原則・調 理室の設置義務 (満3歳以上は、外部 搬入可) ※参酌 基準のため各都道 府県の条例による
開園日時	11時間開園、土 曜日の開園が原則 (弾力的運用可)	地域の実情に応じ て設定	11時間開園、土曜 日の開園が原則 (弾力的運用可)	地域の実情に応じ て設定

以上のように、中野区には「区立幼稚園・私立幼稚園」21園、「区立保育園等の施設」124園、「認定こども園」2園の就学前教育・保育施設が147園あり（平成30年11月1日現在）、相互に幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂の趣旨を生かした就学前教育・保育の連携や小学校教育との円滑な接続を構築していくことが課題となっています。

(3) 就学前教育施設と幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領との関連



就学前教育・保育施設では、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく、「環境を通した教育」「乳児期からの発達と学びの連続性」「小学校教育と接続」などの幼児教育のあり方が示され、教育・保育が行われています。また、家庭では、保健所やすこやか福祉センター等の様々な支援を得て、養育も行われています。どのような養育・保育・教育を受けてきたお子さんであっても、義務教育である小学校への円滑な接続が課題となっています。

そのためには、家庭や就学前教育・保育施設、関係諸機関は、互いに連携して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)を理解し、乳児期の保育や子どもの育ちを捉え、幼児期への学びの連続性を考える教育・保育を実現することで、みんなで手を携え、子どもたちを「オール中野」で育てていくことが欠かせません。

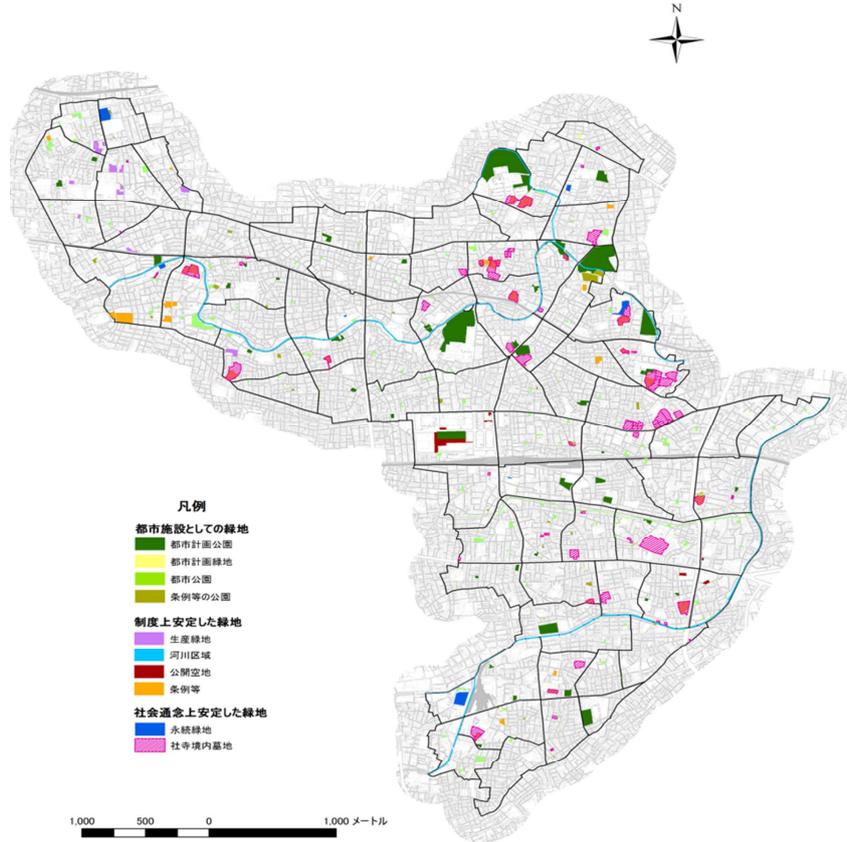
そこで、本プログラムを活用し、各保育者及び関係諸機関が「0歳児から5歳児・小学校入門期の発達に応じて確実に経験させたい内容」を把握し、日々ねらいをもって、各年齢の発達段階に応じた就学前教育の充実を図ることが重要になります。

(4) 子どもの遊び場

中野区は、「中野区みどりの基本計画」(平成21年8月)に基づき、区内の公園緑地の整備を進めており、妙正寺川、江古田川に沿って哲学堂公園や江古田の森公園一带にはまとまった緑地がみられますが、近隣区に存在する緑地と比較すると小規模です。

また、公園、児童遊園、ポケットパーク、広場等が各地域に点在していますが、区民一人当たりの公園面積が1.36㎡と狭く、特に子どもが日常的に安心して遊べる緑地や公園が少ないのが現状です。

広域的な緑地状況 「緑の実態調査」(平成29年3月)から



園庭を有しない認可保育所の適切な保育環境の確保及び充実のため、希望する認可保育所には、区立小学校の校庭を開放しています。

区立小学校の校庭を認可保育所が使用する場合には、事前に対象小学校担当者と打ち合わせをしています。

区立小学校の校庭を遊び場とする認可保育園	
○塔山小学校 (太陽の子中野中央保育園)	○中野本郷小学校 (マミーズエンジェル新中野保育園)
○上高田小学校 (キッズガーデン中野上高田)	○北原小学校 (オンビーノスクエア野方)
○白桜小学校 (ナーサリールームベリーベア中野)	○緑野小学校 (ピノキオ幼児舎野方保育園)
○美鳩小学校 (田中ナースリー若宮保育園)	○桃花小学校 (なかのまるのなか保育園おおきなうち)
今後区立小学校の校庭を遊び場として希望する認可保育園	
○江古田ここわ保育園	○なかみなみコスモ保育園
○鷺宮クローバー保育園	○キッズガーデン中野白鷺

園庭を有しない認可保育所の適切な保育環境の確保支援打合せ日程表 (平成30年3月)から

2 中野区の子どもの姿

小学校入学時に、就学前教育・保育施設等でのそれまでの生活と小学校での生活の仕方のギャップから学校生活にうまく適応できない子どもたちが見受けられるという指摘をされることがあります。

一方、本区が実施する「就学前の集団生活を通して社会性の基礎が培われていると感じる子どもについての調査」（小学校全校の第1学年学級担任への聞き取り調査）の結果では、「就学前の集団生活を通して社会性の基礎が培われていると感じる子どもの割合」は、平成29年度と平成30年度のそれぞれの質問項目の肯定的回答を平均すると81.8%と高い割合を示しています。

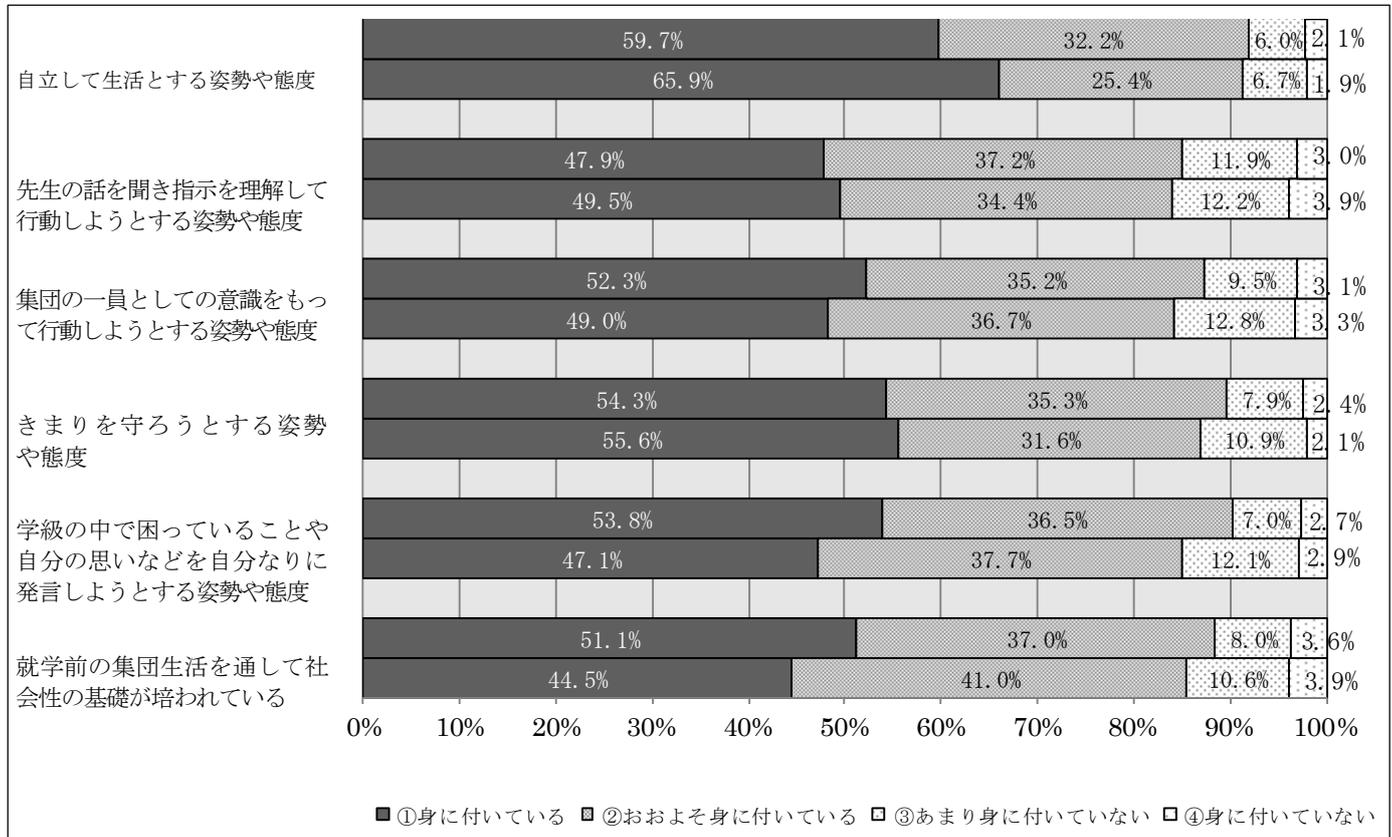
少子高齢化や核家族化の進行に伴い、今後も集団生活や学習規範について個別に指導が必要な子どもには、就学前教育・保育施設と小学校とのより密接な連携が求められています。そこで、平成29年度と平成30年度の上記調査結果の分析内容から、「中野区の子どもの姿」を捉えました。

平成29年度・平成30年度入学当初の児童の社会性の基礎の状況

(平成29・30年度「就学前の集団生活を通して社会性の基礎が培われていると感じる子どもについての調査から」)

	①身に付いている		②おおよそ身に付いている		③あまり身に付いていない		④身に付いていない	
	h 29	h 30	h 29	h 30	h 29	h 30	h 29	h 30
自立して生活とする姿勢や態度	59.7%	65.9%	32.2%	25.4%	6.0%	6.7%	2.1%	1.9%
先生の話聞き指示を理解して行動しようとする姿勢や態度	47.9%	49.5%	37.2%	34.4%	11.9%	12.2%	3.0%	3.9%
集団の一員としての意識をもって行動しようとする姿勢や態度	52.3%	49.0%	35.2%	36.7%	9.5%	12.8%	3.1%	3.3%
きまりを守ろうとする姿勢や態度	54.3%	55.6%	35.3%	31.6%	7.9%	10.9%	2.4%	2.1%
学級の中で困っていることや自分の思いなどを自分なりに発言しようとする姿勢や態度	53.8%	47.1%	36.5%	37.7%	7.0%	12.1%	2.7%	2.9%
就学前の集団生活を通して社会性の基礎が培われている	51.1%	44.5%	37.0%	41.0%	8.0%	10.6%	3.6%	3.9%

※以下のグラフの上段は平成29年度、下段は平成30年度となる。



質問項目の「自立して生活しようとする姿勢や態度」については、「身に付いている」や「おおよそ身に付いている」と肯定的に回答している値が90%を越え、早寝・早起き等といった「基本的な生活習慣」は良好といえます。

一方、他の質問項目の「先生の話聞き指示を理解して行動しようとする姿勢や態度」、「集団の一員としての意識をもって行動しようとする姿勢や態度」、「きまりを守ろうとする姿勢や態度」、「学級の中で困っていることや自分の思いなどを自分なりに発言しようとする姿勢や態度」、「就学前の集団生活を通して社会性の基礎が培われている」の5項目全てについては、「身に付いている」「おおよそ身に付いている」の値は80%を越えているものの、経年での比較では、共通して約3%減となっています。

このことは、思考（興味・関心、好奇心、探究心など）・言葉（話す・聞く・伝え合う・言葉に対する感覚など）・創造（感性、イメージ、素材や表現方法との出会いなど）といった確かな学力につながる「学びの芽生え」や、協同（共感、調整、自己理解、他者理解など）・信頼（自己表出、受容、自信、思いやりなど）・規範（善悪に気付く、きまり、ルールなど）といった豊かな人間性につながる「人との関わり」の育成を重点とした幼児教育や小学校教育における継続した指導が喫緊の課題であると受け止める必要性があるといえます。また、基本的な生活習慣（生活リズム、安全、健康、自立など）・運動（体を動かす楽しさ、体力など）といった健康・体力につながる「生活習慣・運動」の育成についても、引き続き、さらなる充実を図る必要があります。

今後も「就学前の集団生活を通して社会性の基礎が培われていると感じる子どもについての調査」を継続的に実施し、5項目の経年比較約3%減の値に有意差が認められるかについて継続調査を行い、「中野区の子どもの姿」を明らかにして、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく根拠のある幼児教育や、小学校学習指導要領に基づいた根拠のある学校教育のさらなる充実が求められます。また、就学前教育・保育施設によるアプローチ・カリキュラムや、小学校におけるスタート・カリキュラムの充実を図り、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）を手がかりにしながら、保育所、幼稚園、認定こども園の教員及び保育士と小学校の教員が、子どもたちの姿を共有することも重要になります。

※就学前の集団生活を通して社会性の基礎が培われていると感じる子どもについての調査については、年度当初に子ども教育部 保育園・幼稚園分野が担当し、毎年調査を実施しています。

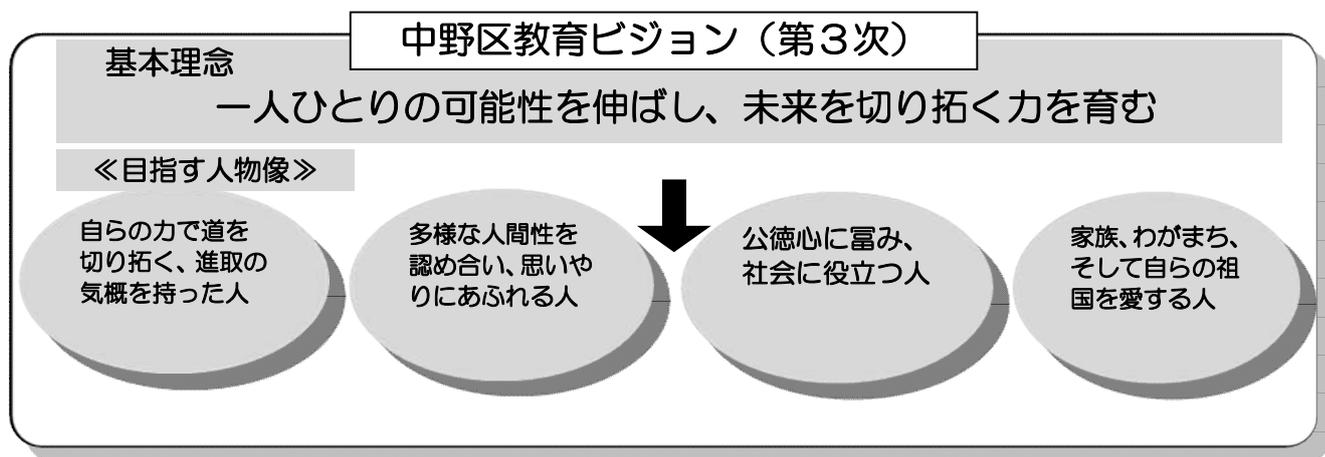
小学生の子どもたちの体力については、平成25年度から上昇傾向にあります。保育園・幼稚園においては子どもたちの身体能力の平均は平成25年度調査の結果とほぼ同程度であり、それぞれの子どもの生活や遊びの経験によって測定結果に違いが見られ、全体としてみると日常生活の中での様々な動きの経験や活動量が不足していることが明らかになっています。「中野区運動遊びプログラム」（中野区幼児教育センター 平成26年10月）や、体力向上に当たっては、「中野区運動遊びプログラムにつながる乳幼児期からの運動遊び～マットとボール」（中野区立保育園主査会 平成29年度）、「中野区就学前教育プログラム実践編（中野区教育委員会 平成31年度作成予定）」などを活用し、日々の教育・保育に取り組むことが具体的な手立てとなります。その際、①「発達の特性に合った遊びとすること」、②「保育士が主導するのではなく幼児が自発的に進めることができるようにすること」、③「様々な運動遊びを取り入れること」、④「運動遊びの環境を工夫すること」などに留意することが大切になります。

（中野の子どもの身体能力測定調査及び中野区体力にかかわる調査）

3 中野区が目指す子ども像

教育基本法に規定されているように、幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期です。

「中野区教育ビジョン（第3次）」では、教育理念として「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」を掲げ、その具体的な姿として「子どもたちは自分の可能性を伸ばし、豊かな人間性・社会性や確かな学力、健康・体力などの『生きる力』を身に付けている」姿を示しています。



幼児期の目標としては、「人格形成の基礎となる幼児期の教育が充実し、子どもたちがすくすくと育っている」姿を掲げ、幼児期、学齢期、生涯というライフステージを念頭に置いて、目標ごとの現状と課題を明らかにし、成果指標と目標値を設定するとともに、家庭、地域、学校・行政それぞれの視点からの取組と方向性について、示されています。

「教育ビジョンの目標体系と今後5年間の取組の方向性」

目 標	
幼児期	目標Ⅰ 人格形成の基礎となる幼児期の教育が充実し、子どもたちがすくすくと育っている
学齢期	目標Ⅱ 子どもたち一人ひとりが意欲的に学び、社会で生き抜くための確かな学力を身に付け、個性や可能性を伸ばしている
	目標Ⅲ 自他の生命や人権を尊重する教育が行われ、さまざまな体験活動を通じて、子どもたちの豊かな人間性・社会性が育っている
幼児期～学齢期	目標Ⅳ 子どもたちは健康の大切さを理解し、心身ともにたくましく育っている
	目標Ⅴ 保幼小中の連携や家庭・地域との連携が進み、子どもたちは生き生きと学んでいる
生涯を通じて	目標Ⅵ 地域における学習やスポーツが活発に行われ、活動をとおして社会参加が進んでいる
	目標Ⅶ 子どもから高齢者まですべての区民が文化や芸術に親しみ、生活の質を高めている

4 中野区におけるこれまでの就学前教育の取組

各保育園・幼稚園・認定こども園では、保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて子どもの発達にふさわしい保育課程・教育課程を作成し、それぞれに創意工夫して保育及び教育の内容の充実を図ってきました。

また、区内各地域では、各保育園・幼稚園・小学校が地域の実情に応じて各保育園・幼稚園間の交流、各保育園・幼稚園と小学校相互の交流活動等を工夫して実施していますが、地域によって取組の内容・方法は様々です。

さらに中野区では、保幼小連携の先駆的な取組として、各保育園・幼稚園・小学校の教職員が参加する「保育園と幼稚園と小学校との連絡協議会」を毎年開催し、保幼小関係者は相互の保育内容・教育内容等についての理解を深めるよう努めてきました。

子どもの健康・体力等については、幼児研究センター及び教育委員会事務局がそれぞれ就学前教育、小学校以降の教育に係る現状と課題を明らかにし、各保育園・幼稚園を対象にした「運動遊びプログラム」の開発と普及、小学校・中学校を対象として策定した「体力向上プログラムガイドライン」に沿って小・中学校全校が「体力向上プログラム」を作成・実施するなど、保育改善・授業改善に生かす具体的な取組を進めてきました。

5 中野区におけるこれからの就学前教育の取組

平成30年度から、就学前教育と学校教育とが一体となった施策の展開及び各校・園への指導・助言等を目指し、子ども教育部保育園・幼稚園分野にあった就学前教育推進担当を教育委員会事務局学校教育分野へ組織改編しました。教育委員会において就学前教育推進担当は、子ども教育部保育園・幼稚園分野と連携し、以下の事業等を実施します。

- ・「中野区就学前教育プログラム」（理論編）の策定

国や都の動向を踏まえ、「中野区就学前教育プログラム」（平成24年12月）を見直し、平成30年度中に理論編を策定します。

- ・「保育園と幼稚園と小学校の連絡協議会」の開催〔年間1回（1日）、6月開催〕

区内にある全ての保育園、幼稚園及び小学校が地域ごとに4ブロックに分かれ、各校・園の保育士及び教員が、それぞれの就学前教育・保育の状況等について情報共有及び協議を行います。

- ・連携教育検討委員会の開催〔年間5回開催〕

幼稚園、保育所、認定こども園、小学校及び中学校における連携のあり方や具体的な取組等について継続的に検討し、相互の理解を深め、就学前教育から義務教育への円滑な接続を目指します。平成30年度は、「中野区就学前教育プログラム」（理論編）の策定について、重点的に協議します。

- ・合同研究の実施〔年間8回、テーマごとの研究分科会を開催〕

区内幼稚園や保育所、認定こども園の教員及び保育士から研究員を募り、実践研究を通して、本区の就学前教育の質の向上を目指します。

合同研究では外部講師を招へいし、年間を通じて、テーマについて研究を重ねます。平成30年度のテーマは、「教育・保育」及び「運動遊び」です。「中野区就学前教育プログラム」（実践編）の実践部分の作成を行っています。

- ・講演会の開催〔年間5回開催〕

就学前教育に関わる知識を深め、教員・保育士としての資質向上を図るために、区内幼稚園や保育所、認定こども園の教員及び保育士を対象に開催しています。

- ・「中野区運動遊びプログラム」の周知と啓発

「中野区運動遊びプログラム」（平成26年10月）についての区内幼稚園や保育所、認定こども園への周知と啓発を図ります。

- ・区内幼稚園や保育所、認定こども園への指導・助言

就学前教育推進担当指導主事や就学前教育推進員、担当職員が、区内幼稚園や保育所、認定こども園へ巡回訪問し、教育や保育の内容、発達支援及び子育て支援などの就学前教育に係る専門的な指導・助言を行います。

II 就学前教育について

1 生きる力の基礎を培う就学前教育の充実

(1) 乳幼児期の教育及び保育の重要性

人の一生において、乳幼児期は、心情、意欲、態度、基本的な生活習慣など、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。

そのため、乳幼児期の教育及び保育では、乳幼児期にふさわしい生活を展開し、子どもの遊びや生活といった直接的・具体的な体験を通して、人と関わる力や思考力、感性や表現する力などを育み、人間として、社会と関わる人として生きていくための基礎を培うことが大切です。

幼児期の教育については、教育基本法（平成18年12月改訂）において、その重要性が規定されています。また、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領において、乳幼児期の教育及び保育の重要性が次のように示されています。

【幼稚園教育要領】（平成29年3月告示）

○前文

（前略） これからの幼稚園には、学校教育の始まりとして、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の幼児が、将来、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培うことが求められる。（後略）

【保育所保育指針】（平成29年3月告示）

○第1章 総則 1 保育所保育に関する基本原則 (2) 保育の目標

ア 保育所は、子どもが生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期に、その生活時間の大半を過ごす場である。このため、保育所の保育は、子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うために、次の目標を目指して行わなければならない。（後略）

【幼保連携型認定こども園教育・保育要領】（平成29年3月告示）

○第1章 総則 第1 幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本及び目標等

2 幼保連携型認定こども園における教育及び保育の目標

幼保連携型認定こども園は、家庭との連携を図りながら、この章の第1の1に示す幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本に基づいて一体的に展開される幼保連携型認定こども園における生活を通して、生きる力の基礎を育成するよう認定こども園法第9条に規定する幼保連携型認定こども園の教育及び保育の目標の達成に努めなければならない。

(2) 子どもの発達と学びの連続性を踏まえた教育及び保育の充実

現在、中野区には、幼稚園、保育所、認定こども園といった乳幼児期のための教育・保育施設があり、区内に住む3歳児から5歳児の約96.6%（平成29年4月現在）が在籍しています。幼稚園では、幼稚園教育要領に基づいた教育が行われ、保育所では、保育所保育指針に基づき養護及び教育を一体とした保育が行われています。また、幼保連携型認定こども園では、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた教育及び保育が行われています。

この幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、平成29年3月に改訂・改定が同時に告示され、幼稚園や保育所等において行われている乳幼児期の教育及び保育のねらいや内容等の一層の整合性が確保されました。その中では、就学前教育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、乳幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにしていくことの必要性が示されています。

① 就学前教育において育みたい資質・能力と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について

平成29年3月に告示された小学校学習指導要領では、生きる力を育むことを目指すに当たり、学校教育全体及び各教科等の指導を通して育成すべき資質・能力が示されています。

幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領においても、小学校以降の教育を見通し、子どもに生きる力の基礎を育むため、各就学前教育の基本等を踏まえ、次に示された資質・能力を一体的に育むよう努めることが求められています。

【幼稚園教育要領】【保育所保育指針】【幼保連携型認定こども園教育・保育要領】(平成29年3月告示)

- 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
- 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」
- 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」

また、五つの領域（「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」）に示されたねらい及び内容に基づく教育及び保育活動全体を通して資質・能力が育まれている5歳児後半に見られるようになる姿を明確化した「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）が新たに示されています。

保育者が指導を行う際には、次に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）を念頭に置き、遊びや生活の中で子どもが発達していく姿を捉え、一人ひとりの発達に必要な体験が得られるような状況をつくりたり必要な援助を行ったりすることが求められます。

【幼稚園教育要領】(平成29年3月告示)

(1) *1 健康な心と体

幼稚園*2生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園*3内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、想像したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることをもちかえり関わるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生*4や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

*1 【保育所保育指針】、【幼保連携型認定こども園教育・保育要領】においては「ア～コ」

*2 【保育所保育指針】においては「保育所の」、【幼保連携型認定こども園教育・保育要領】においては「幼保連携型認定こども園における」

*3 【保育所保育指針】においては「保育所の」、【幼保連携型認定こども園教育・保育要領】においては「幼保連携型認定こども園」

*4 【保育所保育指針】においては「保育士等」、【幼保連携型認定こども園教育・保育要領】においては「保育教諭等」

② 幼稚園における教育課程の編成や、保育所及び幼保連携型認定こども園における全体的な計画の作成について

幼稚園や保育所等における就学前教育の実施に当たっては、乳幼児の心身の発達と各施設及び地域の実態に即した指導が適切に行えるよう、教育課程の編成や全体的な計画を作成する必要があります。教育課程の編成等については、幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領において、次のように示されています。

【幼稚園教育要領】(平成29年3月告示)

○第1章 総則 第3 教育課程の役割と構成 3 教育課程の編成上の基本的事項

(1) 幼稚園生活の全体を通して第2章に示すねらいが総合的に達成されるよう、教育課程に係る教育期間や幼児の生活経験や発達の過程などを考慮して具体的なねらいと内容を組織するものとする。この場合においては、特に、自我が芽生え、他者の存在を意識し、自己を抑制しようとする気持ちが生まれる幼児期の発達の特性を踏まえ、入園から修了に至るまでの長期的な視野をもって充実した生活が展開できるように配慮するものとする。

【保育所保育指針】(平成29年3月告示)

○第1章 総則 3 保育の計画及び評価 (1) 全体的な計画の作成

イ 全体的な計画は、子どもや家庭の状況、地域の実態、保育時間などを考慮し、子どもの育ちに関する長期的見通しをもって適切に作成されなければならない。

【幼保連携型認定こども園教育・保育要領】(平成29年3月告示)

○第1章 総則 第2 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画等

1 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画の作成等

(3) 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画の作成上の基本的事項

ア 幼保連携型認定こども園における生活の全体を通して第2章に示すねらいが総合的に達成されるよう、教育課程に係る教育期間や園児の生活経験や発達の過程などを考慮して具体的なねらいと内容を組織するものとする。この場合においては、特に、自我が芽生え、他者の存在を意識し、自己を抑制しようとする気持ちが生まれるなどの乳幼児期の発達の特性を踏まえ、入園から修了に至るまでの長期的な視野をもって充実した生活が展開できるように配慮するものとする。

③ 就学前教育と小学校教育との円滑な接続について

幼稚園や保育所等では、計画的に環境を構成し、遊びを中心にした生活において体験を重ねられるようにすることで、子ども一人ひとりに応じた総合的な指導を行っています。一方、小学校では、学習指導要領に基づいて時間割を設定し、教科書を主たる教材として各教科の内容を指導しています。

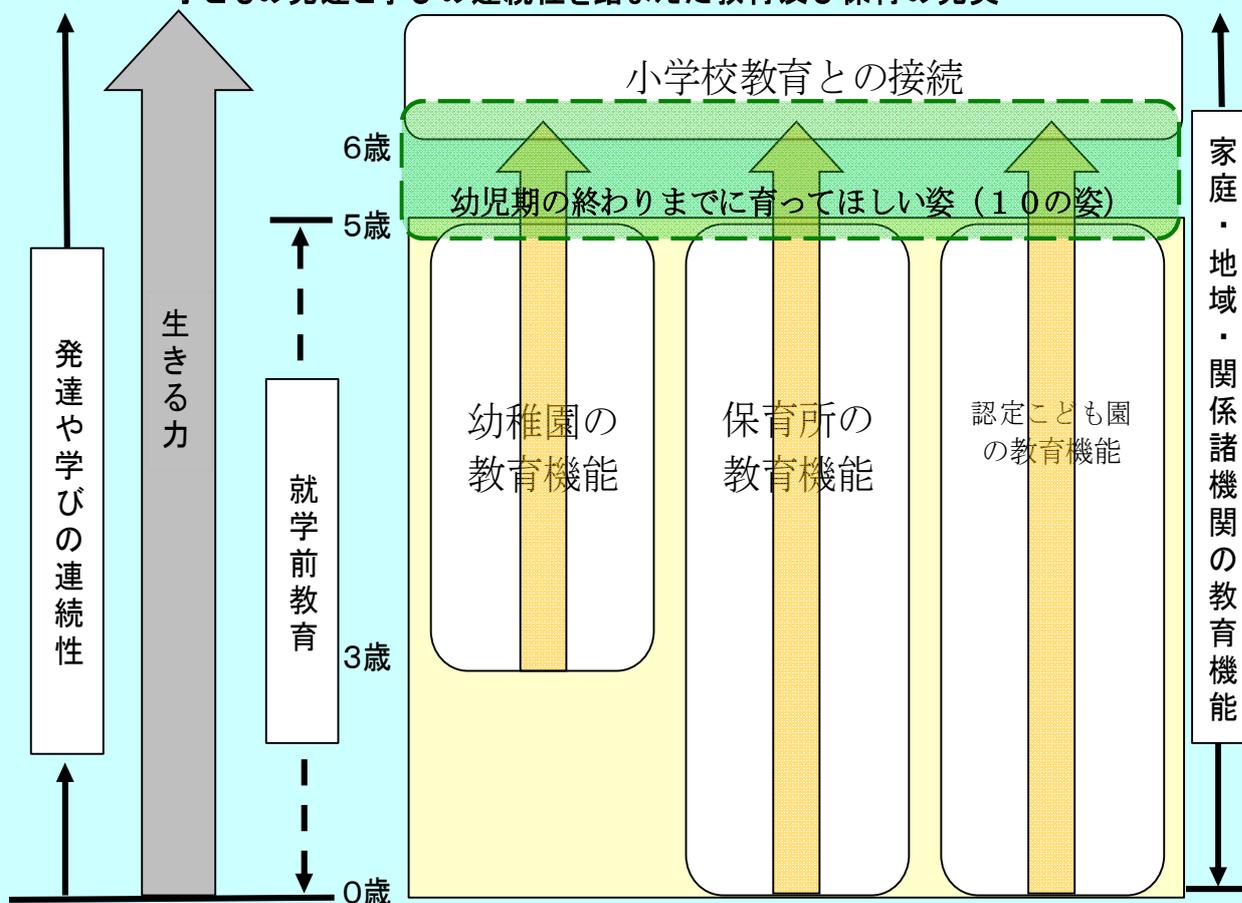
幼稚園や保育園等と小学校とでは、子どもの生活や教育方法等が異なっており、生活の変化に対応できない子どもの姿も見受けられ、小学校第1学年児童の学校への不適応の要因の一つになっているとも考えられます。

しかし、本来、子どもの発達や学びは連続しているものであるため、就学前教育と小学校教育との円滑な接続を図ることは、このような状況を解決する一つの手だてになると考えます。

幼稚園や保育園等では、乳幼児期にふさわしい教育及び保育を行うことが小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながるものであることに配慮する必要があります。一方、小学校では、幼児期における遊びを通した総合的な学びを各教科等における学習へと円滑に移行できるよう工夫することが求められています。

そのため、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼稚園や保育園等の保育者と小学校の教師が子どもの成長を共有することを通して、幼児期から児童期への発達の流れを長期的な視点で捉えることが大切です。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、それぞれが指導方法を工夫し、互いの教育内容や指導方法の違いや共通点について理解を深めるなど、子どもの発達と学びの連続性を踏まえた教育及び保育の充実を図っていく必要があります。

【イメージ図】 生きる力の育成を「軸」に捉えた
子どもの発達と学びの連続性を踏まえた教育及び保育の充実

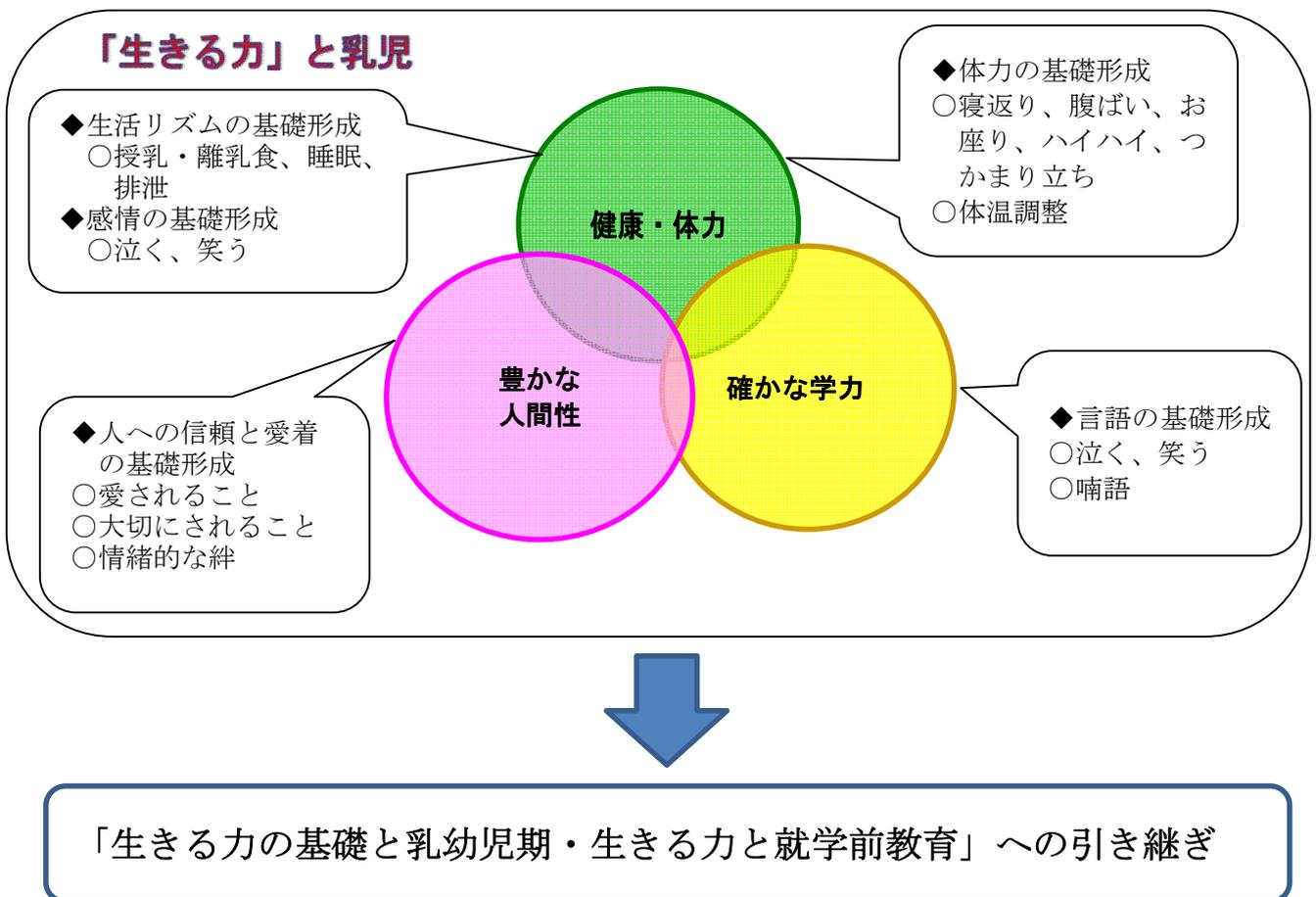


2 就学前教育プログラム改訂版（理論編）の基本的な考え方

(1) 生きる力と0歳児(乳児)の教育・保育の重要性

乳児は、外界への急激な環境の変化に対応し、著しい心身の発達とともに、生活のリズムの形成を始める時期です。特に、視覚、聴覚、嗅覚などの感覚は敏感で、泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、「あーう」「ばぶばぶ」といった喃語(言葉にならない段階の声)により、自分の欲求を表現します。乳児期の教育・保育は、保護者や特定の大人との継続的な関わりにおいて、愛されること、大切にされることで、情緒的な絆(愛情)が深まり、情緒が安定し、人への信頼感を育むなどの人間への基本的信頼と愛情を育んでいく基礎を担っています。この乳児期における「生きる力」は、「健康・体力」「豊かな人間性」「確かな学力」が関連し合い、統合されて発揮される自己の欲求でもあり、特にスキンシップは大きな役割を果たしています。

そのため、乳児は、この基本的な信頼感を心の拠りどころとし、徐々に身近な人に働きかけ、歩行の開始などとともに行動範囲を広げ、自我の意識や社会性が芽生えるため、生きる力につながる援助を保護者や特定の大人が行う必要があります。



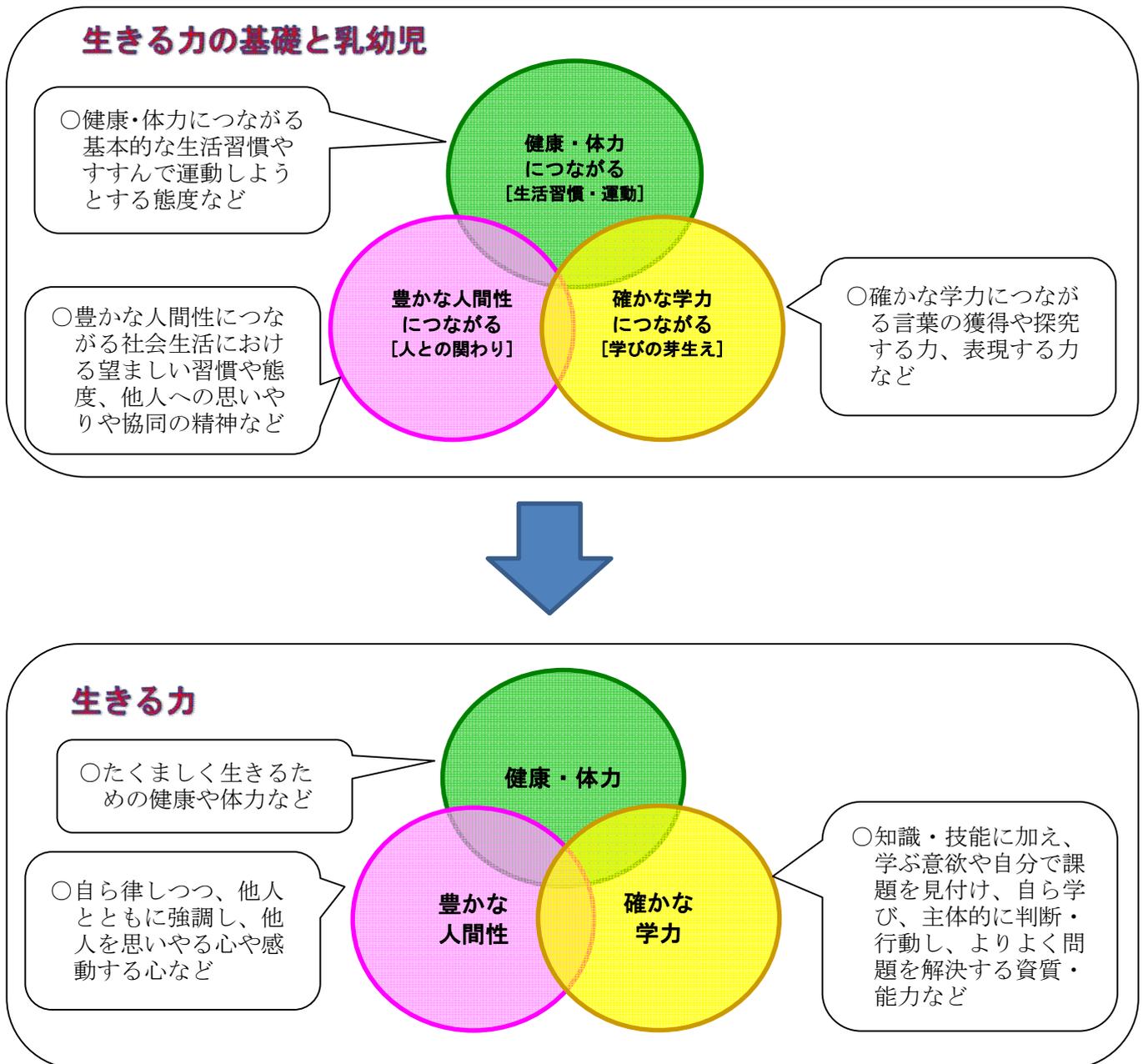
(2) 生きる力の基礎を身に付けた子ども像

乳幼児期は、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培う大切な時期です。就学前教育は、乳幼児期の発達に応じて、知識や技能に加え、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などの「確かな学力」、自らを律しつつ、他人とともに強調し、他人を思いやる心や感動する心などの「豊かな人間性」、たくましく生きるための「健康・体力」からなる生きる力の基礎を培う役割を担っています。

そのため、各幼稚園や保育所等においては、幼児期の教育における見方・考え方（自発的な活動である遊びや生活の中で、幼児が身近な環境に主体的に関わり環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりすること。）を生かし、就学前教育において育みたい資質・能力を育むことで、生きる力の基礎を培う必要があります。

本プログラム改訂版は、生きる力の育成を軸とした就学前教育と小学校教育との接続を踏まえ、乳幼児期の子どもに生きる力の基礎を培うために、発達と学びの連続性を考慮し、0歳児から5歳児の発達に応じて確実に経験させたい内容を明らかにするとともに、具体的な指導方法を例示した、教育課程の編成や全体的な計画、指導計画の作成、日々の教育・保育活動の立案や実施、評価の際に活用できる指導資料です。

本プログラム改訂版では、乳幼児期の子どもに培いたい生きる力の基礎について、次の図のように捉えました。



また、本プログラム改訂版において生きる力の基礎として捉えた、確かな学力につながる〔学びの芽生え〕、豊かな人間性につながる〔人との関わり〕、健康・体力につながる〔生活習慣・運動〕を身に付けた子ども像を、以下のように設定しました。

なお、これらの子ども像は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）を〔学びの芽生え〕〔人との関わり〕〔生活習慣・運動〕の視点で分類したものであると言えます。

確かな学力につながる〔学びの芽生え〕を身に付けた子ども像

- 興味や関心をもったことに主体的に関わったり、そのことを遊びに取り入れたりする。
- 自分の考えを相手に分かるように伝えたり、友達や先生の話に関心をもってすすんで聞いたりする。
- 目的に向かって、繰り返し考えたり、試したりしながら最後までやり遂げる。
- 経験したことを取り入れたり、身近な物や用具などの性質や仕組みを生かしたりして遊びや課題に取り組む。
- 生活や遊びを通して感じたことや考えたことなどを、様々な表現方法で自由に表現することを楽しむ。

豊かな人間性につながる〔人との関わり〕を身に付けた子ども像

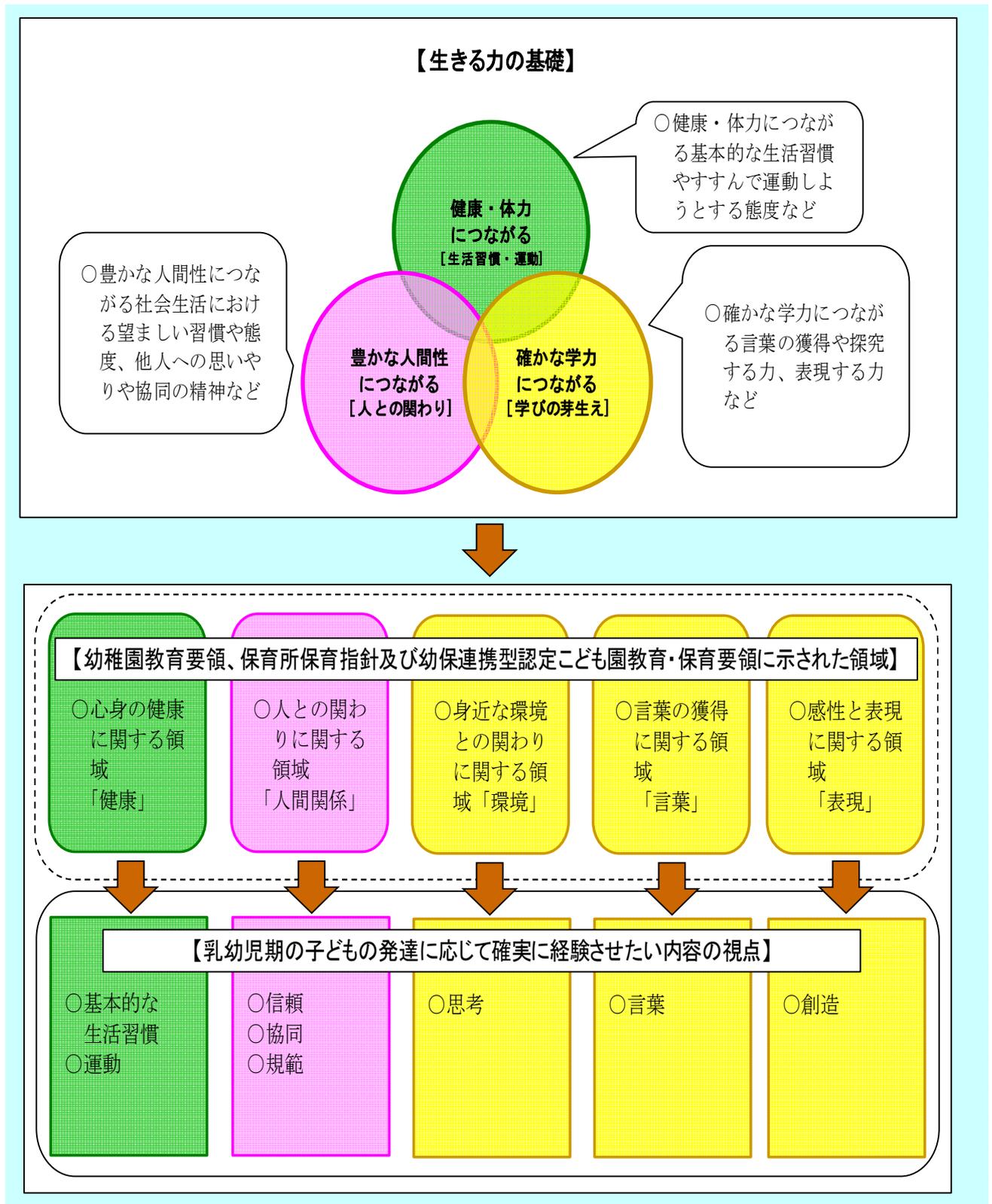
- 様々な人への信頼感をもち、自分の思いや考えを伸び伸びと表現する。
- 友達の思いや考えを受け止め、相手の気持ちを大切に考えながら行動する。
- 友達と互いのよさを感じながら協力したり、一緒に解決策を考えたりしながら遊びを進める。
- 相手も自分も気持ちよく過ごすために、してよいことと悪いことの区別などを考えたり、自分の気持ちを調整したりして行動する。
- 動植物など命のあるものを大切にする。

健康・体力につながる〔生活習慣・運動〕を身に付けた子ども像

- 衣服の着脱、食事、排せつ、片付けなど、生活に必要な活動の必要性に気付き、自分のことは自分でする。
- 体を動かす心地よさを味わい、自分からすすんで遊ぼうとする。
- いろいろな遊びの場面に応じて、体の様々な部位を十分に動かす。
- 友達や保護者と一緒に食べることを楽しむ。
- 集団での生活の流れなどを予測して、自分たちの活動に見通しをもって取り組む。

(3) 乳幼児期の子どもの発達に応じて確実に経験させたい内容の視点

本プログラム改訂版では、幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」の五つの領域について、小学校教育との接続を踏まえながら、生きる力の基礎を培う観点から、乳幼児期の子どもの発達に応じて確実に経験させたい内容の視点を、次のように設定しました。



そして、乳幼児期の子どもの発達に応じて確実に経験させたい内容の視点の趣旨を次のように捉えました。

乳幼児期の子どもの発達に応じて確実に経験させたい内容の視点の趣旨

生きる力の基礎	確かな学力につながる 「学びの芽生え」	思考	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然と触れ合い、様々な事象に興味や関心をもつこと 周囲の環境に好奇心や探究心をもって関わり、遊びや生活に取り入れようとする事 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する興味や関心をもつこと
		言葉	<ul style="list-style-type: none"> 経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現すること 相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を身に付けること 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付くこと
		創造	<ul style="list-style-type: none"> いろいろなものの美しさなどに出合い、様々な表現することなどを通して豊かな感性をもつこと 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむこと いろいろな素材や表現の手段の特性を知り、表現することの楽しさを味わうこと
	豊かな人間性につながる 「人との関わり」	協同	<ul style="list-style-type: none"> 自ら行動しようとする事 他の幼児と共に活動する楽しさを味わうこと 共通の目的が実現する喜びを感じる事
		信頼	<ul style="list-style-type: none"> 自分の感情や意思を表現すること 相手の思いや考えを感じたり受け入れたりすること 人に対する信頼感や思いやりの心をもつこと 自信をもって行動できるようにすること
		規範	<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要な約束やルールを身に付けること よいことや悪いことに気付き、考えながら行動すること 自分の気持ちを調整すること 相手を尊重する気持ちをもって行動すること
	健康・体力につながる 「生活習慣・運動」	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 自分でできることは自分でしようとする事 見通しをもって行動しようとする事 安全や健康に気を付けて行動しようとする事
		運動	<ul style="list-style-type: none"> 体を十分に動かし、すすんで運動しようとする事 体を動かす楽しさや気持ちよさを感じる事 競い合う楽しさやみんなで遊ぶ充実感を味わうこと

(4) 乳幼児期の子どもの発達過程の区分についての考え方

本プログラムにおける乳幼児期の子どもの発達過程については、保育所保育指針を参考に、次のように設定しました。

	発達過程の区分	発達の特徴
乳児保育	おおむね6か月未満 	<ul style="list-style-type: none"> ○首がすわり、手足の動きが活発になり、その後、寝返り、腹ばいなど全身の動きが活発になる。 ○視覚、聴覚などの感覚の発達はめざましく、泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで自分の欲求を表現し、これに応答的に関わる特定の大人との間に情緒的な絆が形成される。
	おおむね6か月から1歳3か月未満 	<ul style="list-style-type: none"> ○座る、はう、立つ、伝い歩きといった運動機能が発達すること及び腕や指先を意図的に動かせるようになることにより、周囲の人や物に興味を示し、探索活動が活発になる。 ○特定の大人との応答的な関わりにより、情緒的な絆が深まり、あやしてもらおうと喜ぶなどやり取りが盛んになる一方で、人見知りをするようになる。 ○身近な大人との関係の中で、自分の意志や欲求を身振りなどで伝えようとし、大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉が分かるようになる。 ○食事は、離乳食から幼児食へ徐々に移行する。
1歳以上3歳未満児の保育	おおむね1歳3か月から2歳児未満 	<ul style="list-style-type: none"> ○歩き始め、手を使い、言葉を話すようになることにより、身近な人や身の回りの物に自発的に働きかけていく。 ○歩く、押す、つまむ、めくるなど様々な運動機能の発達や新しい行動の獲得により、環境に働きかける意欲を一層高める。その中で、物をやり取りしたり、取り合ったりする姿が見られるとともに、玩具などを実物に見たてるなどの象徴機能が発達し、人や物との関わりが強まる。 ○大人の言うことが分かるようになり、自分の意思を親しい大人に伝えたいという欲求が高まる。 ○指差し、身振り、片言などを盛んに使うようになり、二語文を話し始める。
	おおむね2歳 	<ul style="list-style-type: none"> ○歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能や、指先の機能が発達する。それに伴い、食事、衣類の着脱など身の回りのことを自分でしようとする。 ○排せつの自立のための身体的機能が整ってくる。 ○発声が明瞭になり、語彙も著しく増加し、自分の意志や欲求を言葉で表出できるようになる。行動範囲が広がり探索活動が盛んになる中、自我の育ちの表れとして、強く自己主張する姿が見られる。 ○盛んに模倣し、物事の中の共通性を見いだすことができるようになるとともに、象徴機能の発達により、大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむようになる。
3歳以上児の保育	3歳児 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活(食事、排せつ、衣服の着脱など)がほぼ自分でできるようになる。 ○基本的な運動機能が発達し、話し言葉が豊かになり会話を楽しむようになる。 ○自分の思いを主張しながらも友達と同じ場所で遊んだり簡単な集団での遊びを楽しんだりするようになる。 ○自分を中心に考える時期である。
	4歳児 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動のバランス、コントロールが取れるようになり、協応動作(ボール投げなど)も上手になり、異なる2種類以上の行動を同時に行えるようになる。 ○周囲の環境に強い関心を持ち、身近な自然物、事物・事象と触れ合う中で友達と発見し合ったり、工夫し合ったりして遊びを豊かにしていく。 ○言葉による表現が進み、友達に自分のイメージを伝えて、一緒に遊びを楽しむようになる。
	5歳児 	<ul style="list-style-type: none"> ○全身運動が滑らかで巧みになる。 ○細かい指先の動きが滑らかになり道具の扱い、操作ができるようになる。 ○自分なりに判断したり批判したりする力が生まれ、自分と違う思いや考えを認めたり、社会生活に必要な力を身に付けて行動できるようになる。 ○生活や遊びに見通しをもち、友達と相談しながら活動を発展させていくようになる。 ○今までの知識や経験を生かして創意工夫を重ね、友達と遊びを発展させていくようになる。

(5) 0歳児から5歳児・小学校入門期の発達に応じて確実に経験させたい内容 ① おおむね6か月未満～おおむね2歳

発達の特徴		おおむね6か月未満		おおむね6か月から1歳3か月未満		1歳3か月から2歳未満		おおむね2歳	
		たっぷり飲んで、ぐっすり眠れるように		身の回りへの興味の芽生えを大切に		自分から関わろうとする姿を大切に		じぶんでできた！を大切に	
生きる力の基礎と子ども発達に応じて確実に経験させたい内容の視点	「学びの芽生え」 確かな学力につながる	思考 興味・関心 好奇心 探究心 など	○首がすわり、手足の動きが活発になり、その後、寝返り、腹ばいなどの全身の動きが活発になる。 ○視覚、聴覚などの感覚の発達はめざましく、泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで自分の欲求を表現し、これに应答的に関わる特定の大人との間に情緒的な絆が形成される。	○座る、はう、立つ、伝い歩きといった運動機能が発達すること、及び腕や指先を意図的に動かせるようになることにより、周囲の人や物に興味を示し、探索活動が活発になる。 ○特定の大人との应答的な関わりにより、情緒的な絆が深まり、あやしてもらおうと喜ぶなどやり取りが盛んになる一方で、人見知りをするようになる。 ○身近な大人との関係の中で、自分の意思や欲求を身振りなどで伝えようとし、大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉が分かるようになる。 ○食事は、離乳食から幼児食へ徐々に移行する。	○歩き始め、手を使い、言葉が話すようになることにより、身近な人や身の回りの物に自発的に働きかけていく。 ○歩く、押す、つまむ、めくるなどの様々な運動機能の発達や新しい行動の獲得により、環境に働き掛ける意欲を一層高める。その中で、物をやり取りしたり、取り合ったりする姿が見られるとともに、玩具等を実物に見たてなどの象徴機能が発達し、人と物との関わりが強まる。 ○大人の言うことが分かるようになり、自分の意思を親しい大人に伝えたいという意欲が高まる。 ○指差し、身振り、片言などを盛んに使うようになり、二語文を話し始める。	○歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能や、指先の機能が発達する。それに伴い、食事、衣類の着脱などの身の回りのことを自分でしようとする。 ○排せつの自立のための身体機能が整ってくる。 ○発音が明確になり、語彙も著しく増加し、自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになる。行動範囲が広がり探索活動が盛んになる中、自我の育ちの表れとして、強く自己主張する姿が見られる。 ○盛んに模倣し、物事間の共通性を見出すことができるようになるとともに、象徴機能の発達により、大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむようになる。			
		言葉 話す・聞く 伝え合う 言葉に対する感覚など	○音を聞く、物を見る、握る、つかむ、しゃぶるなどの動きを十分に する。 ○機嫌のよいときには盛んに喃語で話す。	○戸外に出ることや散歩に行くことを喜び、周囲の物事や動物などに興味を示す。 ○興味のある所へ自分で移動し、触る、なめる、見る、登る、降りる、押す、引っ張るなどして遊ぶ。 ○保育者に見守られながら、遊具や身の回りのもので一人遊びを十分に する。 ○保育者のすることに興味をもって、動作をまねたり、いろいろな音声や音節を繰り返したりする。 ○保育者に優しく語り掛けられることにより、喜んで声を出したり、応えようとしたりする。 ○保育者と一緒に、水、砂、土、紙、小麦粘土など様々な素材に触れる。 ○保育者が歌ったり手遊びをしたりしてくれるのを喜ぶ。	○戸外の自然に触れながら、植物や小動物などに関心をもつ。 ○室内、戸外で探索活動を十分に楽しむ。 ○保育者の話し掛けや絵本を読んでもらうことなどにより言葉を理解したり、簡単な単語を使ったりする。 ○ちぎる、破く、クレヨンでなぐり描きをするなどの手や指先を使った遊びを十分に楽しむ。 ○砂遊びや水遊びなどを楽しみ、様々なものの感触を楽しむ。 ○保育者と一緒に歌を歌ったり、リズム遊びを楽しんだりする。	○戸外で花や石など、自分の気に入ったものを手に取って遊ぶことを喜ぶ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉でのやり取りを楽しむ。 ○保育者に話し掛けられることを喜び、自分も同じ言葉を使ってみようとする。 ○保育者の話し掛けや絵本を通じて、リズムある言葉や繰り返しの言葉に興味をもち、自分で言うことを楽しむ。 ○のりやはさみなどに興味をもち、保育者と一緒に使いながら、遊びを楽しむ。			
		創造 感性 イメージ 素材や表現方法との出会い など							
生きる力の基礎	「人との関わり」 豊かな人間性につながる	協同 共感 調整 自己理解 他者理解 など	○あやされることを喜び、声を出したり笑ったりする。 ○声や泣き声で自分の欲求を表し、なだめられたり、受け入れてもらったりすることで安心する。	○保育者と視線を合わせ、表情やなん語などを通してやり取りを喜ぶ。 ○心地良いときは笑ったり、ほほえんだりし、不快なときは泣いて欲求を表す。 ○保育者の語り掛けや働き掛けに、声を出したり、応えようとしたりする。	○生活や遊びの中で保育者を仲立ちとして、簡単な単語や物のやり取りをする。 ○保育者と触れ合ったり、話をしたりすることを通じて気持ちを通わせる。 ○表情や身振りなどで自分の気持ちを表したり、簡単な言葉を使ったりする。	○一人遊びを楽しみながら、保育者が仲立ちとなり、友達にも関心をもって遊ぶ。 ○自分がしてほしいことを身振りや言葉で伝える。 ○自分で表した気持ちや欲求を受け止めてもらうことを喜ぶ。			
		信頼 自己表出 受容 自信 思いやり など	○落ち着いた雰囲気の中で、抱く、あやす、語り掛けるなどをしてもらうことで、安定した気持ちと喜びを味わう。						
		規範 善悪に気付く きまり ルール など							
「生活習慣・運動」 健康・体力につながる		基本的な生活習慣 生活リズム 安全 健康 自立 など	○安心して寝入ったり目覚めたりする。 ○乳汁以外のものを飲んだりスプーンに慣れたりする。 ○オムツがぬれていた、汚れたりしたときに取り替えてもらい、気持ちのよさを感じる。 ○活発に手足を動かしたり、腹ばいで身体の前についで上体をそらしたり、寝返りをしようとしたりする。	○ほぼ決まった時間に眠り、機嫌よく目覚める。 ○一人ひとりの状態に応じた離乳食を食べることで、いろいろな食品の味や形態に慣れる。 ○食べることに期待をもち、お腹がすいたら催促をする。	○一定時間午睡をする。 ○いろいろな食べ物に興味をもって口に入れてみる。 ○スプーンやフォークを使って、保育者に手伝ってもらったり、自分で食べようとしたりする。 ○おしっこが出ると言葉やしぐさで教えたり、嫌がらずにおまるや便器に座ったりする。 ○歩く、走る、上る、下りる、ぶら下がるなど全身を使った遊びを十分に楽しむ。	○楽しい雰囲気の中で、様々な食べ物を食べてみようとする。 ○食べ物の種類により、スプーン、フォークなどを使って食べる。 ○保育者に見守られ、トイレでの排せつに慣れる。 ○パンツやズボン、前開きやかぶりものの服の着脱の仕方を知り、一人でしてみようとする。 ○自分の所持品(タオル、コップなど)を保育者と一緒に支度する。 ○保育者の表情や言葉掛けで、危ないことに気付く。 ○保育者と一緒に身近な遊具や用具に関わって遊んだり、戸外で十分に体を動かすことを楽しんだりする。			
		運動 体を動かす楽しさ 体力 など							

② 3歳児～5歳児

発達の特徴		3歳児	4歳児	5歳児	
		自分なりの表し方や関わり方が十分に楽しめるように	先生や友達と一緒に生活する楽しさを大切に	友達と力を合わせて生活を進めていけるように	
生きる力の基礎と子どもの発達に応じて確実に経験させたい内容の視点	確かな学力につながる「学びの芽生え」	思考 興味・関心 好奇心 探究心 など	○基本的な生活(食事、排せつ、衣服の着脱など)がほぼ自分でできるようになる。 ○基本的な運動機能が発達し、話し言葉が豊かになり会話を楽しむようになる。 ○自分の思いを主張しながらも友達と同じ場所で遊んだり簡単な集団での遊びを楽しんだりするようになる。 ○自分を中心に考える時期である。	○運動のバランス、コントロールが取れるようになり、協応動作(ボール投げなど)も上手になり、異なる2種類以上の行動を同時に行えるようになる。 ○周囲の環境に強い関心を持ち、身近な自然物、事物・事象と触れ合う中で友達と発見し合ったり、工夫し合ったりして遊びを豊かにしていく。 ○言葉による表現が進み、友達に自分のイメージを伝えて、一緒に遊びを楽しめるようになる。	○全身運動が滑らかで巧みになる。 ○細かい指先の動きが滑らかになり遊具の扱い、操作ができるようになる。 ○自分なりに判断したり批判したりする力が生まれ、自分と違う思いや考えを認めたり、社会生活に必要な力を身に付けて行動できるようになる。 ○生活や遊びに見通しをもち、友達と相談し活動を展開させていくようになる。 ○今までの知識や経験を生かして創意工夫を重ね、友達と遊びを発展させていくようになる。
		言葉 話す・聞く 伝え合う 言葉に対する感覚など	○親しみをもって保育者の話を聞いたり、困ったことややってほしいことを言葉で伝えたりする。 ○「入れて」「貸して」など身近な生活の中で必要な言葉に気付き、自分も使ってみる。 ○挨拶などをする楽しさを感じる。 ○絵本や紙芝居を繰り返し見たり聞いたりすることを楽しむ。	○自然の美しさに触れて感動したり、自然物を使って遊ぶことを楽しんだりする。 ○身の回りの物の色、形などに興味をもち、集める、分ける、組み合わせるなどしながら遊ぶ。 ○重い、軽い、固い、柔らかい、伸びる、縮むなどの物の性質に気付き、遊びに取り入れる。 ○身近な道具の使い方がほぼ分かり、様々な場面で積極的に使おうとする。 ○気に入った絵本や図鑑などに興味をもち、繰り返し見たり楽しむ。 ○具体的な物を通して、数や量などに関心を持ち、簡単な数の範囲で数えたり比べたりすることを楽しむ。	○友達のことを受け入れたり、自分の思いを伝えたりしながら話すことを楽しむ。 ○遊びや生活の中で必要なことを、相手に分かるように話し方や言葉を考えて伝えようとする。 ○聞いて心地よい言葉やうれしい言葉があることに気付き、自分も使おうとする。 ○すすんで挨拶をしたり、みんなの前で話をしたりする。 ○様々な体験を通してイメージを豊かにし、言葉で表現する。 ○絵本や物語などに親しみ、想像する楽しさを味わったり自ら表現したりして、言葉の面白さや美しさを味わう。
		創造 感性 イメージ 素材や表現方法との出会い など	○身近な素材や用具を使って好きなように描いたり作ったりして楽しむ。 ○動物や乗り物など、身近なものの動きを模倣して、体で表現することを楽しむ。 ○保育者と一緒に歌ったり簡単な手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりなどして遊ぶ。	○様々な素材に関わり、作った物を使って遊んだり、保育者や友達と一緒に身の回りを飾ったりして楽しむ。 ○自分なりに工夫して表現することを楽しむ。 ○音楽に親しみ、友達と一緒に聴く、歌う、体を動かす、簡単なリズム楽器を鳴らすなどして楽しむ。 ○絵本等の中の人や身近な動物などになりきって遊んだり、音楽やリズムに合わせて動いたりすることなどを楽しむ。	○様々な素材や用具を利用して、自分なりに描いたり作ったりすることを楽しむ。 ○音楽に親しみ、友達と一緒に聴く、歌う、踊る、楽器を鳴らすなど、音色の美しさやリズムの楽しさを味わう。 ○友達と一緒に工夫して描いたり作ったりすることを楽しみ、それを遊びに使ったり飾ったりする。 ○物語のストーリーに沿って友達と遊びを進めたり、友達とイメージを出し合ったりして遊ぶことを楽しむ。
		協同 共感 調整 自己理解 他者理解 など	○保育者や友達と一緒に活動することを喜ぶ。 ○同じ場所にいる友達と関わり、触れ合って遊ぶことを楽しむ。 ○保育者や友達と、使う物を一緒に運んだり片付けをしたりする。 ○安心感をもって伸び伸びと自分を表して行動する。	○仲の良い友達の中で、思いや考えを出し合いながら遊ぶ楽しさを味わう。 ○うまくいかないことや葛藤場面を通じて、相手にも思いや考えがあることに気付く。 ○自分から友達に何かをしてあげたり、してもらったりすることを喜ぶ。 ○クラスの友達と声や動きなどがそろ心地よさを感じる。	○友達との考えの違いやうまくいかない経験を通じて、友達と工夫したり折り合いを付けたりしながら、問題や課題を乗り越えようとする。 ○友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見出し、協力して物事をやり遂げる充実感を味わう。 ○共通の目的をもって遊ぶ中で友達の思いや考えを受け入れ、一緒に遊びを進めることを楽しむ。 ○友達と活動する中で、互いのよさを認め合う。 ○一人ではできないことが友達と一緒にできる喜びや満足感を味わう。
生きる力の基礎	豊かな人間性につながる「人との関わり」	信頼 自己表出 受容 自信 思いやり など	○したことや感じたことなどを、保育者に受け止められ、安心感をもつ。 ○自分の思ったことや感じたことを言葉や行動など、自分なりに表現しようとする。 ○身近な様々な人と触れ合うことを喜ぶ。 ○自分なりにやってみて、できた喜びを十分に味わう。	○保育者や友達の言っていることや考えていることを受け止めて行動しようとする。 ○異年齢の子供に親しみをもったり、すすんで遊んだりする。 ○園内の大人や地域の方などに親しみを持ち、一緒に活動する楽しさを感じる。 ○自分なりにやり遂げた満足感や、身近な人に認められることを通じて、自信をもつ。	○自分の思ったことを相手に分かるように伝えたり、相手の話していることを相手の立場に立って受け入れたりする。 ○身近な友達との関わりを深めるとともに、異年齢の子供など、様々な友達と関わり、思いやりや親しみをもつ。 ○高齢者をはじめ地域の方など、自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。 ○繰り返し挑戦して達成したり、様々な人に認められたりすることを通じて、自信をもつ。
		規範 善悪に気付く きまり ルール など	○生活や遊びの中での簡単なきまりがあることを知り、それを守ろうとする。 ○友達の反応や保育者の働き掛けから、やって良いことと悪いことが分かる。 ○遊具や用具の貸し借りや、交代でする、順番を待つなどをする中で、楽しく遊べるのが分かる。 ○みんなで使う物があることが分かり、一緒に使おうとする。	○友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。 ○簡単なルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。 ○やって良いことと悪いことが分かり、状況を感じて自分なりに行動しようとする。 ○共同のものを大切にして、みんなで使う。	○友達と一緒に遊びを発展させる中で、自分たちで遊び方やきまりをつくり出し、守って遊ぶ。 ○やって良いことと悪いことがあることが分かり、考えながら行動する。 ○共同の遊具や用具を大切に、譲り合って使う。 ○生活に必要なことを友達と一緒に進め、自分の役割を果たすことに喜びを感じる。
		基本的な生活習慣 生活リズム 安全 健康 自立 など	○楽しい雰囲気の中で、食べ物をすすんで食べようとする。 ○身の回りの清潔や衣服の着脱、食事、排せつなど生活に必要な活動が自分であることを喜ぶ。 ○保育者の援助を受けながら、危ない場所や遊び方を知り、気を付けようとする。	○食べることを楽しみ、食べ慣れない物や嫌いな物でも少しずつ食べようとする。 ○遊びや生活に必要な準備や片付けなど、やり方が分かりすすんで行おうとする。 ○自分の健康に関心を持ち、うがい、手洗いや衣服の調整などをすすんで行おうとする。 ○園生活のきまりや危険なことが分かり、約束を守って行動する。	○健康と食べ物に関心を持ち、何でも残さずに食べようとする。 ○身の回りの物の始末や片付けの必要性が分かり、考えながら行動する。 ○うがいや手洗いなど病気の予防に必要な活動を理解し、すすんで行う。 ○危険な物や場所、遊び方が分かり、状況を判断して、安全に気を付けて遊ぶ。
運動 体を動かす楽しさ 体力 など	○保育者と一緒に戸外で体を動かすことを喜ぶ。 ○身近な遊具や用具などを使った運動や遊びを楽しむ。 ○自分なりに体を動かす心地よさを味わう。	○いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 ○遊具、用具などを使い、様々な動きを組み合わせ積極的に遊ぶ。 ○簡単なルールの下で、体を動かす遊びを楽しむ。	○戸外で、友達と一緒にすすんで様々な運動や遊びをする。 ○様々な運動用具を進んで使い、工夫して遊ぶ。 ○自分の目的に向かって繰り返し挑戦したり、チーム対抗の遊びを楽しんだりする。		

③小学校入門期と入学当初期

発達の特徴 生きる力の基礎と子ども もの発達に応じて 確実に経験させたい 内容の視点		小学校入門期 安心して生活し、自信をもって自己表現ができるように		小学校入学当初期 児童が安心して生活し、主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことができるように		
		○学校には、きまりや時間割などがあることに慣れ、適応しようとする。 ○同年齢の仲間のほか、多くの出会いがある中で、相手に親しみをもって関わろうとする。 ○先生に質問したり、先生の言うことを聞いて行動したりしながら、自分自身のことを知ってもらう。 ○各教科等の学習に興味・関心をもって取り組もうとする。		○幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれたことを各教科等における学習に生かそうとする。 ・知識・技能の習得 ・思考力・判断力・表現力等の育成 ・学びに向かう力、人間性等の涵養		
生きる力の基礎	確かな学力につながる 「学びの芽生え」	思考	○目の前にある物事について見通しをもつとともに、試行錯誤しながら筋道だてて考える。 ○学校探検やアサガオの栽培などの体験を通して、自分と身近な人々や自然との関わりに関心をもつ。 ○50音のひらがなを習得し、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。 ○具体物や絵、図などを用いた活動などを通じて、数についての感覚を豊かにする	学びに向かう	生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画を作成する	
		言葉	○興味・関心をもった身近なことについて意欲的に話したり聞いたりする。 ○相手に応じて、事柄の順序に気を付けながら話したり、大事なことを落とさないように興味をもって聞いたりする。 ○姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意してはっきりとした発音で話す。 ○内容の大体をつかみ、想像を広げながら読む。 ○物語や昔話、神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞き、話の面白さや語り口調、言い回しなどを楽しむ。		具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。(知識・技能の基礎) (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。(思考力・判断力・表現力等の基礎) (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働き掛け、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)	
		創造	○身近な教材や扱いやすい用具を用いて、感じたことや想像したことを思いのままに表現することを楽しむ。 ○わらべ歌や身体を動かしながら歌う喜びを味わい、音楽の楽しさに触れる。 ○身近な楽器に関心を持ち、音色のよさや面白さを感じて演奏する。 ○遊びに使う物を作ったり、遊び方を工夫したりしながら、楽しく過ごす。		生きる力の基礎	
	豊かな人間性につながる 「人との関わり」	協同	○楽しく学校生活を送るために、周りの友達と仲良く助け合い、課題を解決しようとする。 ○働くことのよさを感じて、みんなのために働くなどして学級生活を楽しくする。 ○気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。 ○互いの意見をよく聞いたり、気遣ったりして、仲よく助け合って話し合いを進める。		確かな学力につながる「学びの芽生え」思考・言葉・創造 豊かな人間性につながる「人との関わり」協同・信頼・規範 健康・体力につながる「生活習慣・運動」基本的な生活習慣・運動	
		信頼	○幼い子どもや高齢者など、身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。 ○自分でできるようになったことや生活での自分の役割が増えたことなどを喜び、自分の成長を支えてくれている人々に気付き、感謝の気持ちをもつ。 ○父母や祖父母を敬愛し、すすんで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。 ○先生を敬愛し、家族や友達、地域の様々な人と慣れ親しむ。		◆生活指導 ◆教科指導 国語、算数、音楽、図工、体育・特別な教科 道徳 ◆領域等 総合的な学習の時間の活動、特別活動 ◆特色ある教育活動	
		規範	○よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことをすすんで行う。 ○してはならないことはしないで、素直に伸び伸びと生活する。 ○約束やきまりを守り、みんなで使う物や場所、施設を大切に使う。		入学式・学級びらき・一年生を迎える会・対面式	
	健康・体力につながる 「生活習慣・運動」	基本的な生活習慣	○早寝、早起き、朝ご飯の習慣を身に付けようとする。 ○笑顔で挨拶、元気に返事、きれいに後始末をしようとする。 ○健康・安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで規則正しい生活をしようとする。 ○自分がやらなければならない勉強や仕事はしっかりやろうとする。			
		運動	○誰とでも仲よく、健康・安全に留意して意欲的に運動をする。 ○簡単なきまりや活動を工夫して、楽しみながら各種の運動をする。 ○体づくり運動、器械・器具を使つての運動遊びを、走・跳の運動遊び、水遊び、ゲーム、表現リズム遊びなどを通じて、基本的な動きを身に付ける。			

④各時期に応じた家庭との連携

0 歳児

5 7 日頃～3 か月頃	3 か月頃～6 か月頃	6 か月頃～9 か月頃	9 か月頃～1 2 か月頃
<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳のやり取りやお迎えの時間に温かく対応し、保護者との信頼関係をつくっていく。 家庭での様子を聞いたり、保育中の睡眠、授乳、排せつ、機嫌、行動の様子などを伝えたりして、情報を共有していく。 ミルクの量や、授乳にかかる時間は個人差が大きいので、個々に合わせて哺乳びんの乳首のサイズなどを、保護者と確認していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 昼は起きて明るいところで生活し、たっぷり遊んでよく飲み、夜は暗くして眠るなど、生活のリズムをつくっていく大切さを、個人差に応じて伝えていく。 成長の変化が目覚ましい時期である。保護者と成長を喜びながら、家庭で気を付けること（子どもの手の届くところに危険な物は置かない、子どもは大人が予想する以上に動くことを考慮する、起きているときには応答的に関わる、準備食の内容やタイミングなど）を知らせ、保護者が安心して子どもの動きたい欲求に応えたり、離乳食への移行を行ったりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ピポットターンの際、爪先で蹴るという行動をたくさんすることが、その後のはいはいや歩行に向けて重要になる。また、衛生、安全面に気を付け、子どもが十分に働く楽しさを味わうことの大切さを伝える。 離乳食を進めるに当たり、家庭でもアレルギー反応がないか確認してもらい、連携を取り合う。 母子免疫が消滅する時期であり、発熱など病気感染が頻繁になるため、病気の予防法や知識などの保健指導を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> つかまり立ちや伝い歩きをするようになってくるので、しりもちや転倒などに気を付け、危険のないように注意する。 そしゃく能力が獲得できるよう、「かみかみゴックン」と言いながら大人が口を動かして見せるなど具体的な方法を知らせる。 はいはいが十分ではない子どもには歩かせることを急がず、はいはいの経験を重ねる大切さを発達の見通しと合わせて伝える。 動いても腹部が出にくい、ひっかかりにくい、伸縮性があるなど、この時期の体の動きに応じた動きやすい服装を知らせる。

1 歳児

I 期（4 月～5 月）	II 期（6 月～8 月）	III 期（9 月～1 0 月）	IV 期（1 1 月～1 2 月）	V 期（1 月～3 月）
<ul style="list-style-type: none"> 家庭での様子（食事、睡眠、排せつ、好きな遊び）を聞き、家庭と同じように接しながら少しずつ安心して過ごせるようにする。 園での様子を伝え、子どもや保護者との信頼関係を深めていく。 連絡帳を用いて、家での様子を伝えてもらったり、園での様子を伝えたりしていく（通年） 	<ul style="list-style-type: none"> 天候や気温の変化により、体調の変化を起こしやすいので、家庭や園での様子を丁寧に伝え合う。また、感染症や食中毒などの予防について配布物等で伝え、健康について十分配慮し合う。 汗をかいたり、水遊びをしたりする機会が増えて、着替えをすることが多くなるので、着替えを多く用意してもらおうようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事や保育参観を通して子どもの姿を見てもらい、共に成長を喜び合う。また、簡単な身の回りのことを自分でしたがるようになるので、発達の特徴や保育者の接し方を伝え、家庭でも時間や気持ちに余裕をもって接してもらおうようにする。 季節の変わり目で体調を崩しやすくなるので、園や家庭での子どもの様子を伝え合い、家庭での食事や睡眠に十分気を付けてもらうようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人差が大きくなる時期なので、一人ひとりの発達に合わせた対応をすることが大切であることを知らせていく。 感染症が流行する時期なので手洗いをしっかりと行い、健康状態を把握できるよう連絡を取り合う。 友達への関心が芽生え、関わって遊ぶようになってくる。物の取り合いやけんかなど、時にはぶつかり合うことも成長の表れであることを知らせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 連絡ノートや登降園時に園での子どもの活動の様子を知らせ、子どもが様々な姿を見せながら成長していくことの喜びを伝え、共感していく。 身の回りのことを自分でしようとする姿が見られたら、その姿を伝え、家庭でも子どもの成長として受け止め、見守ってもらえるようにする。また、服や靴などは自分で着脱しやすいような物を準備してもらえるように、具体的な見本等を示して伝えていく。 生活や遊びの中での言葉のやり取りをクラス便りなどで紹介し、家庭でも簡単な会話を楽しんでもらおうようにする。

2 歳児

I 期（4 月～5 月）	II 期（6 月～8 月）	III 期（9 月～1 0 月）	IV 期（1 1 月～1 2 月）	V 期（1 月～3 月）
<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境での子どもの様子を細やかに知らせ、安心してもらうとともに、保護者との信頼関係を築いていく。 保育室など生活環境が変わるため、子どもは心身ともに疲れやすくなり、甘えが見られることもある。子どもの様子を互いに伝え合うなど、連携を密にするようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが何でも自分でやりたがり、盛んに自己主張をするため、保護者が子育てに戸惑いや不安を感じる時期でもある。保護者会などで保護者同士が率直な思いを出して話せるようにしたり、この年齢の発達の道筋を伝えたりして、保護者の気持ちに寄り添い、一緒に子どもの育ちを見守っていく。 子どもが自分でできる喜びを感じられるように、着脱しやすい服や脱ぎ履きしやすい靴を準備してもらおうように伝える。 感染症（とびひ、結膜炎、溶連菌感染症など）について、家庭に知らせ、健康状態について連絡を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自我の芽生えや自分でやろうとする気持ちを受け止めて経験させることで、子どもが変容してきていることを具体的に伝えて成長を確認し、保護者を支えていく。 運動会や遠足など、行事が多くなることを伝え、子どもが動きやすい靴や着替えを用意してもらおうようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の育児の悩みや子育ての参考になる情報を、クラスだよりなどを介して紙面上で交流し合い、安心して楽しく子育てができる環境づくりをしていく。 子どもがやりやすい衣服の裏表の返し方や、園での声の掛け方を具体的に知らせ、家庭でも行えるようにする。また、自分でできたという喜びが感じられるように、家庭でも見守ったり、認めたりしてもらおうように伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の具体的な姿から一人ひとりの子どもの成長を伝え、喜び合うことで、子どもも保護者も進級への期待や安心感をもてるようにする。また、集団としての子どもたちの成長や、子ども同士の関わり方など、3 歳児での成長につながっていくことを伝える。 進級に伴い、園と家庭の連絡方法や持ち物などが変わる場合にはあらかじめ説明をし、保護者も安心して移行できるようにする。

3 歳児

I 期（4月～5月）	II 期（6月～9月上旬）	III 期（9月中旬～10月）	IV 期（11月～12月）	V 期（1月～3月）
<ul style="list-style-type: none"> 進級、入園による喜びや不安を受け止め、園の様子を伝えるとともに家庭での様子を聞き、幼児も保護者も安心して園生活を楽しむことができるようにする。 幼児が自分で身の回りのことができるように、扱いやすい所持品の用意を具体的に依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が保育に参加する機会をつくり、体験を通して子どもの姿を知ったり、保護者同士の関わりを深めたりして、園の保育・教育に関心がもてるようにする。 排便後の始末（トイレトペーパーの使い方や拭き方など）について具体的に知らせ、家庭と一緒に進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会などの取組や参加の仕方は個人差があることを伝え、その子なりの成長を感じてもらえるようにする。また、他学年の子ども様子も見てもらい、成長への期待や見通しをもって、3歳児の成長の様子を理解してもらうようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 園で楽しんでいる秋の自然に関わる遊びや、散歩コースの紅葉や木の実を拾える場所などをクラスだよりや写真の掲示などで知らせ、家庭でも自然に親しむとともに、親子の関わりを大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの1年間の成長を具体的に保護者と伝え合い、喜びを共感しながら進級する気持ちへつなげる。 個人差が大きく進級に向けての不安な気持ちをもつこともあるが、今できることを十分に認め、成長を見守ってもらうようにする。

4 歳児

I 期（4月～5月）	II 期（6月～9月上旬）	III 期（9月中旬～10月）	IV 期（11月～12月）	V 期（1月～3月）
<ul style="list-style-type: none"> 進級や入園による喜びや不安に対して、共感したり励ましたりしながら、一緒に子どもを支えていけるようにする。 4歳児は友達との関わりが増えるので、トラブルや友達関係などの不安なことは、担任をはじめ園の職員にいつでも相談できることを伝え、1年間の成長を共に見守っていきけるような関係づくりに努める。 園での様子を伝えたり家庭での様子を聞いたりしながら、保護者との信頼関係を築いたり深めたりしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや友達同士の関わり方など、様々な様子が見られる時期である。言葉の使い方や思いの表し方などの実態や、相手への関わり方に気付いていけるように保育者が援助していることをクラス便りなどで知らせ、家庭への理解を図るとともに、一緒に成長を見守っていきけるように連携を図る。 大人が先に指示をしたりせず、子どもが自分で行おうとしている気持ちを尊重し、温かく見守っていくことが自信や意欲につながることを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の遊びを積み重ねることが行事の内容やそこでの子どもの姿に生きることを、懇談会やクラスだよりなどで伝える。また、例えば運動会に向けては、勝ち負けやできばえのみにこだわらず、楽しんでいることや自分なりに頑張っている姿を大事にするなど、行事で大切にしたいことを伝え、共通理解を図る。 運動会や保育参観など保護者の参加、協力の機会が増えるので、共に子育てをする喜びや保護者同士のつながりを感じられるような内容、方法を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談を設定し、日常生活での子どもの取組や友達との関わりの中で変容した姿を伝える。成長したことで見えてくる個々のよさや課題を保護者と共有し、一緒に子育てに取り組み、成長を喜び合う関係を築いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の子どもの成長を振り返り、保護者と共に喜び合う。 子どもたちの進級に向けての活動の様子（お別れ会、新入園児との関わり、修了式への取組など）を伝え、保護者も一緒に進級に期待をもてるようにする。

5 歳児

I 期（4月～5月）	II 期（6月～9月上旬）	III 期（9月中旬～10月）	IV 期（11月～12月）	V 期（1月から3月）
<ul style="list-style-type: none"> 進級による喜びや不安に対して、保護者の思いに共感したり励ましたりして、一緒に子どもを支えていくようにする。 1年間の指導の概要や小学校との交流などの予定を伝え、年長の1年間に見通しをもって過ごせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の力で生活を進められるように、園と家庭が共に励ましの言葉を掛けるなどして、温かく見守っていく。 子ども同士の間で起こった出来事については丁寧に伝え、友達との関わりの中で経験していることや、そこで育つことについて理解し合い、見守っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスだよりや保護者会などを通して、目的に向かって自分の力を発揮して取り組んでいく過程を伝え、日々の保育や行事などの様子から、子どもの成長を理解し喜びを感じてもらえるようにする。 体を動かすことで様々な意欲が引き出されることを伝え、子どもの伸びようとする力を園と家庭の両方で生かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> グループの友達との活動を通して協同性が育まれ、小学校での生活や学習の基礎になることを伝えるとともに、自分の子どもやクラスへの理解が深まるようにする。 就学に向けて生活習慣などを園と家庭で見直していく機会をつくり、家庭でも意識をもって生活してもらえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会などで、小学校の生活や学習について具体的に伝える機会をもち、入学に向けて不安や疑問を解消できるようにする。 具体的な場面を通して子どもの成長を喜び合い、入学への期待につなげていく。

3・4・5 歳児 夏季保育

(7月下旬～8月)
<ul style="list-style-type: none"> 食欲が落ちたり暑さからの疲れが出たりしやすいので、十分に休息を取り、食事や睡眠のリズムを整えてもらう。 プールチェック表への記入を保護者に依頼し、子どもの健康状態を把握して、安全にプール遊びができるようにする。 夏にかかりやすい伝染病の症状や熱中症の予防や対応など、夏の健康な生活に必要な情報を伝える。 夏季保育ならではの経験（夏の遊び、自然との関わり、友達関係の広がりなど）や、そこで見られる子どものよさを具体的な姿を通して伝えていく。

小学校入門期及び小学校入学当初期

小学校入門期	小学校入学当初期
<ul style="list-style-type: none"> 一日の生活の仕方や係や当番の仕事の進め方など、入学前の集団生活の様子について、可能な範囲で情報を集め、保護者も子どもの学校生活に見通しをもち、安心して必要な関わりができるようにする。 学校に持ってくる物や家庭学習などについては、子どもに伝えて自分で行うようにすることや、必要に応じて、連絡帳などを使って保護者に連絡することなどをあらかじめ保護者会等で伝えておく。 初めての学校生活に不安を感じる保護者もいることに配慮して、学級通信などを通じて子どもたちの様子を丁寧に伝えるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康カード(家庭申告)や生活管理票(医師作成)などによる既往歴・食物アレルギー等の情報を収集し、健康診断等による疾患状況や治癒勧告などで情報を提供し、新たな環境の下でも児童一人ひとりの健やかな成長を育めるようにする。(「学校・学年だより、学年保健だより」の発行、学校保健委員会の開催) 通学路や登校時刻を守るなど、「学校のきまり」への理解と協力を得られるように努め、新しい環境の中での「家庭のきまり」の見直しや新たな課題解決の協働を図って、安心・安全な学校・家庭・地域生活を築いて、児童一人ひとりにきまりよい生活や豊かな心を育めるようにする。(「学校公開・道徳授業地区公開講座」、「避難訓練・児童引き渡し」、「防災教育」、「セーフティ教室」) 学習道具を準備することの協力依頼だけでなく、学年だより等で活用状況を含めて週単位で情報を提供し、「10分×学年」など家庭学習の定着が図られるように努め、互いに児童一人ひとりの特性を理解して、学力定着が図られるようにする。(「保護者会」「講演会」「スクールカウンセラー面談」)

※0歳児は心身の発達等が著しいため、個人差に対応できるよう月齢に応じて設定しています。

※1歳児から5歳児は季節や年間行事等にそらえているため、I期からV期に設定しています。

⑤発達や学びの連続性を考慮した具体的な指導方法

0歳児（57日頃から3か月頃）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・大好きな大人からあやされたり、声をかけられたりすることを喜ぶ。 ・保育者に欲求を受け止めてもらい、親しみと安心感をもつ。 ・一人ひとりの安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
学びの芽生え	思考 言葉 創造	<ul style="list-style-type: none"> ・鼻から出ていた音声は喉からも出るようになり、母音に喉子音が結び付いた発声も聞かれるようになる。 ・光（明るい光、優しい光など）に反応する。
人との関わり	協同 信頼 規範	<ul style="list-style-type: none"> ・不快感が芽生え、空腹になったりおむつが汚れたりすると、目覚めて泣く。 ・抱かれて、泣きやんだり安心した表情になったりする。 ・音や話し声のする方に顔を向けようとする。 ・あやしたり話し掛けられたりするとよく笑うようになる。
生活習慣・運動	基本的な 生活習慣 運動	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の中で眠りと覚醒が何度も繰り返され、昼夜の区別がはっきりしない。 ・よく眠っているように見えても、脳波の半分は眠っていない状態なので、眼球が動いていたり、顔や手指がピクピク動いたりする。 ・舌の前後の運動で、ミルクをよく飲むようになる。 ・手の指を硬く結んでいる状態から、徐々に握りがゆるくなり、手のひらに置かれたものを握るようになる。 ・首がすわり始める頃は、仰向け姿勢で正面を向くようになり、自分で少し首を動かして左右を見回すようになる。 ・うつ伏せの姿勢にすると、頭を少し持ち上げる。 ・引き起こしに頭が少しずつついてくるようになる。 ・仰向け姿勢で手と手、足と足を触れ合やすなど、正中線に向けて内側方向に対称的な動きをするようになる。 ・手と手、手と口の協応ができ始める。 ・周囲の動くものを目で追う。

〈援助のポイント〉

- ・保育者の愛情豊かな受容によって、情緒が安定していく。担当の保育者を決めて、愛着関係を育むとともに、一人ひとりの生活リズムに合わせて生理的要求を満たし、気持ちよく過ごせるようにする。
- ・温度変化に弱く、体調の失調（発熱、低体温）や新陳代謝の異常を起こしやすいので、細やかな室温、換気、湿度調節をする。音や光などを考慮し、静かな環境で安定して過ごせるようにする。
- ・病気に対する防衛機能が未発達なので衛生面に留意し、体調の小さな変化に気付くようにする。
- ・一人ひとりの授乳時間や感覚を把握し、おおむね3時間ごとを目安に授乳する。
- ・自分で寝返りをするようになるまでは、仰向けで寝かせ、睡眠中の窒息、突然死などの事故予防をしっかりと行う。
- ・2か月頃から腹ばい姿勢にして過ごす時期が始まる。腹ばいや寝返りの始まる時期は、特に危険なため、目を離さないようにし、下は硬い状態にする。

〈家庭との連携〉

- ・連絡帳のやり取りやお迎えの時間に温かく対応し、保護者との信頼関係をつくっていく。
- ・家庭での様子を聞いたり、保育中の睡眠、授乳、排せつ、機嫌、行動の様子などを伝えたりして、情報を共有していく。
- ・ミルクの量や授乳にかかる時間は個人差が大きいので、個々に合わせて哺乳びんの乳首のサイズなどを、保護者と確認していく。

0歳児（3か月頃から6か月頃）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・あやされたり、声を掛けられたりすると喜び、自分でも声を出す。 ・飲む、寝る、遊ぶの安定したリズムで機嫌よく過ごす。
学びの芽生え	思考 言葉 創造	<ul style="list-style-type: none"> ・唇を閉じて音を出せるようになり、音節の繰り返しが始まる。
人との関わり	協同 信頼 規範	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人の顔が分かり、あやされると声を出してはしゃぐ。 ・初期の人見知りが始まる。 ・自分から相手にほほえみかけるようになる。 ・周囲の親しい大人が分かるようになり、泣いても保育者があやすと安心して笑顔になる。
生活習慣・運動	基本的な 生活習慣 運動	<ul style="list-style-type: none"> ・胃の入り口がしっかりして、授乳後の溢乳が減ってくる。 ・舌の前後の運動に加えて顎の動きを連動させて、母乳やミルクを飲む。 ・よだれが出始める。 ・果汁やスープなどの準備食を開始する。 （目安は、授乳リズムが3時間半～4時間、体重が7kg前後になり、支え座りをするようになる頃） ・味覚が芽生え、味の違いが分かり始める。 ・眠っているときと目覚めているときがはっきりと分かれ、昼夜の区別が付き始めてリズムが定まってくる。 ・体温調節は安定し始めるが、まだ、周りの温度の影響を受けやすい。 ・腹ばいにするとうで上半身を支えることから、徐々に上体を持ち上げるようになる。 ・目と手の協応が始まり、見たものに手を伸ばすようになる。 ・体の正中線上で両手を絡ませる。 ・親指が外側に出て、物をしっかりと握れるようになる。 ・足で空間を蹴るようにして腰をひねり、寝返ろうとする。 ・引き起こしに頭が遅れないで上がり、両足も対称的に腹部に引き寄せるようになる。

〈援助のポイント〉

- ・必要に応じてクッションなどを用意して、腹ばいや一人座りを援助していく。
- ・着替えや沐浴、おむつ交換などで身体の健康を保ち、「快」の感覚を育てる。
- ・なめる、かむ、しゃぶるなどで感覚器官が発達する時期なので、玩具などで十分に満足できるようにするとともに、使う物は個別にし、使ったらその都度、清潔にしておく。
- ・個人差に応じて、睡眠がとれるように環境を整える。
- ・優しい言葉、声、まなざし、笑顔での働き掛けなどを通して、子どもの情緒の安定や人との心地よい関わり、周囲への関心を育んでいく。

〈家庭との連携〉

- ・昼は起きて明るいところで生活し、たっぷり遊んでよく飲み、夜は暗くして眠るなど、生活のリズムをつくっていく大切さを、個人差に応じて伝えていく。
- ・成長の変化が目覚ましい時期である。保護者と成長を喜びながら、家庭で気を付けること（子どもの手の届くところに危険な物は置かない、子どもは大人が予想する以上に動くことを考慮する、起きているときには応答的に関わる、準備食の内容やタイミングなど）を知らせ、保護者が安心して子どもの動きたい欲求に応えたり、離乳食への移行を行ったりできるようにする。

0歳児（6か月頃から9か月頃）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の語り掛けを喜び、自分でも声を出すことを親しむ。 ・保育者と十分に関わり欲求を受け止めてもらい、親しみをもち安定して過ごす。 ・腹ばいや寝返り、座位など、体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・いろいろな食品の味や形態、スプーンに慣れる。
学びの芽生え	思考 言葉 創造	<ul style="list-style-type: none"> ・物を落とすなど、気に入ったことを繰り返して遊ぶ。 ・名前を呼ばれると振り向く。 ・引出しの中の物を引っ張り出して遊ぶ。 ・言われていることをだんだんと理解できるようになってくる。 ・「アバババ」など言葉を繰り返すことで音をつなげて話す。 ・大人の口元を見てまねる。 ・戸外に出ることを喜ぶ。 ・機嫌がよいと一人遊びをする。 ・曲に合わせて体を動かす。 ・周囲の物を触ってみたり口に持っていったりする。
人との関わり	協同 信頼 規範	<ul style="list-style-type: none"> ・人のまねが上手になってくる。 ・同じことを何回も繰り返すことを喜ぶ。 ・知っている人を見ると抱いてもらいたがる。 ・いやいや、バイバイなどの動作をする。 ・要求があると声を上げる。 ・人見知りをしたり後追いをしたりする。 ・つくり笑いや愛想笑いをする。 ・名前を呼ばれると応じる様子がある。 ・人の動きを目で追う様子がある。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣 運動	<ul style="list-style-type: none"> ・大人が手を添えるとコップを持って飲む。 ・椅子に座って食べる。 ・前歯で食いちぎって食べたり、舌を使ってつぶして食べたりする。 ・午前と午後、大体同じ時間に寝起きをするようになる。 ・背中を反らして手足を上げる。（グライダーポーズ） ・うつ伏せの状態で爪先で床を蹴り、反対の手で体をねじってお腹を中心に左右に回転する。（ピボットターン） ・寝返り、はいはい、お座り、つかまり立ちなど活発に動くようになる。 ・支えて立たせると足を踏ん張る。 ・指先で物をつまんだり、手を打ち合わせたりする。

〈援助のポイント〉

- ・安全で活動しやすい環境の中で、はう、つかまり立ちをする、座るなどを十分にできるようにする。
- ・食事に対する意欲が徐々に見られるようになってくるので、手に持てる物は持たせるようにする。
また、保育者が先回りをせず、食べたい物への指差しなど子どもからの要求を待ち、子どもの意思や意欲が高まるようにしていく。
- ・触ったものを口に運ぶ時期なので、安全と衛生に留意しながら、十分な探索活動ができる環境を整える。
- ・遊びや生活を通して、具体的に身の回りの物の名前、動作などを語り掛けていく。
- ・人見知りや後追いをする時期である。子どもが不安を表したときは、抱きしめるなど温かく受け止めて子どもが安心感をもてるようにする。

〈家庭との連携〉

- ・ピボットターンの際、爪先で蹴るという行動をたくさんすることが、その後のはいはいや歩行に向けて重要になる。また、衛生、安全面に気を付け、子どもが十分に動く楽しさを味わうことの大切さを伝える。
- ・離乳食を進めるに当たり、家庭でもアレルギー反応などがなければ確認してもらい、連携を取り合う。
- ・母子免疫が消滅する時期であり、発熱など病気感染が頻繁になるため、病気の予防法や知識などの保健指導を行っていく。

0歳児（9か月頃から12か月頃）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人やものに対する興味や関心をもち、探索活動を楽しむ。 ・保育者と十分に関わって、欲求を受け止めてもらい、親しみをもちながら安定して過ごす。 ・はいはいをする、はいはいから座位になるなど、体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。
学びの芽生え	思考 言葉 創造	<ul style="list-style-type: none"> ・「いないいないばあ」をして、見えなくなったおとなが出てくるのを期待する。 ・自分でやってみたい気持ちが芽生える。 ・「パパ」「ママ」などの発語が見られる。 ・要求したり援助を求めたりするときに、周りの関心を引こうとして発語する。 ・容器に物を入れる、かぶせる、載せる、合せるなどをするようになる。 ・自他を区別できるようになってくる。 ・物を布などで隠すと中身を確認しようとする。 ・高さ、深さ、奥行き、裏側などを探ろうとする。 ・クレヨンを持って左右の往復運動をし、なぐり描きが出始める
人との関わり	協同 信頼 規範	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のしていることに興味を示し、自分もしようとする。 ・相手から「ちょうだい」と求められると物を渡そうとする。 ・物を打ち合わせたり積んだりする。 ・他の子どもが持っているものに手を出したり、相手に物を渡したりする。 ・いやいやをしたりバイバイをしたりする。 ・誉めてもらおうと喜んだり、叱られたことが分かったりするようになる。 ・おとなの言葉のほとんどを理解し、要求された行動をしようとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣 運動	<ul style="list-style-type: none"> ・手づかみで食べようとする。 ・コップを両手で持って飲む。 ・大人がスプーンを持つ手に、手を添えてくる。 ・起きている時間が長くなり、時間帯が少しずつ1回寝に近づく。 ・つかまり立ちをしたり、伝い歩きをしたりする。 ・手押し車や箱などを押しながら歩く。 ・意図的に物を投げたり置いたりする。 ・両手で物を持ち、手渡す。 ・はいはいや高ばいで階段の上り下りをする。 ・はいはいからお座りが自由にできるようになってくる。 ・臥位、座位、つかまり立ち、伝い歩きの間で自由に姿勢を切り替えることができ始める。

〈援助のポイント〉

- ・手、指、足腰を使って探索活動を十分にできるようにする。
- ・自分の意志をもち始め自分でやりたがる時期なので、子どもの主張をある程度かなえてから、大人の意図する方向に気持ちを向けていくようにする。
- ・保育者が子どもの発見を言葉にしたり、物を媒介としたやり取りを行ったりする中で、子どものできた喜びを一緒に感じ、表情や言葉で伝える。
- ・散歩に出掛け、自然や生き物に触れて楽しむ機会を多くもち、子どもの関心を広げていく。

〈家庭との連携〉

- ・つかまり立ちや伝い歩きをするようになってくるので、しりもちや転倒などに気を付け、危険のないように注意する。
- ・そしゃく能力が獲得できるよう、「かみかみゴックン」と言いながら大人が口を動かして見せるなど具体的な方法を知らせる。
- ・はいはいが十分ではない子どもには歩かせることを急がず、はいはいの経験を重ねる大切さを発達の見通しと合わせて伝える。
- ・動いても腹部が出にくい、ひっかかりにくい、伸縮性があるなど、この時期の体の動きに応じた動きやすい服装を知らせる。

1 歳児 I 期（4 月から 5 月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に慣れる。 ・保育者と一緒に好きな遊びを見付ける。 ・安心して食べたり、眠ったりする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・園内や園舎の散策を保育者と一緒に楽しむ中で、春の自然に触れる。 ・身近な環境の中で探索活動を十分に楽しむ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・一人遊びを十分に楽しむ。 ・自分の名前や友達の名前が分かるようになる。 ・片言が盛んになる。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・要求やしぐさや簡単な言葉で表現しようとする。 ・保育者と一緒に絵本を見たり、絵を見ながら保育者の言葉のまねをしたりする。 ・保育者と一緒に歌を歌ったり、簡単な手遊びをしたりして楽しむ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に慣れて安心して過ごす。 ・お気に入りの物（持っている物と安定する物）がある。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の物が分かるようになる。 ・保育者や同じ部屋で生活している友達に親しみの気持ちを感じる。 ・保育者に甘えたり、わがままを言ったりするなど、安心して思いを出す。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・「バイバイ」「ありがとう」などの挨拶をしぐさや言葉で行う。 ・保育者のまねをして、一緒に片付けをしようとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンを使って、保育者に手伝ってもらったり、自分で食べようとしたりする。 ・おむつが汚れたら取り替えてもらい、きれいになった心地よさを感じる。 ・着替えるときに手や足を動かし、簡単な衣服を脱ごうとする。 ・昼寝が 1 日 1 回となる。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に歩くことを楽しむ。 ・ゆるやかな斜面や段差を上る、下りるなどの足腰を使った運動を取り入れた遊びを楽しむ。 ・たたく、つまむ、転がすなどの指先を使った遊びを楽しむ。 ・リズムに合わせて身体を揺すったり、手足を動かしたりする。

〈援助のポイント〉

- ・家庭との連絡を密にし、個々の状態を把握した上で新しい環境の中で安心して過ごせるように、丁寧に対応していく。特に、食事や睡眠などが重要であることを踏まえ、生活の安定を図っていく。
- ・なるべく少人数で過ごし、担当の保育者との関係を深め、安定して遊べるようにする。食事の席、布団の場所などの生活環境はいつも一定にし、安心できるようにする。

〈家庭との連携〉

- ・家庭での様子（食事、睡眠、排せつ、好きな遊び）を聞き、家庭と同じように接しながら少しずつ安心して過ごせるようにする。
- ・園での様子を伝え、子どもや保護者との信頼関係を深めていく。
- ・連絡帳を用いて、家での様子を伝えてもらったり、園での様子を伝えたりしていく（通年）

1 歳児 Ⅱ期（6月から8月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・部屋や保育者に慣れ、一人遊びを十分に楽しむ。 ・身近な物への興味や関心をもち、探索活動を十分に楽しむ。 ・保育者と一緒に夏の遊びを楽しむ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・室内や戸外で探索活動を十分に楽しむ。 ・探索活動を通して触れたり試したり驚いたりするなど、いろいろな体験をする。 ・砂遊びや水遊びなどを楽しみ、いろいろな感触を楽しむ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な型はめやパズルをする。 ・喃語や片言で保育者とのやり取りを楽しむ。 ・絵本を保育者と一緒に見ながら、簡単な言葉を繰り返して楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な二語文を話すことを喜ぶ。 ・保育者の語り掛けや指示が分かり、行動しようとする。 ・クレヨンでぐるぐる描きを楽しむ。 ・歌や音楽に合わせて手遊びや体操をする。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者やいつも一緒に生活している友達と安心して過ごす。 ・お気に入りの物やお気に入りの場所がある。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・“自分で”という気持ちが芽生え、やってみようとする。 ・“自分の（物）”という気持ちをもち、伝えようとする。 ・してほしいことを動作で伝えようとする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に「待っててね。」と言われると、少しの間、待てるようになる。 ・「おはよう。」「いただきます。」などの簡単な挨拶をする。 ・保育者の言葉掛けや表情で、危ないことなどに気付く。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活のリズムに慣れ、落ち着いて過ごす。 ・スプーンを使って自分で食べようとする。 ・おむつが汚れていないときは便器に座ってみる。 ・ズボン、パンツを脱ごうとしたり、帽子をかぶろうとしたりする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・靴を脱ごうとする。 ・保育者を追いかけたり、一緒に逃げたりして走ることを楽しむ。 ・斜面、階段の上り下り、トンネルくぐりなど足腰を使った遊びを楽しむ。 ・ちぎる、破く、なぐり描きなどの手や指先を使った遊びを楽しむ。

〈援助のポイント〉

- ・気温や湿度が上がる時期なので、個々の健康状態を十分に把握し、水分補給や衣服の調節をして気持ちよく過ごせるようにする。
- ・自分でやろうとする気持ちを十分に受け止め、見守ったり、励ましたりしていく。
- ・子どもの発見や驚きを保育者も一緒に受け止め、共感していく。

〈家庭との連携〉

- ・天候や気温の変化により、体調の変化を起こしやすいので、家庭や園での様子を丁寧に伝え合う。また、感染症や食中毒などの予防について配布物等で伝え、健康について十分配慮し合う。
- ・汗をかいたり、水遊びをしたりする機会が増えて、着替えをすることが多くなるので、着替えを多く用意してもらうようにする。

1歳児 Ⅲ期（9月から10月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然に触れ、興味をもつ。 ・保育者と楽しく関わる中で、言葉を覚える。 ・全身を使った遊びや一人遊びを楽しむ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な植物や小動物を見たり、触れたりして興味をもつ。 ・園庭や散歩先で探索活動を楽しむ中で、触れる、やってみる、驚くなど、いろいろな体験をする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・小麦粉粘土や砂を使った遊びなどを楽しみ、いろいろな感触を楽しむ。 ・自分の要求や思いを簡単な言葉で伝えようとする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に絵本や紙芝居を見る。 ・クレヨンでなぐり描きやぐるぐる描きなどを楽しむ。 ・手遊びや歌、体操などを保育者と一緒に楽しむ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と簡単な言葉や動作のやりとりをする。 ・思いや要求を指差しや身振りで伝えようとする。 ・園内のお兄さんやお姉さんに親しみを感じ、関わってもらうことを喜ぶ。 ・保育者の声掛けで危ないことや、やってはいけないことに気付き、やめようとする。
	信頼	
	規範	
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・器に手を添え、自分で食べようとする。 ・様々な食品を食べてみようとする。 ・排せつをしぐさや言葉で知らせ、便器に座ってみる。 ・援助されながら、パンツやズボンなどを自分で着脱しようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・援助されながら、手洗いをする。 ・靴を自分で脱いだり、履こうとしたりする。 ・保育者と一緒に歩く、走る、よじ登る、くぐる、跳ぶ、ぶら下がるなど全身を使った遊びをする。 ・つまむ、めくる、ちぎる、引っ張る、押すなど指先を使った遊びをする。

〈援助のポイント〉

- ・全身運動が活発になるので活動の状態に配慮し、じっくりと遊べるよう安全な環境を整えていく。
- ・子どもが扱いやすい様々な素材に触れる機会をつくり、素材を使う楽しさを十分に感じられるようにする。
- ・子どもの思いや要求など、伝えようとしている気持ちをくみ取り、言葉に置き換えていく。
- ・自分でやりたいという気持ちを受け止めながら、一人ひとりに合った援助をしていく。

〈家庭との連携〉

- ・行事や保育参観を通して子どもの姿を見てもらい、共に成長を喜び合う。また、簡単な身の回りのことを自分でしたがるようになるので、発達の特徴や保育者の接し方を伝え、家庭でも時間や気持ちに余裕をもって接してもらうようにする。
- ・季節の変わり目で体調を崩しやすくなるので、園や家庭での子どもの様子を伝え合い、家庭での食事や睡眠に十分気を付けてもらうようにする。

1歳児 Ⅳ期（11月から12月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・要求を言葉で伝えたり、言葉を使うことを楽しんだりする。 ・保育者と一緒に模倣遊びを楽しむ。 ・全身を使って遊んだり、簡単なリズム遊びをしたりする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然や小動物に触れ、親しむ。 ・積木やパズルなど身近な玩具に興味をもって遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ・保育者と簡単な挨拶を試みる。 ・好きな絵本や紙芝居を読んでもらうことを喜ぶ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな素材に触れて遊ぶ。 ・歌や手遊び、簡単なリズム遊びを楽しむ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と簡単なやり取りをしようとする。 ・保育者と一緒に見立て遊びや再現遊びをする。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な大人や子どもに関心をもつ。 ・大人や友達のやっていることをまねて遊ぶ。 ・「待っててね」「あとでね」などの言葉掛けが分かり、行動する。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・タオルなど自分と友達の持ち物を区別する。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンを正しい持ち方で持ってみたり、自分で食べようとしたりする。 ・排せつをしぐさや言葉で知らせたり、便器で排せつしたりする。 ・パンツやズボン、靴などを自分で着脱しようとする。 ・自分で手洗いをしようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に片付けをしようとする。 ・指先を使った遊びを繰り返す。 ・ボールを蹴ったり投げたりして、保育者と一緒に体を動かして遊ぶ。

〈援助のポイント〉

- ・物の取り合いなどで子ども同士のトラブルも多くなるが、一人ひとりの思いを受け止めたり、同じものを複数用意したりしながら、友達との関わりを育てていく。
- ・子どもとの会話を楽しんだり、遊びの楽しさを周囲の子どもとも一緒に感じたりしていく。
- ・落ち着いて遊べるようになってきているので、じっくりと遊んでいる様子に関わり満足感や喜びを感じられるようにする。

〈家庭との連携〉

- ・個人差が大きくなる時期なので、一人ひとりの発達に合わせた対応をすることが大切であることを知らせていく。
- ・感染症が流行する時期なので手洗いをしっかりと行い、健康状態を把握できるよう連絡を取り合う。
- ・友達への関心が芽生え、関わって遊ぶようになってくる。物の取り合いやけんかなど、時にはぶつかり合うことも成長の表れであることを知らせていく。

1 歳児 V 期（1 月から 3 月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの様々なことに興味や関心を示し、探索活動を十分に楽しむ。 ・保育者と一緒に、興味のあることや生活経験を取り入れた簡単なごっこ遊びを楽しむ。 ・保育者の手助けを受けながら、簡単な身の回りのことをしようとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者との関わりを通して言われたことを意味が分かり、その通りに行動してみる。 ・大人をまねたり、自分の好きな役になったりすることを楽しむ。 ・身近な小動物や植物を見たり触れたりして、周囲の様々なことに興味をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・したいこと、してほしいことを、しぐさや簡単な言葉で伝えようとする。 ・身の回りのことに興味や関心が広がり、「これなあに」などと聞いたり、答えてもらったことを喜ぶ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本や紙芝居を読んでもらい、繰り返しのある言葉に興味をもつ。 ・保育者と一緒に簡単な手遊びをしたり、知っている歌を口ずさんだりする。 ・音楽に合わせて体を動かし、自分なりの動きを楽しむ。 ・歌や音楽に合わせて、音の出る手作り玩具などを鳴らして遊ぶ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな友達ができ、そばに近寄ったり一緒にいたりする。 ・保育者や友達と簡単なごっこ遊びをする中で、友達の存在を感じる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をもったことを、何でも自分でやってみようとする。 ・友達や保育者の名前を呼び、親しみをもって関わろうとする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に促されて、生活の中の簡単なきまりや危険なことなどに気付く。 ・自分の物と人の物の違いに気付くようになり、自分の物の置き場が分かる。 ・保育者の援助を受けながら、少しずつ納得して物の貸し借りをする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンを正しい持ち方で持とうとし、最後まで自分で食べようとする。 ・保育者や友達と同じ場で、楽しく食べる。 ・手助けを受けながら簡単な衣服を自分で着脱しようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・排せつをしぐさや言葉で知らせたり、便器で排せつしたりする。 ・体操、追いかっこ、蹴る、投げるなど、全身を使った遊びを楽しむ。 ・ボタンはめ、ひも通し、クレヨンを扱うなど指先を使った遊びを楽しむ。 ・散歩や固定遊具での遊びなど、戸外で体を動かして遊ぶ。

〈援助のポイント〉

- ・基本的な生活習慣の形成には個人差を考慮し、落ち着いた雰囲気の中で繰り返し経験させていく。また、自分でしようとする気持ちを大切にしながらさりげなく援助し、自分でできた満足感を味わえるようにする。
- ・子どもの伝えたい気持ちを感じ取って言葉にしたり、状況を見て言葉を掛けたりしながらやり取りをし、会話の楽しさを伝えていく。

〈家庭との連携〉

- ・連絡ノートや登降園時に園での子どもの活動の様子を知らせ、子どもが様々な姿を見せながら成長していくことの喜びを伝え、共感していく。
- ・身の回りのことを自分でしようとする姿が見られたら、その姿を伝え、家庭でも子どもの成長として受け止め、見守ってもらえるようにする。また、服や靴などは自分で着脱しやすいような物を準備してもらるように、具体的な見本等を示して伝えていく。
- ・生活や遊びの中での言葉のやり取りをクラス便りなどで紹介し、家庭でも簡単な会話を楽しんでもらうようにする。

2歳児 I期（4月から5月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活や環境に慣れ、安心して過ごす。 ・保育者に見守られながら、自分のしたい遊びを楽しむ。 ・保育者の手助けを受けながら、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な小動物や草花に興味をもって、見たり触れたり集めたりなどする。 ・積木を並べたり、積んだりすることを楽しむ。 ・水、砂、泥など様々な素材に触れる。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・「同じ」「大きいね」「黄色だね」など遊びの中で色や形、大きさなどに気付く。 ・生活の中で簡単な挨拶や返事をしたり、生活に必要な簡単な言葉を使ったりする。 ・保育者や友達の名前を覚えて呼んでみる。 ・生活に必要な簡単な言葉が分かるようになる。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に好きな絵本を読んでもらったり、知っている歌や手遊びを一緒にしたりする。 ・音楽に合わせて体を動かして遊ぶ。 ・積木やお手玉などを乗り物や食べ物に見立てて遊んだり、人形やままごと道具を使ったごっこ遊びをしたりする。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活の場や人に慣れ、好きな玩具や遊具で遊ぶ。 ・友達のしている遊びをまねて、同じことをしようとする。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・一人遊びを楽しみながら、保育者の仲立ちで、近くにいる友達に関心をもつ。 ・保育者のそばで安心して過ごす。 ・保育者と一緒に好きな遊びを楽しむ。 ・「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をし、食事の区切りを感じる。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のロッカーや靴箱、自分の物の置き場所が分かる。 ・「待っててね」と言われ、少しの間、待とうとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の手助けを受けながら、排せつ、着脱、昼寝などをしようとする。 ・自分の物と人の物との違いが分かる。 ・スプーンを使って一人で食べようとする。 ・同じテーブルの友達と一緒に食べることを喜ぶ。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・走ったり、三輪車や滑り台などを使ったりして戸外で体を動かして遊ぶ。 ・全身を使った遊びを楽しむ。（体操、巧技台での遊びなど） ・近場への散歩を通して階段、でこぼこ道、坂道などを歩くことを楽しむ。 ・粘土、のり、クレヨン、ボタン、パズル、手遊びなど、指先を使った遊びを楽しむ。

〈援助のポイント〉

- ・一人ひとりの気持ちを大切に受け止めながら丁寧に対応し、信頼関係を築いていく。
- ・食事、排せつ、睡眠など安心して生活できるように保育者がゆとりをもち、ゆったりとした生活リズムと雰囲気づくりを心掛ける。
- ・「きれいになったね」「靴が履けたね」など、子どものしたことやしようとしていることを言葉に表して伝え、うれしさや満足感を味わえるようにする。そこから、自らやってみようとする意欲につなげていく。

〈家庭との連携〉

- ・新しい環境での子どもの様子を細やかに知らせ、安心してもらうとともに、保護者との信頼関係を築いていく。
- ・保育室など生活環境が変わるため、子どもは心身ともに疲れやすくなり、甘えが見られることもある。子どもの様子を互いに伝え合うなど、連携を密にするようにする。

2歳児 Ⅱ期（6月から8月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・砂、水（プール、水遊び）、泥などの感触を全身で味わいながら、思い切り遊ぶ。 ・友達に関心を持ち、同じ場で過ごしたりまねしたりすることを喜ぶ。 ・保育者の手助けを受けながら、簡単な身の回りのことを自分でやってみようとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な小動物や植物に興味を持ち、保育者と一緒に気付きや発見を喜ぶ。 ・水、砂、土、泥などに触れて感触を味わい、伸び伸びと遊ぶ。 ・嬉しかったことや困ったこと、印象に残ったことなどを話そうとする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことに興味を持ち、「これなあに」「どうして」と盛んに質問をする。 ・絵本や紙芝居の中の簡単な言葉を繰り返し言うことを喜ぶ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土や小麦粉粘土を使い、ちぎる、伸ばす、丸めるなど、自由に楽しむ。 ・クレヨンや絵の具で自由に描いたり遊んだりすることを楽しむ。 ・身近な物を見立てたり、好きなものになって遊んだりすることを楽しむ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のしていることに興味を持ち、同じ場で遊んだりまねたりすることを喜ぶ。 ・保育者を仲立ちとして友達と関わって遊ぶ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたいことや、してほしいことを言葉やしぐさで伝える。 ・保育者や友達との関わりの中で、自分の気持ちを安心して表す。 ・保育者に対し、「～したよ」「～だから」など出来事を思い出して話すことを喜ぶ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分で」と自己主張をし、何でも自分でしようとする。 ・遊んだ後に、保育者と一緒に遊具を片付けようとする。 ・自分の物、人の物の区別がつく。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の誘いで、トイレで排せつしようとする。 ・保育者のそばで、安心して眠る。 ・スプーンやフォークを使って食べたり、友達と一緒に食事をするを楽しんだりする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・できないところは保育者に援助されながら、自分で衣服や靴の着脱をしようとする。 ・歩く、走る、登る、降りるなどの行動や、段差のある場所での遊びを通して、十分に身体を動かして遊ぶ。 ・リズムに合わせて身体を動かすことを楽しむ。

〈援助のポイント〉

- ・一人ひとりの不安、欲求、甘えなどを丁寧に受け止めて信頼関係を築き、安心して過ごせるようにする。
- ・一人ひとりがじっくりと遊べるような環境を準備し、その子なりの遊び方を一緒に楽しみ、認めていく。
- ・自分でやろうとする気持ちを受け止めながら、必要に応じて適切な手助けをしていく。
- ・基本的な生活習慣については、個々の実態に合わせてきめ細やかな援助をし、自分でできた喜びや満足感を持ち、気持ちよく過ごせるようにする。

〈家庭との連携〉

- ・子どもが何でも自分でやりたがり、盛んに自己主張をするため、保護者が子育てに戸惑いや不安を感じる時期でもある。保護者会などで保護者同士が率直な思いを出して話せるようにしたり、この年齢の発達の道筋を伝えたりして、保護者の気持ちに寄り添い、一緒に子どもの育ちを見守っていく。
- ・子どもが自分でできる喜びを感じられるように、着脱しやすい服や脱ぎ履きしやすい靴を準備してもらうように伝える。
- ・感染症（とびひ、結膜炎、溶連菌感染症など）について、家庭に知らせ、健康状態について連絡を密にする。

2歳児 Ⅲ期（9月から10月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 身近な大人の言葉や行動をまねたり、面白いと感じたことを繰り返して遊んだりする。 保育者や友達との関わりの中で、自分の思いや要求を伝えようとする。 戸外で身体を十分に動かして遊んだり散歩に行ったりする中で、伸び伸びと遊ぶことを楽しむ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> 身近な用具の名前や使い方に興味をもち、保育者と一緒に使ってみる。 木の葉や木の実を喜んで集め、それを使って遊ぶことを楽しむ。 様々な容器や袋、布、ひも、箱などを使い、一人でじっくりと繰り返し遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 楽しかった経験を自分なりの言葉で伝えようとする。 気の合う友達とおしゃべりを楽しむ。 好きな絵本や紙芝居を何度も見たり読んでもらったりする中で、興味をもった言葉や動作をまねて遊ぶことを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 保育者と一緒好きな歌を歌ったり、音楽に合わせて身体を動かしたりして遊ぶ。 保育者と一緒紙をのりで貼ったり、はさみで切ることを楽しんだりする。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が仲立ちとなり、少人数の友達と一緒に遊ぶ。 経験したことの中で同じようなイメージをもって、見立てて遊ぶことやごっこ遊びを保育者と一緒に楽しむ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 友達との玩具の取り合いや気持ちのぶつかり合いなどの中で、保育者を仲立ちとして、相手の思いを知る。 簡単な手伝いを喜んでする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の援助で、「順番」や「交代」などのルールがあることを知る。 保育者の言葉掛けで危険なことに気付く。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 尿意、便意を知らせ、自分からトイレに行こうとする。 こぼしたり汚したりしないで食べられることを喜ぶ。 保育者に見守られながら、自分で衣服や靴の着脱をしようとする。 自分の物の簡単な支度や始末をする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 手洗いや「ブクブクうがい」を保育者と一緒にする。 様々な遊具や用具に触れながら、戸外で十分に身体を動かすことを楽しむ。 かけっこや追いかけて遊ぶことを楽しむ。 遊びを楽しむ中で、走る、両足ジャンプをする、一本橋を渡るなど、様々な身体を動かす。 低めの固定遊具、低めに調整した巧技台などですすんで身体を動かして遊ぶ。

〈援助のポイント〉

- 自分の気持ちや要求を自分なりに相手に伝えようとすることを大切にする。その際、具体的に言葉を知らせたり伝えたいことを仲介したりするなど、伝えようとする気持ちを支え、伝わったうれしさを感じられるようにする。
- 個々の発達の様子を把握し、それぞれの子どもが楽しめる運動遊びを工夫していく。

〈家庭との連携〉

- 自我の芽生えや自分でやろうとする気持ちを受け止めて経験させることで、子どもが変容してきていることを具体的に伝えて成長を確認し、保護者を支えていく。
- 運動会や遠足など、行事が多くなることを伝え、子どもが動きやすい靴や着替えを用意してもらうようにする。

2歳児 IV期（11月から12月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と言葉のやり取りを楽しんだり、自分の思いを自分なりの言葉で表そうとしたりする。 ・保育者や友達と一緒に、見立てたり、なりきったりして遊ぶことを楽しむ。 ・保育者に見守られながら、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・音、色、匂い、量などに気付き、興味をもつ。 ・保育者や友達に自分のしたことや思ったことを自分なりに伝えることを喜ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しのあるやり取りや面白い言い回しのある絵本や紙芝居を見ることを喜び、自分で言ったり好きな場面を再現したりして遊ぶ。 ・保育者や友達と簡単な言葉のやり取りを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて身体を動かすことや自分なりの表現遊びを楽しむ。 ・簡単な楽器（カスタネット、鈴、タンバリンなど）に触れ、鳴らして遊ぶ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と言葉のやり取りを楽しみながら、ごっこ遊びをする。 ・自分の要求を自分なりに相手に伝えようとする。 ・鬼ごっこやかくれんぼなどで友達と同じ役になって遊ぶことを喜ぶ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に褒めてもらうことを喜び、頑張ろうとする。 ・自他や善悪の区別が少しずつ分かるようになる。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・「入れて」「貸して」など、遊びや生活に必要なことが分かり、やってみる。 ・保育者の援助を受けながら、遊びの中で順番や交代をする。 ・保育者と一緒に簡単なルールのあるゲームや遊びを楽しむ。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なものを少しずつ食べてみようとする。 ・フォークやスプーンを正しく持とうとし、食器に手を添えてこぼさずに食べようとする。 ・手や口など体が汚れたことに気付き、自分できれいにしようとする。 ・保育者と一緒に食前や排せつ後の手洗いをする。 ・保育者の援助を受けながら、「ブクブクうがい」や「ガラガラうがい」を場面に応じて行う。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・尿意、便意を感じて、自分からトイレに行こうとする。 ・トイレットペーパーの使い方など排せつ後の始末の仕方を知る。 ・保育者と一緒に脱いだ衣服をたたんだり、片付けたりしようとする。 ・登る、押す、引っ張るなど、全身を使う運動遊びをする。 ・ボールを蹴る、投げる、転がす、受けるなどして遊ぶ。

〈援助のポイント〉

- ・部屋の喚起や湿度設定をこまめに行う、手洗い、うがいを促すなど、風邪の予防に努める。
- ・前開きやかぶりの服の着脱やたたむことなど、子どもと一緒に身の回りのことを行いながら、できたことを保育者も共に喜び、認めていく。
- ・友達との関わり方を伝えながら、一緒に遊ぶ楽しさが味わえるように仲介役になっていく。

〈家庭との連携〉

- ・保護者の育児の悩みや子育ての参考になる情報を、クラスだよりなどを介して紙面上で交流し合い、安心して楽しく子育てができる環境づくりをしていく。
- ・子どもがやりやすい衣服の裏表の返し方や、園での声の掛け方を具体的に知らせ、家庭でも行えるようにする。また、自分でできたという喜びが感じられるように、家庭でも見守ったり、認めたりしてもらうように伝えていく。

2歳児 V期（1月から3月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・興味のあることや経験したことなどを、保育者と一緒に自分なりに好きなように表現する。 ・保育者や気の合う友達と関わることを喜び、ごっこ遊びを楽しむ。 ・保育者に見守られながら、簡単な身の回りのことを自分でし、進級を楽しみにする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・年上の子どもがやっていることに興味を示し、まねてやろうとする。 ・雪、氷、霜柱など冬の自然に接し、見たり触れたりして遊ぶ。 ・少しずつ身の回りの形、大小、長短、数などに気付く。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・思ったことや感じたことを自分なりの言葉で伝えたり、保育者や友達とおしゃべりを楽しんだりする。 ・生活に必要な簡単な言葉が分かり、使おうとしている。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しの言葉や楽しいやり取りの出してくるお話の面白さを感じ、喜んで聞く。 ・指先を使い、合せ折りや好きな折り方をして楽しむ。 ・保育者と一緒に、のり、はさみ、絵の具、粘土などの材料や用具を使い、作って遊ぶことを楽しむ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・気の合う友達2～3人で、ごっこ遊びを楽しむ。 ・クラスの友達と一緒に、話を聞いたり手遊びや体操をしたりすることを楽しむ。 ・保育者や友達と、鬼ごっこや簡単なルールのあるゲームで遊ぶことを楽しむ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に話し掛けたり、自分の知っていることを伝えたりして関わることを喜ぶ。 ・保育者や友達に自分のしてほしいことを言葉で伝える。 ・できるようになったことや大きくなったことを認められ、進級することに期待をもつ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの物に気付き、自分なりに、順番に使ったり分け合ったりするなど、貸し借りをしながら使おうとする。 ・生活の中でできまりがあることを知り、簡単なできまりを守ろうとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・食前、排せつ後の手洗いを自分でしようとする。 ・様々な食べ物をすすんで食べようとする。 ・フォークやスプーンを使い、こぼさないように食べようとする。 ・外から帰ったときや食後は、うがいをする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・尿意、便意を感じて自分からトイレに行き、排せつの後始末を自分でしようとする。 ・手を拭く、鼻汁をかむなど身の回りのことを自分からしようとする。 ・自分で衣服を着脱し、たたむなど始末をしようとする。 ・冬の自然に触れながら戸外で遊ぶ。 ・散歩に出掛けることを喜び、身体を十分に動かして遊ぶ。

〈援助のポイント〉

- ・気の合う友達が出てくるが一緒に遊ぶことばかりを優先せず、一人ひとりが思いや自分のやり方を十分に出しながら、一緒に遊ぶ楽しさを感じられる場面を大切にする。
- ・ルールのある遊びでは、ルールは分かっているが受け入れられない子どももいる。その気持ちを受け止め、一緒に遊んで楽しかったという思いがもてることを大事にする。
- ・身体を動かすことや遊具を使うことを好むようになり、力やスピードも付いてくる。安全には十分に気を付けながら様々な経験ができるようにする。
- ・身の回りのことを自分でできるようになった喜びに共感し、進級への期待につなげる。

〈家庭との連携〉

- ・日常の具体的な姿から一人ひとりの子どもの成長を伝え、喜び合うことで、子どもも保護者も進級への期待や安心感をもてるようにする。また、集団としての子どもたちの成長や、子ども同士の関わり方など、3歳児での成長につながっていくことを伝える。
- ・進級に伴い、園と家庭の連絡方法や持ち物などが変わる場合にはあらかじめ説明をし、保護者も安心して移行できるようにする。

3歳児 I期（4月から5月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者との関わりを基盤にして新しい環境に慣れ、気に入った場や遊具で遊ぼうとする。 ・保育者の愛情を感じ取り、安心して生活する。 ・身の回りのことや自分でできそうなことを、保育者と一緒に行いながら園での生活の仕方を知る。 	
		進級児	新入児
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい保育室での遊びや遊具に興味をもち、自分の気に入った場や遊具で繰り返し遊ぶ。 ・飼育動物や栽培している植物など、身近な自然に触れて楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で経験したことのある遊具で好きな遊びを楽しむ。 ・飼育動物や栽培している植物など、身近な自然に触れる。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や「入れて」「貸して」などの遊びに必要な簡単な言葉が分かり、使ってみる。 ・楽しかったことを保育者に言葉で伝えようとしたり、困ったことや分からないことを、表情や動きに表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や入園前から知っている友達と挨拶をする。 ・保育者にやりたいことを伝えようとする。 ・保育者の声掛けに答えようとする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなと一緒に歌ったり、手遊びやリズム遊びをしたりすることを楽しむ。 ・身の回りにある物や遊具に関わり、見立てたり、つもりになったりして遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が行う手遊びや歌、リズム遊びを喜び、まねをして一緒にしようとする。 ・身近にある遊具を使って見立てたりままごとをしたりする。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳児からの気の合う友達と一緒に遊ぶ。 ・誕生会や子どもの日の集いなどの集会に参加して、楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と一緒に過ごす。 ・誕生会や子どもの日の集いなどの集会があることを知り、保育者と一緒に参加する。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者との触れ合いを通して、安心して生活や遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者との触れ合いを通して、安心して生活や遊びを楽しむ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで過ごすために必要な知っている約束を守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで過ごすために必要な約束を知る。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児の1日の生活の流れを知る。 ・所持品の始末や身支度の仕方、トイレの使い方を知り、自分で行おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の仕方や1日の流れを知る。 ・所持品の始末や身支度を保育者と一緒に行ったり、保育者の声掛けでトイレに行ったりする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳児のときに経験した追いかけっこや固定遊具で、体を動かして遊ぶことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に戸外で遊ぶことを楽しむ。

〈援助のポイント〉

- ・進級児は徐々に新しい環境に慣れて2歳児までの生活を引き継いでいけるように、新入児は自分の居場所を見付けて安定できるように、経験や生活の流れの違いを考慮して接していく。
- ・保育者は、温かい態度で一人ひとりに接しながら、子どもが生活に慣れていけるように、手を添えたり繰り返し知らせたりして、個人差に配慮した援助を行うようにする。
- ・生活の流れを具体的に知らせて、安心して過ごせるようにする。
- ・進級児の不安や甘えを受け止め、一人ひとりが安心して過ごせるようにする。並行して、進級児が新入児に持ち物の場所を教える機会をつくるなど、できることを生かしながら遊びや生活の中で力を出すことで、進級した喜びにつなげていく。

〈家庭との連携〉

- ・進級、入園による喜びや不安を受け止め、園の様子を伝えるとともに家庭での様子を聞き、幼児も保護者も安心して園生活を楽しむことができるようにする。
- ・幼児が自分で身の回りのことができるように、扱いやすい所持品の用意を具体的に依頼する。

3歳児 Ⅱ期（6月から9月上旬）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの環境や様々な活動に興味や関心をもち、関わって遊ぼうとする。 ・同じ場にいる友達や一緒にいたい友達に親しみを感じ、関わることを楽しむ。 ・身の回りのことや自分でできることを行おうとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたい遊びや、気に入った遊具や場を見つけて繰り返し遊ぶ。 ・飼育動物や園庭の虫や草花など、身近な自然に触れて楽しむ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と挨拶を交わしたり、思ったことを話したりする。 ・「入れて」「貸して」などの遊びに必要な言葉を使ったり、友達の言葉を聞いたりする。 ・楽しかったことを保育者に言葉で伝えようとしたり、困ったことや分からないことを、表情や動きに表したりする。 ・保育者と一緒に絵本や紙芝居を楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにあるいろいろな素材に関わり、感触を味わう、見立てる、作るなどして遊ぶ。 ・ままごとやごっこ遊びを喜び、つもりになって楽しむ。 ・歌ったり、手遊びやリズム遊び、簡単な表現遊びをしたりすることを喜ぶ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の動きをまねたり、同じように遊んだりすることを喜ぶ。 ・クラスの友達と一緒に動いたり、誕生会や季節行事などの集会に参加したりして、楽しむ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びの中で、自分の思いを動きや言葉で、保育者や友達に伝えようとする。 ・友達と関わって遊ぶ中で、保育者の仲介の下、相手に自分とは違う思いがあることを感じる。 ・砂や水などで遊び、開放感を味わう。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や友達との関わりの中で、よいことと悪いことに気付く。 ・みんなで過ごすために必要な約束や、簡単な遊びのルールが分かる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の生活の仕方や流れが分かり、安心して生活する。 ・所持品の始末や身支度の仕方、トイレの使い方が分かり、自分でやろうとする。 ・汚れたりぬれたりしたら気持ちが悪いと感じ、自分で着替えようとする。 ・食事の準備や片付けの仕方が分かり、できることを自分でやってみる。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外に出て遊ぶことを喜び、保育者と一緒に追いかけてっこをしたり、気に入った遊具で遊んだりして、体を動かすことを楽しむ。 ・みんなと一緒に体を動かす楽しさや、戸外で遊ぶ心地よさを感じる。

〈援助のポイント〉

- ・友達への関心が出てくる時期なので、友達と一緒に動く楽しさが感じられるような活動を取り入れていく。
- ・砂や泥、水などに関わり、開放感を味わって遊ぶことで、自分の思いを十分に出せるようにしていく。
- ・9月は、長期休業明けで生活のリズムが年度初めの頃に戻ることが予想される。保育者との関わりの中で個人差に配慮した援助を行い、園生活のリズムが取り戻せるようにする。

〈家庭との連携〉

- ・保護者が保育に参加する機会をつくり、体験を通して子どもの姿を知ったり、保護者同士の関わりを深めたりして、園の保育・教育に関心がもてるようにする。
- ・排便後の始末（トイレトペーパーの使い方や拭き方など）について具体的に知らせ、家庭と一緒に進めていく。

3歳児 Ⅲ期（9月中旬から10月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達のしていることに興味をもち、自分から遊ぼうとする。 ・友達と一緒に遊ぶ中で約束やきまりがあることを知る。 ・伸び伸びと体を動かして遊ぶことを楽しむ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたい遊びを繰り返す。 ・砂や水を使って遊び、感触を楽しむ。 ・自然物（木の葉や木の実など）に興味や関心をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したこと、感じたこと、思ったことなどを保育者に話そうとする。 ・生活の中で必要な言葉が分かり、使ってみる。 ・リズムのある言葉を喜んだり、一緒に言ったりする。 ・絵本や紙芝居を楽しみにする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な素材を使って描いたり作ったりして、表現する楽しさを感じる。 ・自分で作った物を使って遊ぶ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ場にいる友達や保育者に関わって遊ぶ楽しさや、一緒にいる心地よさを感じる。 ・友達や異年齢児の遊びに関心をもち、仲間に入ったり一緒に動いたりして楽しむ。 ・園のいろいろな行事に参加して楽しさを感じる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたいことをしながら、安心して遊ぶ。 ・一緒にいたい友達ができ、自分から関わっていく。 ・自分の思いを自分なりの方法で相手に伝えようとしたり、相手の思いを感じたりする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なルールが分かり、みんなで一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・自分の物、他の人の物、みんなの物の違いが分かる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがい、衣服の着脱、排せつなどの手順が分かり、自分でしようとする。 ・保育者と一緒に自分の遊んだ遊具や用具、場を片付けようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな遊具を使う、走る、跳ぶなど体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・保育者や友達と曲に合わせて体を動かしたり、動きをまねしたりする。

〈援助のポイント〉

- ・身の回りのことを自分からしようとする姿を見守り、認めたり誉めたりすることで自信をもたせていく。
- ・運動遊びやリズム遊びを通して、保育者も子どもと一緒に体を動かしながら、その楽しさを伝えていく。また、友達や保育者と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるように、活動内容を一人ひとりの子どもの状態を見ながら工夫していく。

〈家庭との連携〉

- ・運動会などの取組や参加の仕方は個人差があることを伝え、その子なりの成長を感じてもらえるようにする。また、他学年の子どもの様子も見てもらい、成長への期待や見通しをもって、3歳児の成長の様子を理解してもらうようにする。

3歳児 IV期（11月から12月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな遊びをしたり、面白そうなことをしている友達と関わったりしながら、遊ぶ楽しさを感じる。 ・みんなと一緒に活動する中で、保育者や周りの友達の動きを見ながら、自分なりに動く楽しさを感じる。 ・園生活に必要なことを感じ取りながら、自分でしようとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな遊びを繰り返し楽しむ。 ・身近なものの色、形、多い、少ないなどの違いに気付く。 ・好きなものになりきったり見立てたりして遊ぶ中で、感じたり考えたりしながら自分のイメージを表現して、楽しむ。 ・落ち葉や木の実、球根など自然物への関心をもち、気付いたり見立てて遊んだりする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びやおしゃべりの中でやり取りを楽しみながら、生活に必要な言葉を増やしていく。 ・好きな絵本や紙芝居ができ、何度も読んでもらったり、見たりして楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・カスタネットや鈴、手作り楽器などで遊び、自由に鳴らしたり音色を楽しんだりする。 ・自分なりのイメージをもって、描くことや作ることを楽しむ。 ・絵本や紙芝居を見て、好きな言葉を言ったりなりきって表現したりする。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と同じ遊びや生活を楽しんでする。 ・友達と同じことがしたい、という気持ちが高まり、一緒に遊ぼうとする。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちや困っていること、してほしいことなどを、保育者に自分なりの言葉や方法で伝えようとする。 ・行事を通して異年齢の子どもと触れ合い、楽しさを感じたり、年長児に対する憧れを感じたりする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と簡単なルールのある遊びを楽しむ。 ・遊びの中で遊具の安全な使い方や動きに気付く。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いやうがいの大切さを知り、自分でしようとする。 ・箸の持ち方を知り、箸を使って食事をしようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・走る、踊る、鬼ごっこをするなどみんなと一緒に体を動かすことを楽しむ。 ・音楽に合わせたリズム遊びやボールを蹴る、ブランコに乗るなど、遊具を使った運動遊びを楽しむ。

〈援助のポイント〉

- ・自分のイメージや見立て、言葉や動き、造形遊びなどで伸び伸びと表現する喜びを大切にする。
- ・一緒にいたい友達と関わられるようにコーナーや遊び場の配置に留意し、自分なりに思いを言葉や行動に表している姿を認め、安心して遊べるようにする。また、クラスの友達と一緒に活動する楽しさを味わえるようにする。

〈家庭との連携〉

- ・園で楽しんでいる秋の自然に関わる遊びや、散歩コースの紅葉や木の実を拾える場所などをクラスだよりや写真の掲示などで知らせ、家庭でも自然に親しむとともに、親子の関わりを大切にする。

3歳児 V期（1月から3月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを出しながら好きな遊びを十分に楽しむ。 保育者やクラスの友達と一緒にリズム遊びや表現遊びを楽しむ。 園生活に必要なことが分かり、できることを自分からしようとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> 風の冷たさや息の白さなど、冬の自然の変化を見たり、触れたりして体で感じる。 花の開花や日差しなどから春の訪れを感じる。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要な言葉が分かり、自分なりに使おうとする。 思ったことを友達に言ったり、相手から聞かれたことに応じて答えたりする。 保育者や友達と、簡単ななぞなぞや反対言葉などを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 身近にある素材や材料（広告紙、小さく切った紙、小箱、カップなど）を自分なりに選び、作ることを楽しむ。 リズムに合わせて身近な楽器を鳴らすことを楽しむ。 絵本やお話のイメージを楽しみ、なりたいたいものになったり動いたりするなど、自分なりの表現を楽しむ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達のしている遊びに興味をもち、自分も関わりながら遊ぶ。 一緒に遊びたい友達と同じ場で遊ぶ中で、自分なりの動きを出す。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思っていることやしたいことなどを言葉や動きで表しながら遊ぶ。 保育者に励まされながら様々なことに取り組み、できたことを喜び、大きくなったことを感じる。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 生活や安全に必要な簡単なきまりが分かる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの物の整理や遊びの片付けなど自分のことは自分でしようとする。 身の回りで必要なことを自分からしたり、できるようになったことを喜んだりする。 やけどに気を付ける、戸外に出るときは上着を着るなど、冬の生活に必要なことを知り、自分からやってみようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 寒くても戸外に出て、保育者やみんなと一緒に簡単なルールに沿って体を動かして遊ぶことを楽しむ。 散歩を通して、坂道や歩きにくい所もしっかりと最後まで歩く。 戸外で遊んだり固定遊具や巧技台を使って遊んだりすることを通して、いろいろな体の動きを楽しむ。

〈援助のポイント〉

- 友達との遊びを楽しんでいることを十分に受け止め、共感する。
- 子どもが自分から気付いてやってみようとする姿やできるようになったことを認めて、進級する気持ちへつなげていく。

〈家庭との連携〉

- 子どもの1年間の成長を具体的に保護者と伝え合い、喜びを共感しながら進級する気持ちへつなげる。
- 個人差が大きく進級に向けての不安な気持ちをもつこともあるが、今できることを十分に認め、成長を見守ってもらうようにする。

4 歳児 I 期（4 月から 5 月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に慣れ、保育者との関わりを基盤に、自分の思いを表しながら遊んだり生活したりする。 ・気の合う友達や保育者と自分のやりたい遊びを楽しむ。 ・新しい環境での生活の仕方が分かり、身の回りのことを自分なりにやってみようとする。 	
		進級児	新入児
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や周囲の子どもの動きに興味をもちやってみようとする。 ・自分から新しい環境に関わり、気に入った遊びを見つけて楽しむ。 ・花びら、葉、虫など身近な自然の遊びの中に取り入れて遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が安定できる場や遊具で遊ぶことを楽しむ。 ・気に入った遊びを見つけて楽しむ。 ・花びら、葉、虫など身近な自然を遊びの中に取り入れて遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや感じたことを言葉で表し、伝えようとする。 ・保育者や仲のよい友達と挨拶をする。 ・保育者が読んでくれた絵本に興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに必要な言葉があることに気付き、使ってみる。 ・自分の思ったことを言葉で表す。 ・保育者が読んでくれた絵本に興味をもつ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたままに表したり、何かのつもりになって遊んだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の動きをまねたり、自分と同じような動きに関心をもったりする。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・気の合う友達と同じ遊びを楽しむ。 ・クラスのみなどと一緒に遊んだり過ごしたりすることを楽しいと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスのみなどいることを楽しいと感じ、安心して過ごす。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達に親しみをもって遊んだり生活したりする。 ・困ったときなどに自分から保育者に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に親しみをもち、安心して関わられる存在であることを感じる。 ・思ったことや感じたことを表情、態度、言葉などで自分なりに表現する。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と楽しく遊ぶためにはルールがあることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活に必要なきまりがあることや、「ありがとう」「ごめんね」など友達との関わりに必要な言葉があることを知る。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいクラスでの生活の仕方を知る。 ・危険な物や場所を知り、安全に気を付ける。 ・できることは自分なりにやってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園での過ごし方を知る。 ・危険な物や場所を知る。 ・できることは自分なりにやってみる。 ・園での食事の仕方を知り、楽しく食べる。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳時に経験した遊びで体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・友達や保育者の動きを見て、同じように体を動かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や保育者の動きをまねたり、自分なりの動きを楽しんだりする。 ・戸外に出て歩いたり走ったりしながら体を動かして遊ぶことを楽しいと感じる。

〈援助のポイント〉

- ・進級児はできるだけ自分で行動できるような分かりやすい環境を構成し、進級した喜びが味わえるようにする。
- ・新入児は、みんなで一緒に生活することを楽しめるようにする。
- ・それぞれの子どものペースを大切に、新しい環境に慣れていくようにする。
- ・新しい保育者や友達に親しみを感じられるような言葉を掛け、安心して過ごせるようにする。
- ・友達と同じ場で過ごしたり関わりをもったりできるように、遊びの場を設定したり遊具の数を十分に用意したりする。

〈家庭との連携〉

- ・進級や入園による喜びや不安に対して、共感したり励ましたりしながら、一緒に子どもを支えていけるようにする。
- ・4歳児は友達との関わりが増えるので、トラブルや友達関係などの不安なことは、担任をはじめ園の職員にいつでも相談できることを伝え、1年間の成長を共に見守っていけるような関係づくりに努める。
- ・園での様子を伝えたり家庭での様子を聞いたりしながら、保護者との信頼関係を築いたり深めたりしていく。

4 歳児 II 期（6 月から 9 月上旬）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な素材に触れ、取り入れて遊ぼうとする。 ・気の合う友達と互いの思いを出して遊ぶことを楽しむ。 ・クラスの活動で自分なりに動いたり同じ動きをしたりすることを楽しむ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な虫や小動物などに触れたり、園庭の草花や栽培している植物に興味をもって、生長を楽しみにしたり収穫することを喜んだりする。 ・砂や泥、水などの自然物に触れて感触を楽しみながら遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・＜新＞保育者の仲立ちによって、思ったことや困ったことを言葉で相手に伝えようとする。 ・自分の思いや困ったことを保育者や友達に伝えようとする。 ・絵本の読み聞かせを楽しんで聞く。 ・歌や絵本、リズムのある言葉に関心をもち、一緒に口ずさむことを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・＜新＞身近な素材を使って作ることや、作ったものを使って遊ぶことの楽しさを感じる。 ・身近な素材を使い遊びに必要なものやイメージしたものを作る楽しさを感じる。 ・新しい素材や材料に興味をもって関わり、必要なものを使ったり作ったりして遊ぶ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで取り組む遊びや活動に喜んで参加し、友達に親しみをもつ。 ・友達と同じものを身に付けたり、一緒に動いたりする楽しさを感じる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・＜新＞思い通りにならないことがあるときに保育者に思いを受け止めてもらい、我慢したり気持ちを切り替えたりする。 ・受け入れてくれる友達に自分の思いや感じたことを伝えようとする。 ・友達の言葉の動きに気づき、自分なりに応じていく。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に過ごすための約束やきまりを知り、守ろうとする。 ・集団行動の約束や保育者の指示を聞き、動こうとする。 ・ルールを守ると楽しく遊べることが分かる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・＜新＞園生活の流れが分かり、自分から動く。 ・天候に合った生活の仕方を知り、自分で行おうとする。 ・＜新＞園外に出たときの行動の仕方を知る。 ・夏野菜の収穫を通して、みんなで一緒に食べる楽しさや食べられた嬉しさを感じる。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と一緒に、音楽に合わせて踊ったり体を動かしたりして遊ぶことを楽しむ。 ・プール遊びを通して、水の中での動きを楽しみ、開放感を味わう。

※＜新＞は、新入児に特に配慮する内容を表す

〈援助のポイント〉

- ・友達とのつながりができてくるので、思いを表したり伝えたりすることを楽しめるように、いろいろな友達の姿を伝えたり、思いが伝わり合うように言葉を補ったりしていく。
- ・いろいろな素材や用具に触れられる機会を設け、扱い方を知ったり遊びに取り入れたりしていく楽しさを味わえるようにする。
- ・プール遊びの約束、着替えや水着の始末の仕方などを分かりやすいように工夫して伝え、プール遊びに期待をもち、楽しく取り組めるようにする。

〈家庭との連携〉

- ・遊びや友達同士の関わり方など、様々な様子が見られる時期である。言葉の使い方や思いの表し方などの実態や、相手への関わり方に気付いていけるように保育者が援助していることをクラスだよりなどで知らせ、家庭への理解を図るとともに、一緒に成長を見守っていけるように連携を図る。
- ・大人が先に指示をしたりせず、子どもが自分で行おうとしている気持ちを尊重し、温かく見守っていくことが自信や意欲につながっていくことを知らせる。

4 歳児 Ⅲ期（9月中旬から10月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 身近な出来事に関わり、驚き、気付き、発見などを通して、様々なことに興味や関心を広げる。 友達との関わりを楽しみながら自分の動きや思いを出して遊ぶ。 戸外で思い切り体を動かして遊ぶことを楽しむ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然の変化に気付いたり、草花を遊びに取り入れたりして楽しむ。 繰り返し遊ぶ中で自分なりのやり方を試したり工夫したりする。 身の回りの物に触れたり使ったりして遊ぶ中で、物の性質（重い、軽い、硬い、柔らかい、伸びる、縮むなど）に気付く。 運動会などの行事を通して、様々な国などの旗があることを知り、関心をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや友達との関わりの中で、自分の思いを動きや言葉で表していく。 保育者や友達に親しみをもって挨拶をしたり、会話を楽しんだりしながらつながりを感じる。 気に入った絵本を保育者に読んでもらったり、自分で見たりする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に伸び伸びと体を動かして踊ったり、自分なりの表現を楽しんだりする。 遊びや行事の中で、身に付ける物や使う物を作り、それを使って遊ぶ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中で思いや考えを出し合いながら、友達との関わりを楽しむ。 クラスのみなどと一緒にルールのある遊びをして、遊ぶ楽しさを味わう。 友達との遊びの中で、思うようにならないことを経験し、相手にも思いや考えがあることに気付く。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 年長児と一緒に行事に参加して、親しみや憧れを感じる。 みんなの中で、伸び伸びと自分を出して遊ぶ。（かけっこ、リズム、運動会に向けての活動など） 行事を通して様々な人（職員、他の保護者、地域の人など）と関わり、親しみをもつ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 集団遊びやゲームを通して、ルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。 約束やルールを守ることによってみんなが気持ちよく過ごせることを感じる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の回りの物の始末や、使った物の片付けを自分でしようとする。 生活に必要なことが分かり、自分からやってみようとする。 安全に過ごすための約束やきまりが分かり、守ろうとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな動きを試しながら、十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。 用具や遊具の使い方に慣れ、組み合わせで場をつくって遊ぶ。

〈援助のポイント〉

- 子ども同士で思いがぶつかるときは、保育者が双方の思いをくみ取りながら相手の思いに気付けるように仲介していく。その後の手だてを一緒に考え、心を落ち着けたり気持ちを切り替えたりして遊べるようにする。
- 遊びの中で、いろいろな動きを試せるような用具を使ったり、子どもが興味をもっているイメージを取り入れたりして、自然に体を動かして遊ぶ気持ちが高まっていくようにする。

〈家庭との連携〉

- 日頃の遊びを積み重ねることが行事の内容やそこでの子どもの姿に生きることを、懇談会やクラスだよりなどで伝える。また、例えば運動会に向けては、勝ち負けやできばえのみにこだわらず、楽しんでいることや自分なりに頑張っている姿を大事にするなど、行事で大切にしたいことを伝え、共通理解を図る。
- 運動会や保育参観など保護者の参加、協力の機会が増えるので、共に子育てをする喜びや保護者同士のつながりを感じられるような内容、方法を工夫する。

4 歳児 IV 期（11 月から 12 月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで遊びの場をつくったり、見たことや感じたことを様々な方法で表現したりして遊ぶことを楽しむ。 遊びや生活の中で、クラスの友達とみんなで活動する楽しさを味わう。 季節の変化に伴い、生活の仕方が変わることを知る。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> 季節による自然の変化に気付き、木の実や落ち葉など自然物を使って遊ぶことを楽しむ。 身近な用具の扱い方が分かり、目的に合わせていろいろな使い方があることを知る。 いろいろな材料や素材に触れる中で、数量、物の色、形などに興味をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達との会話を楽しむ。 絵本やお話などを喜んで見たり聞いたりして、イメージを広げる。 絵本や歌の中にある面白い言葉に気付き、喜んだり繰り返し言ったりする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> みんなで歌ったり、簡単なリズム楽器を鳴らしたりすることを楽しむ。 お話の中の人や動物などになりきって遊ぶ。 自分のイメージに合わせて材料を選ぶ、組み合わせる、見立てるなどして使う。 思ったことを自由に描いたり作ったりすることを楽しみ、見たり飾ったりする。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に遊びの場をつくり、イメージを出し合いながら遊ぶ。 友達の動きに関心をもち、その動きに合わせてたり応じたりして動く楽しさを感じる。 簡単なストーリーや遊びの流れの中で、相手と自分の動きが関わり合いながら遊びが進んでいく面白さを感じる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 友達との遊びの中で自分の思ったことを言葉や動きに表し、それを相手に受け止めてもらえた喜びを感じる。 保育者の言うことを受け止めて、行動しようとする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 友達と生活する中できまりの大切さを感じ、自分なりに守ろうとする。 共同の遊具や用具を大切に、貸し借りをし使ったり一緒に片付けたりする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 手洗い、うがいの大切さが分かり、自分からすすんで行う。 自分の身の回りの物の始末や片付けなどの仕方が分かり、すすんで取り組む。 必要に応じて、衣服の調節を自分で行う。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に、鬼遊びやしっぽ取りなど簡単なルールのある遊びを楽しむ中で、思い切り体を動かす。 いろいろな遊具や用具を使って、様々な動きを組み合わせる遊びをする。

〈援助のポイント〉

- 友達と一緒に遊びたい気持ちが強くなってくるので、友達との関わりの中で、相手の気持ちに気付くように、個々の思いを保育者が受け止めながら、言葉で相手に伝えていく。
- 遊びの中で「こうしたい」という子どもの思いを受け止め、イメージや目的に合うような素材や材料と一緒に見付けたり提示したりするなど保育者が積極的に支え、自分たちで遊ぶ楽しさを十分に味わえるようにする。子どもが思い付いたことを自分で実現できたと思えるような援助の工夫をする。

〈家庭との連携〉

- 個人面談を設定し、日常生活での子どもの取組や友達との関わりの中で変容した姿を伝える。成長したことで見えてくる個々のよさや課題を保護者と共有し、一緒に子育てに取り組み、成長を喜び合う関係を築いていく。

4 歳児 V 期（1 月から 3 月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの友達といろいろな活動をする中で、クラスのつながりを感じて遊びや生活を進める。 ・基本的な生活習慣を身に付け、生活や遊びのきまりを守り、進級することへの期待や自信をもつ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の自然事象や冬から春への自然の変化に関心をもち、感動したり疑問をもったりする。 ・今までにしたことを思い出したり、遊びに取り入れたりする。 ・絵の表示、記号、文字などに興味や関心をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達の話聞いて内容が分かったり、自分の思いを相手に言葉で伝えたりする。 ・日常生活に必要な言葉が分かり、すすんで使ったり、自分から挨拶をしたりする。 ・絵本や紙芝居などの話の展開を楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と気持ちを合せて歌ったり、合奏したりすることを楽しむ。 ・遊びに必要なものを工夫して描いたり作ったりし、それを使って友達と遊ぶ。 ・絵本やお話などのストーリーに沿って、自分のイメージを動きや言葉などで表現して遊ぶ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊びや仕事を楽しみながら、やり遂げようとする。 (1 日入園での新入園児との関わり、お別れ会の計画、当番活動など) ・クラスのみんなどと一緒に活動する中で、満足感を感じたりクラスとしてのつながりを感じたりする。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の前で自分の思ったことを表現し、受け止めてもらえるうれしさを感じる。 ・行事やクラスの活動の中で力を発揮したことを認められ、満足感や自信をもつ。 ・年長児と交流したり、当番の引継ぎなどをしたりして、年長児の生活に期待をもつ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・よいことと悪いことに気付き、自分なりに考えて行動する。 ・簡単なルールをつくったり、ルールを守ったりして、友達と一緒に遊びを楽しむ。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でできることは、自分でする。 ・自分の健康に関心をもち、様々な食べ物をすすんで食べようとする。 ・気持ちよく食事をするために、挨拶や姿勢などのマナーに気を付ける。 ・行事を通して、伝統的な日本の食文化を知る。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・寒さに負けず、戸外で全身を思い切り動かして友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・自分なりのめあてをもって縄跳びやフープなどに取り組み、積極的に体を動かして遊ぶ。

〈援助のポイント〉

- ・自分でできたという自信がもてるように、個々に考えたり試したりしている姿を見守り、それぞれの状態に応じて相談に乗ったり、方向性を示したりする。
- ・年長児の生活の仕方を聞いたり、当番活動の引継ぎをしたりする機会を設け、年長児になることへの期待をもたせていく。

〈家庭との連携〉

- ・1 年間の子どもの成長を振り返り、保護者と共に喜び合う。
- ・子どもたちの進級に向けての活動の様子（お別れ会、新入園児との関わり、修了式への取組など）を伝え、保護者も一緒に進級に期待をもてるようにする。

5 歳児 I 期（4 月から 5 月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に自分から関わり、いろいろな遊びに取り組む。 ・自分のやりたい遊びをしたり、友達や保育者との関わりを楽しんだりしながらクラスのつながりを感じる。 ・年長児としての自覚をもち、生活の仕方が分かり、すすんで行う。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物や自然現象に関心や親しみをもち、考える、試す、自然を取り入れて遊ぶなどする。 ・戸外の自然に接し、その美しさや季節の変化に興味をもち。 ・イメージに合う材料や用具を選び、場の構成の仕方を工夫して遊びを楽しむ。 ・砂や泥や水などの感触を楽しんだり、特性に気付いて試したりする。 ・様々な行事などを通して、国旗に親しむ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達に対して、自分の思いや考えを自分なりの言葉で伝えようとする。 ・保育者や友達などに自分から挨拶をする。 ・身近な出来事について、感じたことや不思議に思ったことを言葉で表現する。 ・美しいものや心を動かされる出来事に会い、感じたことやイメージしたことを表現することを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・体で感じたリズムや自分たちで考えた動きを伸び伸びと表現する。 ・新しい素材や教材を使い、考えたことを自分なりに作ったり描いたりして表現することを楽しむ。 ・友達と一緒に、遊びに必要なものを自分なりに工夫して作ることを楽しむ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・年長になったことを喜び合い、友達と一緒に遊ぶ楽しさや友達とのつながりを感じる。 ・友達の考えを聞いたり、自分の考えや発見などを話したりして、伝えるうれしさを感じる。 ・うまくいかないことを通して、友達の考えや提案に気づき、受け止めようとする。 ・友達と一緒に最後まで活動する喜びを味わう。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを伝えたり、相手の話を聞いたりする。 ・年下の子どもに対して親しみの気持ちをもって接したり、世話をしたりする中で、年長児としての自覚をもち。 ・友達の動きや言葉を感じ取りながら行動する。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活の中でのきまりの必要性を感じ、保育者や友達と一緒につくる。 ・友達との関わりの中でルールを理解し、守って遊ぶ楽しさを味わう。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱など、自分で気付いて調整する。 ・手洗いやうがいなど、必要に応じて自分から行う。 ・新しい場での生活の仕方や片付け方を知ったり、1日の園生活の流れが分かって行動したりする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで戸外に出て、友達と体を動かして遊ぶ心地よさやルールのある遊びの楽しさを感じる。 ・新しい遊具に関わりながら使い方を理解し、安全に使おうとする。

〈援助のポイント〉

- ・年長になり、張り切っている気持ちや、役に立ちたい気持ちを認めることにより、進級した喜びを十分に味わわせ、自信をもって行動できるようにする。

〈家庭との連携〉

- ・進級による喜びや不安に対して、保護者の思いに共感したり励ましたりして、一緒に子どもを支えていくようにする。
- ・1年間の指導の概要や小学校との交流などの予定を伝え、年長の1年間に見通しをもって過ごせるようにする。

5歳児 Ⅱ期（6月から9月上旬）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境に触れ、自分なりの目的をもち、試したり、考えたりしながら遊ぶ。 ・友達とのつながりを深め、思いを伝えながら遊びを進める。 ・自分なりにめあてをもって、いろいろな遊びに繰り返し取り組む。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・夏野菜や草花の栽培を通して、生長の様子に関心をもち、よく見たり考えたりする。 ・身近な出来事に興味をもち、疑問に思ったことを保育者に聞いたり、調べたりする。 ・身近にあるいろいろな素材や材料の使い方が分かり、遊びに生かそうとする。 ・自分なりに楽しみながら砂や水、いろいろな素材の特性が分かり、利用して遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の伝えたいことを言葉で伝える。 ・経験したこと、感じたこと、考えたことなどをみんなに分かるように言葉で伝えようとする。 ・物語や昔話などいろいろな絵本に親しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・素材の組み合わせを楽しみ、工夫して使う。 ・いろいろな楽器の使い方が分かり、友達と一緒に音を合わせる楽しさを感じる。 ・クラス全体での歌、手遊び、ダンスなどを通して、声や動きが合うことの心地よさを感じ、表現を楽しむ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と十分に関わり、いろいろな遊びを進める。 ・友達と遊びを進めていく中で、イメージが共通になっていく楽しさを感じる。 ・相手に話を聞いてもらい、思いが受け止められた嬉しさを感じる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分とは違う友達の思いや考えを受け入れようとする。 ・分からないことなどを自分から聞いて、解決を図ろうとする。 ・友達に共感したり、自分の気持ちを伝えたりする。 ・小学校との交流を通して小学生と触れ合うことを楽しむ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活のきまりやしてはいけないことの意味や大切さが分かり、自分たちで知らせ合ったり確認したりして守ろうとする。 ・友達と簡単な遊びのルールを確認したり、伝え合ったりして、ルールを意識して遊びを進めようとする。 ・危険なことを自分で判断し、遊んだり生活したりしようとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの使った道具や保育室をきれいにしたり、共有の場をみんなで片付けたりする。 ・汗を拭く、衣服の調整、手洗い、うがいなどを、自分で気付いて行う。 ・1日の園生活に見通しをもち、状況を受け止めて自分なりに動こうとする。 ・栽培している植物の収穫を喜び、友達と一緒に何でも食べてみようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動遊びに興味をもち、様々な体の動きを楽しむ。 ・水遊び、プール遊びなど季節ならではの遊びを通して、思い切り活動する充実感を味わう。 ・遊具や用具など安全に気を付けて遊ぶ。

〈援助のポイント〉

- ・子どもたちが自分たちで考え、やってみたいと思えるような場を多く設定し、その中で自分の力を十分発揮できるように見守る。
- ・子ども同士の意見のぶつかり合いや葛藤を通して、相手の思いを理解し、子どもが自分で乗り越えられるように励ましたり見守ったりして気持ちを支えていく。

〈家庭との連携〉

- ・自分の力で生活を進められるように、園と家庭が共に励ましの言葉を掛けるなどして、温かく見守っていく。
- ・子ども同士の間で起こった出来事については丁寧に伝え、友達との関わりの中で経験していることや、そこで育つことについて理解し合い、見守っていく。

5歳児 Ⅲ期（9月中旬から10月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな活動を通して、すすんで物事に取り組む大切さや達成感を味わう。 ・みんなでする活動を楽しみながら、友達のよさに気づき、様々な友達への親しみを広げる。 ・自分の目的に向かって力を出すことの心地よさを感じ、十分に体を動かして遊ぶ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに必要な物の数、人数、適当な大きさ、長さ、バランスを考えて活動する。 ・遊びに使う簡単な標識や文字、数字に興味をもったり読んだりする。 ・遊びの中で数を数える、量を比べる、いろいろな図形に関心をもつなどする。 ・用途に合った素材を選んで使い、遊びに生かす。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験したことを話したり、友達の話の話を聞いたりする。 ・経験したこと、感じたこと、考えたことなどをみんなに分かる言葉で伝える。 ・話の内容を理解し、言葉の使い方、楽しさ、心地よさに気付く。 ・物語や話の続きに興味をもち、クラスの友達と楽しんで聞く。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・動きや体を意識した表現を楽しむ。 ・経験したこと、感じたこと、考えたこと、イメージしたことなどを、様々な方法で自分なりに表現する。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と話し合いながら、自分たちで遊びを進めていく。 ・クラスや同年齢の友達、保育者と一緒に、目的に向かって役割を感じながら活動を進め、気持ちを合わせる心地よさややり遂げた満足感を味わう。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと相手の考えの違いに気づき、受け入れようとする。 ・自分の力を発揮し、友達のよさに気付いたり認めたりしながら遊ぶ。 ・自分の身近な人（高齢者、年下の子ども、地域の人など）との関わりを通して、相手を思う気持ちをもつ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールの必要性や危険なことについて分かり、意識して行動する。 ・自分の行動の結果を、自分なりに考える。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・所持品の整理や片付けをすすんで行う。 ・健康な生活、食事の大切さなどを知り、自分の体への関心をもつ。 ・1日の園生活の流れを予測したり、見通したりして状況に応じて行動する。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動遊びにすすんで取り組み、体を十分に動かして遊ぶ心地よさを味わう。 ・遊びのルールを確かめたり工夫したりして、友達と一緒に集団での遊びを楽しむ。 ・ルールのある遊びを通し、チームで競い合うことを繰り返し楽しむ。

〈援助のポイント〉

- ・いろいろな活動の中で、子どもの挑戦しようとする気持ちを受け止め、目的が明確にもてるようにする。それぞれの頑張る姿をクラスの子どもに知らせ、よさに気付かせるとともに、みんなで喜び合う気持ちを高めていく。
- ・友達との関わりの中で互いの思いを理解できるように、相手の言葉や表情、行動に自分から関心を向けられるようにする。

〈家庭との連携〉

- ・クラスだよりや保護者会などを通して、目的に向かって自分の力を発揮して取り組んでいく過程を伝え、日々の保育や行事などの様子から、子どもの成長を理解し喜びを感じてもらえるようにする。
- ・体を動かすことで様々な意欲が引き出されることを伝え、子どもの伸びようとする力を園と家庭の両方で生かしていく。

5歳児 IV期（11月から12月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然や事象を見たり触れたりしながら、好奇心や探究心を深める。 共通の目的に向かって、工夫や協力、分担などをしながら遊びに取り組み、達成感を味わう。 チームで競い合う楽しさを味わいながら、十分に体を動かして遊ぶ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> 遊びに応じて、必要な表示を考えたり文字や数字を積極的に取り入れたりする。 今までに経験した遊び方や遊具、素材などを遊びに取り入れる。 友達の意見や考えに刺激を受け、自分なりに考えようとする。 季節の変化に関心をもち、遊びに取り入れたり調べたりする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 理由を添えたり新しい提案をしたりして、自分の考えを分かってもらえるように話す。 友達の話の内容を理解しようと、関心をもって聞く。 生活の場に応じた言葉の使い方や表現の仕方が分かる。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 自分が表現したいことを材料や方法を選び、工夫して作ることを楽しむ。 絵本や物語に親しみをもち、想像を豊かにして表現する楽しさを味わう。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> グループの友達と共通の目的に向けて遊ぶ中で、一緒に進めていく楽しさや、やり遂げた満足感を味わう。 友達と考えを出し合って工夫することで、遊びがより面白くなることを十分に味わう。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えと相手の考えの違いに気付き、折り合いを付けて進めようとする。 友達の中で、自分の力を発揮していく。 友達のよさに気付いたり認めたりしながら、遊びを楽しむ。 相手の立場に立って、考えたり行動したりしようとする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> よいことや悪いことを自分で考えて行動する。 活動に合わせてルールを考えたり変えたりしながら、それを守って進める。 その時にすべきことが分かり、自分から行動する。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 所持品の整理や片付けをすすんで行う。 共同のものの片付けの必要性を感じ、自分から片付けようとする。 1日の園生活や流れに見通しをもち、友達と声を掛け合って行動する。 健康な生活や病気の予防に関心をもち、意識して行動する。 交通ルールや公共マナーを知り、気を付けて行動する。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな運動遊びにすすんで取り組み、体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味わう。 遊具や用具、遊びに使う場所など安全に気を付けて遊ぶ。

〈援助のポイント〉

- グループでの取組の中で一人ひとりが十分に自己を発揮し、互いのよさや考えに触れて協同して遊べるような機会を意図的に設定する。
- 少し難しいことに向き合い、友達と一緒に工夫して乗り越えていく機会を意図的につくり、達成感を重ねられるようにする。
- 思いや考えの違いに気付き、グループの友達と折り合いを付けながら遊びを進めていくことができるように援助していく。

〈家庭との連携〉

- グループの友達との活動を通して協同性が育まれ、小学校での生活や学習の基礎になることを伝えるとともに、自分の子どもやクラスへの理解が深まるようにする。
- 就学に向けて生活習慣などを園と家庭で見直していく機会をつくり、家庭でも意識をもって生活してもらえるようにする。

5歳児 V期（1月から3月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・思いや考えを様々な方法で表現し、いろいろな活動に楽しんで取り組む。 ・友達と共に過ごす喜びを味わい、自分たちで遊びや生活を進め、充実感を味わう。 ・自分の体に関心をもち、心身の成長を喜び合い、就学への期待をもつ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物や自然現象に関心をもち、考えたり試したりして自然を取り入れて遊ぶ。 ・身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりして遊びに取り入れる。 ・日常生活に必要な文字や数字、標識などに興味や関心をもち、遊びの中ですすんで使う。 ・小学校での授業の体験などを通して、入学への期待をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・見る、聞く、感じる、考えるなどの経験を、自分なりの言葉で十分に表現する。 ・誰とでもすすんで挨拶を交わしたり、お礼の気持ちを言葉で伝えたりする。 ・話している人に気持ちを向け、自分の経験と重ね合わせながら、関心をもって話を聞く。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中の様々なものに自分から関わり、いろいろな方法で伸び伸びと表現することを楽しむ。 ・みんなで気持ちを合わせ、歌や踊り、劇や楽器の演奏などをする。 ・友達と一緒に共通の目的をもち、遊びの場や必要なものを作ったり描いたりする。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスや学年の友達とみんなでする楽しさが分かり、友達との連帯感を感じながら自分の力を発揮する。 ・自分たちで遊びや生活を進める充実感を味わう。 ・共通の目的や課題に向かって、友達と一緒に力を合わせてやり遂げる喜びを味わう。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分感じたことや考えたことを友達に分かるように伝え、友達の話を聞いて受け止める。 ・友達の得意な面やよさに気付き、生かし合って遊ぼうとする。 ・小学校との交流などを通して小学生との触れ合い、小学校を身近に感じる。 ・自分のことを認めてもらう経験を通して、自信をもって行動する。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで考えたルールを守って友達と一緒に遊ぶ。 ・今は何をすべきなのかを自分なりに判断し、状況に応じた行動をしようとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの整理や片付けの必要性が分かり、協力してすすんで行く。 ・時間を意識しながら生活に見通しをもち、場や状況に応じた行動をとる。 ・交通ルールが分かり、守って行動する。 ・行事や経験を通して、伝統的な日本の食文化に関心をもつ。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と積極的に体を動かす運動に取り組み、競い合う楽しさや、ルールをつくってみんなで遊ぶ充実感を味わう。 ・運動用具の使い方が分かり、活用したり工夫したりして遊ぶ楽しさを味わう。 ・危険な遊び方や場所に気付き、自分で判断して安全に行動しようとする。

〈援助のポイント〉

- ・友達と互いのよさを生かし合いながら、試したり、発見したり、考えたりする楽しさを味わい、自分たちで取り組んだ充実感を十分に味わえるようにする。
- ・生活の中で十分に自己発揮している姿を認め自信につながるように関わる。
- ・様々な友達と関わる中で、それぞれが成長したことを認め合い、自信がもてるようにする。
- ・就学に向けて期待が膨らむ思いを十分に受け止め、小学校入学への期待感をもてるようにする。

〈家庭との連携〉

- ・保護者会などで、小学校の生活や学習について具体的に伝える機会をもち、入学に向けて不安や疑問を解消できるようにする。
- ・具体的な場面を通して子どもの成長を喜び合い、入学への期待につなげていく。

3・4・5歳児 夏季保育（7月下旬から8月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のやりたいことを見付けたり、夏の自然に関わったりして、十分に遊びを楽しむ。 ・いろいろな友達との関わりの中で、自分の思いを表して遊ぶ。 ・夏の生活の仕方が分かり、安定して過ごす。
配 慮 点	<p style="text-align: center;">学びの芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色水や石けん遊び、シャボン玉など、夏ならではの遊びを繰り返し楽しめるようにする。 ・保育者もモデルとなって一緒に遊びながら、色や泡の変化の面白さや、水を使って遊ぶ楽しさを感じさせていく。 また、子どもが色や泡の変化に気付いたり、色が出る草花を発見したりすることに共感し、興味や関心をもって考えたり試したりしながら、繰り返し楽しめるようにする。 ・夏に実のなる植物を自分たちで世話をすることで、生長や収穫を楽しみにできるようにする。 ・カブトムシやザリガニなど手に持って触れることのできる生き物を飼育することを通して、生き物への親しみや、興味や関心をもてるようにする。 ・カブトムシやスズムシなど夏から初秋にかけて成虫になる昆虫を飼育して親しみ、変化に気付いたり図鑑などで調べたりしながら、興味や関心、探究心をもてるようにしていく。 ・年上の子どもがしている遊びを見てまねたり、年下の子どもに遊びを教えたりしながら、遊びの経験を広げていけるように、互いの姿が見えるような場の工夫をする。 ・家庭や地域での経験を、遊びに取り入れて楽しめるようにする。
	<p style="text-align: center;">人との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登園状況により、友達関係が変わったり、様々な保育者と関わるが増えたりするため、子ども一人ひとりの気持ちを受け止め、自分の思いを出しながら安定して過ごせるようにする。 ・夏の時期にも、みんなで一緒に遊ぶ楽しさを感じることができるよう活動をとり入れていく。 ・一緒に生活する中で、様々な友達との自然な交流を見守るとともに、時には保育者が一緒に関わりながら、遊びのルールや考え方の調整をし、異年齢で遊ぶ楽しさを感じられるようにしていく。 ・異年齢の子ども同士が関わることを、今までとは違う相手への関わり方を学んだり、年上の子どもへの憧れを育んだりする機会を捉えて援助する。
	<p style="text-align: center;">生活習慣・運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の視診を丁寧に行い、健康面に留意する。 ・暑さのために体調を崩したり食欲が落ちたりするので、1日の生活の流れに余裕をもって設定し、一人ひとりが安定できるようにゆっくりと過ごせる環境を整えていく。 ・午睡の時間を十分にとるなど、体を休めることができるような時間と場を工夫する。 ・室内外の温度差から体調を崩すことがあるので、室内の温度調整に配慮する。 ・こまめに水分補給をするように声を掛ける。 ・プール遊びや水遊びを取り入れ、戸外で体を動かす楽しさや、水の中で動く楽しさが感じられるようにする。 ・光化学スモッグなどで戸外に出られない日もあるため、室内でも巧技台を使ってアスレチックをするなど、体を動かす楽しさを感じられるようにする。 ・栽培物を収穫したり食べたりすることを通して、食べ物に興味や関心をもち、友達と一緒に食べる喜びを感じることができるようになる。
<p>〈異年齢児と一緒に生活する上での配慮点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児の状況に応じて、遊びの場を区切ったり、4・5歳児と別の保育室を生活の拠点にしたりするなど、一人ひとりの遊びや生活のペースを大切にしてお過ごせるように配慮する。 ・同じ遊びや活動の中でも、3歳児、4歳児、5歳児それぞれに応じた必要な経験ができるように援助する。保育者がどの子どもにも適切に対応できるように、連絡を密に行う。 	

〈家庭との連携〉

- ・食欲が落ちたり暑さからの疲れが出たりしやすいので、十分に休息を取り、食事や睡眠のリズムを整えてもらう。
- ・プールチェック表への記入を保護者に依頼し、子どもの健康状態を把握して、安全にプール遊びができるようにする。
- ・夏にかかりやすい伝染病の症状や熱中症の予防や対応など、夏の健康な生活に必要な情報を伝える。
- ・夏季保育ならではの経験（夏の遊び、自然との関わり、友達関係の広がりなど）や、そこで見られる子どものよさを具体的な姿を通して伝えていく。

3 就学前教育プログラム改訂版(理論編)を活用したアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの編成など

(1) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)

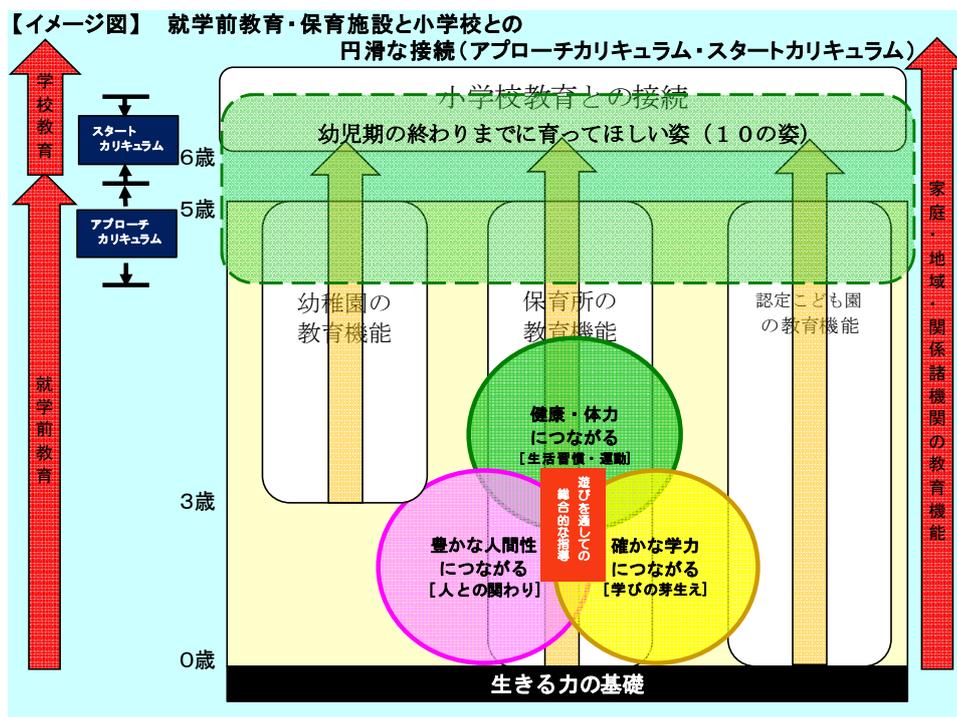
新しい「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び「小学校学習指導要領」においては、それぞれ「小学校教育との接続」「学校段階等間の接続」について、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)【本プログラム14頁から15頁参照】を共有すること等が示されています。この円滑な接続のために、就学前教育・保育施設ではアプローチカリキュラムを、小学校ではスタートカリキュラムを展開していくことが求められています。

今後、就学前教育・保育施設と小学校においては、この「10の姿」を共有し相互に連携することで、小学校への円滑な接続を図ることが重要になります。

アプローチカリキュラムとは、就学前の幼児が円滑に小学校の生活や学習へ適応できるようにするとともに、幼児期の学びが小学校の生活や学習で生かされてつながるように工夫された5歳児のカリキュラムのことです。(5歳児の10月から3月までの遊びを通しての取組)

スタートカリキュラムとは、幼児期の遊びを通じた総合的な指導を通して育まれたことが小学校での各教科等における学習に円滑に接続されるように、児童や学校、地域の実情を踏まえて編成されたカリキュラムです。(小学校入学時の4月から5月までの生活科を中心とした、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の実施等についての取組)

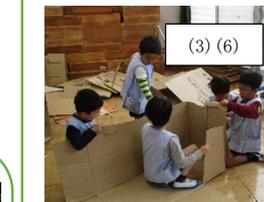
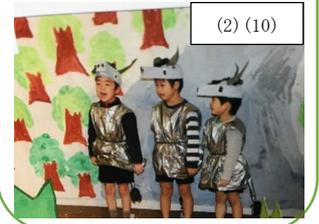
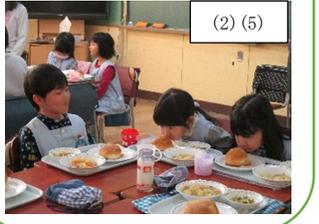
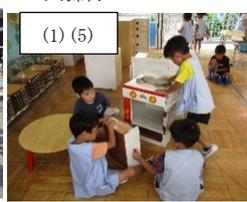
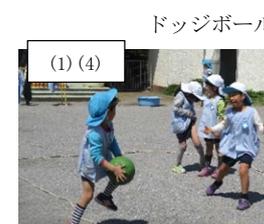
※各幼稚園や保育所等では、「10の姿」は5歳児に突然見られるようになるものではないため、5歳児だけではなく、それぞれの時期から(入園時から)、乳幼児が発達していく方向を意識して、「10の姿」を念頭に置き、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意することが重要になります。また、「10の姿」は、到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要があります。



本頁以降に、区内幼稚園、保育園、小学校でのアプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムの例を掲載します。

いずれも、幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領・小学校学習指導要領に対応した内容となっています。各就学前教育・保育施設・小学校においても参考にしながら、就学前教育・保育施設と小学校との円滑な接続を図り、子どもたち一人ひとりが安心して学校生活を送ることができるよう、学びの連続性を確保した教育の展開を期待しています。

(2) 就学前【5歳児10月から3月まで】の取組例・指導計画（区立 かみさぎ幼稚園）

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学びの芽生え （思考・言葉・創造）	主体的な遊び 泥団子作り  (2) (6) 砂場で水路作り  (2) (3) (6)	ブドウの収穫・会食  (7) (8)	ユズの収穫  (7) (8)	修了に向けて  (2) (9)	当番の引継ぎ  (7) (9)	
	運動会への取組  (3) (10) いろいろな運動遊び  (1) (2)  (1) (2)	かみさぎランドへの取組  (3) (6) いもほり・焼き芋  (3) (10)  (8) (9)  (5) (9)	小学校の展覧会見学  (5) (10) 北中野中学校の生徒との関わり  (5) (9) 未就園児との関わり  (4) (5)  (5) (10)	コマ回し  (2) (6)	子ども会への取組  (3) (6) 小学生との交流  (2) (10)  (5) (8)  (2) (5)	
人との関わり （協同・信頼・規範）	主体的な活動(遊び)の片付け  (1) (4)	ドッジボール  (1) (4)	餅つき  (5) (6)	大掃除  (1) (5)	ひなまつり  (5) (10)	
	弁当時の当番活動  (4) (8)	交通安全指導  (1) (4)	保育園とのドッジボール  (1) (3) (5)			

(1)～(10)の数字は、幼児期の終わりにまでに育ってほしい姿(10の姿)です。10の姿については、本プログラム14頁～15頁をご確認ください。

第1期(4月上旬～5月上旬)	第2期(5月中旬～6月下旬)	第3期(6月下旬～7月上旬)	第4期(9月上旬～10月中旬)
第5期(10月中旬～12月下旬)	第6期(1月上旬～3月下旬)	の6期から構成している。	

※幼児期の終わりまでに育てほしい姿（10の姿）については、入園時から幼児が発達していく方向を意識し、「10の姿」を念頭に置き、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意しています。

発達
の
姿

- ・リレーなど運動会で経験したことを繰り返し楽しみ、自分たちで準備して始め、遊びを進めていこうとする。
- ・巧技台やビーム、目打ちや段ボールカッター等、遊具や用具を安全に使い、自分のイメージを実現しようとする。
- ・飼育物や園庭の草木や実等の自然物の変化に気付いたり、遊びに取り入れれたりする。
- ・一人ひとりが自分の考えを出し、ぶつかり合う場面も見られるが、自分たちなりに解決の方法を考えようしたり、教師に相談したりする。
- ・相手に伝わるように話そうしたり、友達のアイディアを受け入れたりして遊びの流れを作っていこうとする。
- ・自分に自信をもって新しいことに挑戦する幼児が増え、友達関係に変化がみられる。
- ・学級の課題を自分のこととしてすすんで取り組もうとする。
- ・学級のみんなで取り組む活動に、自分たちで場を準備したり、必要に応じてルールをつくったりしようとする。
- ・遊びや生活の中で具体的な目的ができると、グループの友達と一緒に準備したり、進んで片付けたりする。
- ・季節の変化を感じとり、天候や気温などに応じて必要な生活の仕方を自分たちで考えてやっっていこうとする。

ね
ら
い
と
内
容

(遊び)

◎友達と共通のイメージや目的をもち、実現させていく喜びを味わう。

- ・友達と曲や絵本、物語などのイメージを取り入れて遊ぶことを楽しむ。
- ・いろいろな材料や用具を自分たちの遊びに取り入れていく。
- ・友達のしていることや教師の投げかけたことから刺激を受けて自分もやってみようとする。
- ・自分のイメージを実現するために、試したり工夫したりしながら最後まで取り組む。
- ・友達と運動遊びを進めていく楽しさを味わう。
- ・気温、草花、風などの季節の変化に気付き、園庭の動植物に興味をもって関わったり遊びに取り入れれたりする。
- ・栽培物の生長に関心をもち、変化に気付いたりする。

(人との関わり)

◎友達と共通の目的に向かって遊びを進める中で、友達のよさを認め合うようになる。

- ・遊び方やルールを友達と相談して進めていく。
- ・自分の思ったことや考えたことを相手に言葉で伝えたり、友達の姿を受け止めたりしながら、遊びのイメージや見通しを共有しようとする。

◎遊びや行事を通して、異年齢との交流を楽しみ、親しみを感ずる。

(課題・学級活動)

◎学級の課題に見通しをもって取り組み、自分の力を発揮してやり遂げた満足感を味わう。

- ・かみさぎランドに向けてグループで取り組み、やり遂げていく楽しさや充実感を味わう。
- ・友達と刺激し合い、自分の力を伸ばしていく。
- ・学級の課題を個々に受け止め、考えたり工夫したりしてやり遂げようとする。
- ・学級のみんなで取り組む中で気持ちや動きを合わせていく快さを味わいながらつながりを深める。
- ・曲想に合った楽器や打ち方を試しながら表現する楽しさを味わう。

(生活)

◎生活の流れに見通しをもって自分たちで進めていくようになる。

- ・自分の役割や仕事に気付いてグループの友達と声を掛け合って進めていく。
- ・気候に応じた生活の仕方を考えてやっっていこうとする。

環
境

☆
教
師
の
援
助

◎友達と共通のイメージや目的をもち、実現させていく喜びを味わえるように

◎友達と共通の目的に向かって遊びを進める中で、友達のよさを認め合えるように

- ・友達とイメージや考えを出し合いながら遊びを進めていけるような場・もの。イメージを実現するために試したり工夫したりできるもの。(キングブロック、段ボール、巧技台、ビーム、積み木、板積み木、ゲームボックス、マット、ござ、絨毯、ついたて、ままごと道具、出てきたイメージを共有できるような絵本やBGMなど)
- ・自分のやりたい遊びをじっくりする中で、追求したり、試したり、友達と刺激し合ったりできるもの・材料(ビニール、カラービニール、画用紙、白い紙、くねくね棒、棒、キャスター付き土台、段ボール、ガムテープ、色ガムテープ、カップ、セロファン、不織布、スポンジ、紙粘土、ホイップ粘土、キッチンセット、棚、盆、テーブル、テーブルクロス、新聞紙、布、自然物、ビーズ、モール、リボン、鉛筆、色鉛筆、油性マジック、ポスターカラー、段ボールカッターなど)

☆製作では、簡単に作り上げてしまうのではなく、本物らしくするために工夫していけるよう援助する。

☆数人で共通の目的をもって遊びを進める楽しさを感じられるようにする。

- ・友達と一緒に体を動かしたり、刺激を受けて個々に頑張ったりできる場、もの。(ドッジボール、縄跳び、サッカーなど)

☆相手のよさや頑張りを見付けたり認めたりしている姿や、疑問に思ったことをはっきりと伝えている姿を捉え、認めたり学級全体の場でも取り上げたりしていく。

- ・新しい楽器に触れることを楽しんだり、試したり、鳴らし方を知ったりできるもの。(スズ、タンバリン、カスタネット、トライアングル、木琴、鉄琴、大太鼓、ギロ、ウッドブロック、小太鼓、ハンドベル、シンバル、バチ、楽器遊びに適したリズム・速さのテープ、デッキなど)
- ・この時期ならではの繰り返し挑戦できるもの(投げコマ、コマ入れ)

☆異年齢児との交流を通して、親しみを感ずったり、教えてあげようとしたりする機会

- ・(芋ほり遠足、バス遠足、ぶどうパーティー、かみさぎランド、司会の引き継ぎ、弁当交流、砂場遊具洗い)

環
境

☆
教
師
の
援
助

◎学級の課題に見通しをもって取り組み、自分の力を発揮してやり遂げた満足感を味わえるように

さつまいも掘り…直に土や芋に触れて掘り上げる喜びや驚きを味わう機会。4歳児と手をつないで意識をもって歩く機会。

- ・芋の絵(よく見て描く、混色するなど経験に応じたもの、絵の具、筆、割り箸ペンなど)
- ・井の頭自然文化園遠足(雨天時はサンシャイン水族館)…いろいろな動物に興味をもってよく見たり、印象に残ったものを絵や製作で表現したりしていく機会。(グループでの動物作り、絵画など)

かみさぎランドに向けて

- ・グループごとに相談する機会(イメージを出し合い、作りたい物や必要な物を具体化する)
- ・本物らしいものにこだわって作ったり、一人ひとりのアイデアが生かされたりしていくような材料、用具。
- ・互いにやりとりを楽しみ、お客になり合って、必要な動きや言葉に気付いたり考えたりする機会。

☆各グループの取り組みの状況が分かるような表と、その日の振り返りをし、明日への見通しがもてるような時間を確保する。

☆3、4歳児や未就園児を招待し、関わる中で言葉掛けや動きを相手に合わせて変えていけるような働きかけをしていく。

- ・園庭の自然物を生かして自分なりに構成することを楽しめるもの(秋のフレーム作りなど)
(落ち葉、シャリンバイ、ドングリ、ムラサキシキブ、ヘクソカズラ、オナモミ、ジュズダマ、段ボールのフレーム、ボンド、割り箸など)
- ・親子でのリース作り…親子で関わりながら作りあげる満足感を味わう。
(芋づるで作った土台、家庭から持参した飾り、リボン、ドングリ、ボンド、グルーガンなど)

表現の幅を広げたり、自分のイメージしたことを見通しをもって実現していったりする機会

- ・当番表作り、修了アルバムの絵…ペン描き(アルバム用の紙、油性ペン)、色付け(薄く溶いた絵の具、梅皿、小筆、大筆、雑巾、ティッシュ、絵の具を取り分けるスプーンなど)

☆幼稚園の思い出を振り返ったり“世界で1冊のアルバム”になる絵を丁寧に描こうとするよう投げ掛けたりしながら、じっくり取り組める環境を作る。

☆アルバム作りに向けて、落ち着いてゆっくり描く、絵の具で塗るので塗りつぶさない、絵の具がにじまないよう隣同士をあけながら塗るなど、気を付ける部分を伝えていく。

- ・季節感を味わったり、新しい作り方を体験したりしていく製作物
(ブーツ・クリスマスツリー作り…画用紙、ブーツの型紙、かがり縫いの技法、毛糸、穴あけパンチなど)

多様な人との関わり

- ・こぶし園の作業体験…いろいろな人が地域で仕事をしていることを知ったり、触れ合いを通して親しみをもったりする機会。
- ・北中野中学校との交流を楽しむ機会(自己紹介、絵本、お手玉、リズムなど)
- ・やきいもパーティー…焚き火の熱さや煙たさ、みんなで会食する喜び、友達と芋を分け合って食べる機会など)

◎生活の流れに見通しをもって自分たちで進められるように

- ・稲…稲から白米になる過程を知って体験する機会
(脱穀…ガラスのコップ、杵搦り…大きめのすり鉢、野球ボール、精米…精米機)
みんなで育て、収穫したお米(ごはん)のおいしさを味わう機会。
- ・5丁目の畑(ホウレンソウ、カブ、ダイコン、タマネギなど)
- ・園庭の果実を収穫する機会(ブドウ、ユズ)
- ・温飯器の使用…弁当当番が弁当を配る経験(当番の幼児が使う滑り止め付きカラー軍手と置き場)
- ・ヒヤシンスの水栽培(グループで覆いを作る)
- ・4歳児もりの組に教える意識をもって取り組む誕生会の司会の引き継ぎ
- ・ポケットに手を入れない、手洗いうがいをする、道路の歩き方などを意識できるようにする機会。
- ・学期の終わりに必要なことに気付き、自分たちで取り組もうとする機会(大掃除、砂場掃除など)

<p>《歌・手遊び》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青い空に絵をかこう ・動物島へ行こう ・いがぐりぼうや ・あわてんぼうのサンタクロース ・世界中の子どもたちが ・おひさまになりたい ・ともだちさんか など 	<p>《紙芝居・絵本》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さつまいも ・さつまいものおいも ・おおきな おおきな おいも ・わんぱくだん シリーズ ・ロボットカミィ ・どんぐりむらのどんぐりえん ・ぼばあちゃんのおもちつき など *かみさぎランドのイメージにつながる絵本
<p>《リズム遊び・ゲーム》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジンギスカン ・チキチキバンバン など 	<p>《鬼遊び・運動遊び》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドッジボール ・新聞ボールのキャッチボール ・十字鬼 ・ひょうたん鬼 など

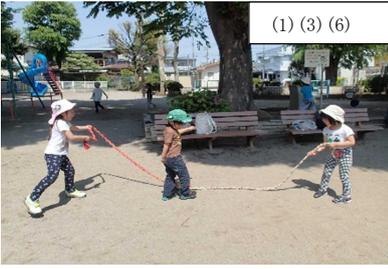
中野区立かみさぎ幼稚園 指導計画

【5歳児 第6期】（1月上旬～3月下旬）

発達 の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・すごろくやかかるた、ドッジボールなど誰でも参加できる遊びでは、互いに誘い合い、多くの幼児が集まってやり始める。学級のいろいろな友達と関わるようになり、友達関係に広がりを感じられる。 ・こま回しや鉄棒、雲梯など「次はこうしたい」「○○ちゃんのようにになりたい」と自分なりにめあてをもって、繰り返し挑戦する。できるようになると、さらに高いめあてをもって取り組む。 ・自分のやりたいもの、作りたいものに向けて、材料を探したり、試したり、工夫したりして取り組む。 ・友達と考えを出し合い、遊びの場や流れをつくって自分たちで遊びを進めようとする。 ・今まで経験したことを、友達と繰り返し楽しもうとする。 ・子ども会など学級全体の課題を自分のこととして受け止め、張り切って取り組み、友達と自分たちで進めようとする。 ・次の活動の見通しがもて、一日の生活の流れを考えて互いに声を掛け合い、自分たちで遊びや生活を進めていこうとする。 ・誕生会の引継ぎをする際に、自信をもって丁寧に教えたり、相手を気遣ったりする姿が見られる。 ・手洗いやうがいなど冬の生活に必要なことが分かり、自分で気付いて行おうとする。
ねらい と内容	<p>(遊び・人のかかわり)</p> <p>◎いろいろな友達と関わりながら、友達との遊びを心ゆくまで楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と考えを出し合いながら、自分たちで遊びを進めていく楽しさを味わう。 ・友達の言葉や動きをよく見たり聞いたりして、友達の考えやイメージを受け入れていく。 ・相手に認めてもらったり、受け入れてもらったりする喜びを感じる。 <p>(遊び)</p> <p>◎自分なりのめあてに向かって挑戦したり工夫したりして、達成した喜びを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの目的に向かって諦めずに取り組み、頑張てできるようになった喜びや満足感を味わい、自信をもつ。 ・友達のしていることに刺激を受け、より高い自分なりのめあてに向けて取り組む。 ・自分なりのめあてに向かって力を出し切ったり、相手と競い合ったりする楽しさを味わう。 <p>(課題・学級活動)</p> <p>◎学級全体であることが分かって、自分の力を発揮しながらみんなと力を合わせて取り組み、満足感を味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級の課題を自分の課題として受け止め、表現の仕方を考えたり、工夫したりしながら、友達と進めていこうとする。 ・自分の役割が分かって動き、学級の中で自分の力が生かされる喜びを感じる。 ・学級のみんなまで曲想やリズムを感じながら、合奏をしたり、歌ったりする楽しさを感じたり、つながりを深めたりする。 <p>(生活)</p> <p>◎生活に見通しをもち、自分たちで楽しみながら進め、充実感を味わうようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一日の生活に見通しをもったり、周りのことに目を向けたりしながら、自分たちでしていこうとする。 ・誕生会の司会係やモルモット当番のやり方を4歳児に教える喜びを味わう。 ・幼稚園で楽しかったことを振り返ったり、自分の成長を感じたり、自信をもって行動したりする。 ・小学校に期待をもちながら生活を進める。 ・修了式の意味が分かり、意識をもって取り組もうとする。 ・気候に応じた生活の仕方を考えてやっしていこうとする。
環境 ☆教師 の援助	<p>◎いろいろな友達と関わりながら、友達との遊びを心ゆくまで楽しめるように。</p> <p>◎自分なりのめあてに向かって挑戦したり工夫したりして、達成した喜びを味わえるように。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に体を動かしたり、刺激を受けて個々に頑張ったりできるもの、場。 <p>(ドッジボール、ボール投げ、短縄、長縄、サッカー、しっぽ取り、ドラネコねずみ、投げコマなど)</p> <p>☆こまはチャレンジ表も掲示し、一人ひとりの取り組みの様子を見て励ましたり認めたりして意欲を高めていく。</p> <p>(きのこまわし、階段まわし、ケンカコマ、コマの散歩、ジャンプコマ、綱わたりなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この時期ならではの正月遊びを楽しみながら、文字や数に興味や関心がもてるもの。 <p>(カルタ、トランプ、すごろく、けん玉、お手玉、ヨーヨー、だるま落とし、竹トンボ、羽子板、羽根、でんぐりコマなどの様々なコマなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器の音色や友達と一緒に音を鳴らすことを楽しめる場・もの。 ・いろいろな楽器に挑戦できる場、もの。 <p>(これまでに使ったことのある打楽器、木琴、鉄琴、大太鼓、ギロ、ウッドブロック、小太鼓、ハンドベル、シンバル、パチ、置き場、カセットデッキ、合奏で使う曲のカセットテープ、鳴らし方を表記したもの、木琴・鉄琴にたたく目安となる印など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども会に向けて、影絵を自由に試すことのできる場、もの。 <p>(スクリーン、OHP、白ボール紙、OHPシート、油性マジック、カラーセロファン、ロールシートなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園生活を振り返り、今までやった遊びを楽しむ機会 <p>(キングブロック、大型積み木、ゲームボックス、パラバルーン、巧技台、リレーの用具、しっぽとりのしっぽなど)</p>

環境 ☆教師 の援助	<p>◎学級全体であることが分かって、自分の力を発揮しながらみんなと力を合わせて取り組み、満足感を味わえるように。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーデー…ボールや縄などを使った運動遊び、凧作り、織物、正月遊び等を親子で楽しむ機会。 <p>子ども会に向けて</p> <p>☆学級全体の取り組みの中で、イメージをもって具体的に自分がやりたいことを考えていけるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の登場人物になって演じることを楽しむ機会、また互いに見合う機会。 ・相談したことを場面ごとに絵や文字で記して表示し、見て分かるもの。 ・必要な物を考えて作っていける材料、場。 ・場面ごとに動きや言葉を考え合っていく機会、動いてみる機会。 ・登場人物や場面のイメージがわき、表現を引き出す効果音、場面をつないでいく劇中歌。 ・ホールでの影絵と劇の場（幕、スクリーン、音響設備を設定） ・お客さんを意識した動きに気付き合う機会。 <p>(聞こえるようにお客さんの方を向いて大きな声でセリフを言う、スクリーンを見ながら動く、頭や手の動きを意識して大きく動かす、影絵ならではの技法を知るなど)</p> <p>☆合奏は、楽器の分担を決め、自分が担当する楽器を“やりたい”だけでなく“できるように頑張る”気持ちにつなげていくよう個々に励ましたり、鳴らし方を個別に指導したりする。</p> <p>季節行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事の絵本を見たり、由来を知ったりして身近に感じたりする機会。 <p>節分…柝作り（色上質紙、画用紙などで“つこうぼこ”“さんぼう”などを折り、豆まきをする）</p> <p>ひなまつり…新しい素材を取り入れながら本物らしく作ったりじっくり取り組んだりできるひな人形作り。</p> <p>(紙粘土、紙コップ、雲竜紙、京花紙、金画用紙、千代紙、リリアンや金の紐、不織布、千代紙、ボンド、のり、玄関や2階に飾ったひな人形など)</p> <p>就学に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校への期待を高める機会。 <p>(小学校の施設見学、授業見学、交流、給食体験、作品展見学、近隣の保育園とのドッジボール交流など)</p> <p>修了に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修了前に幼稚園の思い出を振り返り、自分たちの成長を感じる機会。 (様々な思いを自分の言葉や絵に表現していく文集「わになって」作り、今までに描いた絵の整理、修了に向けた装飾を学級のみんなで作る機会（割りピン人形など） <p>☆修了式の意味が分かり、意識をもって真剣に取り組んだり、自分の成長を感じたり、幼稚園や友達との別れを寂しがったりなど様々な感情を味わっていけるように、丁寧に投げ掛けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弁当を作ってくれた保護者に感謝の気持ちを伝える機会（メッセージカード、水性ペン、色鉛筆、スポンジ、洗剤、ふきん） ・3,4歳児とのかかわりを通して修了を意識していく機会。 <p>(飼育当番や誕生会の仕事の引き継ぎ、ありがとうの気持ちを伝える機会となるお別れ会、味噌汁作り、プレゼント作りなど)</p> <p>◎生活に見通しをもち、自分たちで楽しみながら進め、充実感を味わえるように。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正月遊びに興味もてるような始業式の教師の出し物（羽つきやこままわし、竹馬など） ・修了までの見通しがもてるような予定表。 ・自分たちの成長を感じながら、感謝の気持ちをもって幼稚園をきれいに掃除する機会。 				
	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>《歌・手遊び》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カレンダーマーチ ・数字の歌 ・風も雪も友達だ ・劇中歌 ・にじ ・青い空を見上げて </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・友達讃歌 ・はじめの一步 ・ありがとうのうた ・思い出のアルバム ・修了式の歌 ・風の花束 など </td> </tr> </table> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>《リズム遊び・ゲーム》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジンギスカン・チキチキバンバン ・今までに慣れ親しんだリズム など </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>《紙芝居・絵本》</p> <ul style="list-style-type: none"> *こども会につながる話 *エルマーのぼうけん *季節行事等に関する絵本 ・12支の話 ・おなかの中に鬼がいる ・泣いた赤おに ・せつぶんのひのおにいっか ・もりのひなまつり *心情に訴えかける絵本 ・じごくのそうべえ スイミー *修了・就学に関する絵本 ・おおきくなるっていうことは・みんなともだち など 《鬼遊び・運動遊び》 ・ドッジボール ・三つ巴の助け鬼 (ドラネコネズミ・グーチョキパー) など </td> </tr> </table>	<p>《歌・手遊び》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カレンダーマーチ ・数字の歌 ・風も雪も友達だ ・劇中歌 ・にじ ・青い空を見上げて 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達讃歌 ・はじめの一步 ・ありがとうのうた ・思い出のアルバム ・修了式の歌 ・風の花束 など 	<p>《リズム遊び・ゲーム》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジンギスカン・チキチキバンバン ・今までに慣れ親しんだリズム など 	<p>《紙芝居・絵本》</p> <ul style="list-style-type: none"> *こども会につながる話 *エルマーのぼうけん *季節行事等に関する絵本 ・12支の話 ・おなかの中に鬼がいる ・泣いた赤おに ・せつぶんのひのおにいっか ・もりのひなまつり *心情に訴えかける絵本 ・じごくのそうべえ スイミー *修了・就学に関する絵本 ・おおきくなるっていうことは・みんなともだち など 《鬼遊び・運動遊び》 ・ドッジボール ・三つ巴の助け鬼 (ドラネコネズミ・グーチョキパー) など
<p>《歌・手遊び》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カレンダーマーチ ・数字の歌 ・風も雪も友達だ ・劇中歌 ・にじ ・青い空を見上げて 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達讃歌 ・はじめの一步 ・ありがとうのうた ・思い出のアルバム ・修了式の歌 ・風の花束 など 				
<p>《リズム遊び・ゲーム》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジンギスカン・チキチキバンバン ・今までに慣れ親しんだリズム など 	<p>《紙芝居・絵本》</p> <ul style="list-style-type: none"> *こども会につながる話 *エルマーのぼうけん *季節行事等に関する絵本 ・12支の話 ・おなかの中に鬼がいる ・泣いた赤おに ・せつぶんのひのおにいっか ・もりのひなまつり *心情に訴えかける絵本 ・じごくのそうべえ スイミー *修了・就学に関する絵本 ・おおきくなるっていうことは・みんなともだち など 《鬼遊び・運動遊び》 ・ドッジボール ・三つ巴の助け鬼 (ドラネコネズミ・グーチョキパー) など 				

(3) 就学前【5歳児10月から3月まで】の取組例・指導計画（私立 とちの木保育園）

	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
学 び の 芽 生 え	『光るどろだんごづくり』  (1) (6) (7)		『色水あそび』  (1) (8) (10)		『おうち作り』  (3) (6) (8)		『木登り』  (1) (4) (7)	
	園庭では異年齢で、関わり合いながら好きな遊びをしています。		好きな色をスポイドを使って混ぜてみることに夢中です。ジュース屋さんにもなります。		マット・タイヤ・すのこ・ビールケース・丸太などで、お風呂やリビングなど話合いながら、完成させています。			
	「光らせるにはこの土がいいよね」と庭の土の特性を感じながら、何日もかけ自慢のどろだんごを完成させています。							
人 と の 関 わ り	『高齢者との交流』  (1) (4) (5)		『おみせやさんごっこ』  (2) (3) (9)		『おみせやさんごっこ』  (4) (6) (10)			
	顔見知りになったおばあちゃんと、触れ合い遊びやわらべうたを楽しみます。		絵本『もりのへなそうる』のお話しを1年間楽しんできた子ども達。絵本を読んで『電車屋さん』をすると幼児が主体的に決め、材料を考え、1・2歳児が乗ることを想定して、大きさや長さを調整した電車は大人気。1・2歳児の子ども達にも合わせて動きます。					
生 活 習 慣	『大空めざせ！とちの木タワー』  (3) (6) (8)		『ダンス』  (1) (3) (10)		『積み木』  (3) (8) (10)			
	グループみんなの力を合わせて、いろいろな形の中から5個選んで積み上げ、高さを競い合います。				何日もかけて、積み木で家をつくれます。積み木のコーナーいっぱい広がっていきます。			
運 動			『なわとび』  (1) (3) (6)		『ごはん当番』  (1) (2) (3)			

(1)～(10)の数字は、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)です。10の姿については、本プログラム14頁～15頁をご確認ください。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)については、入園時から乳幼児が発達していく方向を意識し、「10の姿」を念頭に置き、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意しています。

【5歳児 第3期】(9月～12月)

発達の姿	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの仲間の良いところ、悪いところも受け入れ、認め合う姿が出てくる。 考えや意見を出し合い、友達と遊びを展開したり工夫する楽しさを感じる。 季節が変わったことを感じ、言葉で表現する。 少しずつ子ども同士互いに声を掛け合いながら過ごせるようになる。 身の周りのことを、自分で気付いたり促されたりしながらも自分で管理していく。
ねらい・内容	<ul style="list-style-type: none"> 健康に関心をもち、手洗いうがいの仕方を理解してやろうとする。 着替えの姿を見守りながら、自分で衣類をたたみ片付ける。 自ら気付いたり、友達と相談したりなど、助け合いながら当番活動をしていく お昼寝がなくなってくる。(個人に合わせて進める。) 自分達でルールを考えながら、ルールのある遊びを楽しみ勝敗にこだわる。 いろいろな運動用具を利用しながら、動きを組み合わせ存分に体を動かして遊ぶ。 運動会で頑張ろうとする気持ちを高め、達成感を味わい自信をもつ。 絵本やお話のイメージを共有し役を決めて演じ、劇遊びを楽しむ。 行事を通じて保護者などから褒められたり、喜ばれることが次の大きな力になっていく。 様々な知識や経験を生かし、創意工夫を重ね、遊びを発展させる。 山(秋)の自然を感じながら山登りを楽しむ。
環境構成・援助	<ul style="list-style-type: none"> 共同製作する活動を通して、お互いを認め合い、力を出し合えるようにする。 友達の中で一人ひとりの力を出し合い、いろいろな取り組みを最後までやり遂げ、達成感がもてるようにする。 表現しようと思う物のイメージがわくよう、様々な材料や用具を使えるようにし、創造性が豊かになるようにする。 午睡しない時間の環境を整える。 どろだんごや工作物など続きができるように、保管する。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と連携をとり信頼関係を築きながら、家庭と共に育てる関係をつくる。 家での様子や園での様子を伝え合いながら、保護者の思いを共感的に受け止める。 日々の会話、保育参観・面談を通して子どもの様子について共通認識し、保護者の援助をできるようにする。 小学校校長先生のお話を開く。
行事・遊び	<p>行事 運動会 冬のお楽しみ会 山のぼり遠足 おじいちゃん、おばあちゃんと楽しむ会 クッキング ピザ作り お好み焼き クッキー 味噌汁(鯉節削り) カードゲーム等 トランプ(ババ抜き 7ならべ 神経衰弱) ココタキ ハリガリ 窓ふき職人 集団遊び 田の字 缶蹴り 地蔵オニ だるま 伝承あそび ことしのぼたん やまのおっくんさん はないちもんめ等 ダンス・体操 タタロチカ ジンギスカン だんご虫ロック なわとび 鉄棒 絵本 もりのへなそうる ももいろのきりん ロボット・カミィ 科学のともシリーズ 歌 パレード まっかなあき うさぎのはらのクリスマス 楽器あそび(森の音楽家・など) 製作 マフラー作り(指編み) パネルシアター作り</p>

【5歳児 第4期】(1月～3月)

発達の姿	<ul style="list-style-type: none"> 仲間との信頼関係の中で安定した気持ちで過ごす。 思考力や認識力が高まり、自然事象や文字などへの興味関心も深まっていく。 異年齢で過ごす中で相手の立場がわかり、頼りにされ自信をもつ。
ねらい・内容	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた雰囲気の中、安定した気持ちで生活できる。 就学前に気持ちの揺れはあるが、自信をもち期待して過ごす。 生活を見通し、自分で考えてやろうとする。 生活習慣をしっかり身に付けて自信をもって生活する。 冬の自然現象に触れる。 寒さに負けず戸外で思いっきり体を動かして遊ぶ。 正月(伝承)遊びを楽しむ。 卒園することを意識して、卒園製作など集中して取り組む。 大人や友達と一年間の成長を認め合い、喜び合う。 同じ目標をもち、達成することで仲間として一層つながりが強くなる。 就学への期待や、園生活の思い出などを語る。
環境構成・援助	<ul style="list-style-type: none"> 就学への不安な気持ちに寄り添いながら、期待、自信がもてるようにしていく。 卒園までの日々を異年齢児と交流したり、友達と遊びながらゆったりと過ごしたりする。 小学校訪問や給食体験、交流をする。 異年齢で一つのことに取り組む、見守り、任せながら、援助する。 赤ちゃんクラスへお世話に行く。自分が赤ちゃんだったときのことを聞くなどして、大切にされてきたことを感じる。 近隣の幼稚園・保育園とドッジボール交流で、同じ小学校へ行く友達と顔見知りになる。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が心配なこと等があったら話を聞き、一緒に考えたりアドバイスをしたりする。 小学生になることへの期待がもてるように、保護者と一緒に支えていく。
行事・遊び	<p>行事 おみせやさんごっこ ゆうびんやさんごっこ 節分 ひな祭り ドッジボール大会 卒園を祝う会 お別れ遠足 お茶会 赤ちゃんクラスへのお手伝い お別れ会 クッキング ケーキ作り(ワンホールのケーキ作り) カードゲーム すごろく ツリアモ カルタ トランプ 集団遊び ドッジボール 手つなぎオニ たかおに 缶蹴り 伝承あそび コマ 羽根つき けん玉 あやとり わらべうたあそび ダンス・体操 エビカニックス おすもう大会 過去楽しんできたダンスや体操 絵本 エルマーシリーズ ともだちやシリーズ 大きくなるっていうことは 科学のともシリーズ 歌 にじ(手話) おにはうちでひきうけた ひなまつり 卒園の歌 製作 ビーズブローチ作り 卒園製作 凧 おひなさま オニ カルタ作り</p>

(4) 小学校入学当初期【4月第1週から5月第1週まで】の取組例・指導計画
 ・生活科を中心とした単元配列表・週ごとの指導計画（区立 上鷺宮小学校）

	4月第1週	～	5月第1週
知識・技能の習得	 (1) (2) 朝、登校したら授業の準備をします。	 (2) (5) 下校の時間です。元気に挨拶をして帰ります。	 (2) (6) (9) 国語の時間です。鉛筆を正しく持って字を書きます。
	 (1) (3) (4) 給食の時間です。班で楽しく給食です。残さず食べます。	 (1) (3) (10) 体育の時間です。楽しく体を動かします。	
思考力・判断力・表現力等の基礎	 (3) (9) (10) 1年生を迎える会です。お礼に歌を歌いました。	 (6) (7) (9) 生活科の時間です。アサガオを育てて観察します。	 (5) (6) (10) 図工の時間です。消防写真会をしました。
	 (2) (6) (10) 国語の時間です。役割を決めて音読発表会をします。	 (4) (5) (9) 休み時間です。学級のみなどとボール遊びをします。	
学びに向かう力・人間性等	 (3) (5) (6) (8) 生活科の時間です。2年生と学校探検をしました。校長先生にスタンプを押してもらいました。	 (2) (3) (5) 掃除の時間です。教室や廊下の掃除をきれいにします。	 (5) (9) 遠足です。2年生と一緒に楽しく遊びました。
	 (1) (2) (3) 給食の時間です。みんなで力を合わせて配膳をします。	 (1) (5) (9) 帰りの会です。日直さんが司会をします。	

(1)～(10)の数字は、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)です。10の姿については、本プログラム14頁～15頁をご確認ください。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)を基礎とした、小学校での教育活動例です。子どもたち一人ひとりが安心して小学校生活を送れるよう、学びの連続性を確保した教育を展開しています。

区立 上鷺宮小学校 指導計画・生活科を中心とした単元配列表【4月第1週～5月第1週】

3月	◆就学前教育・保育施設の先生方との交流 ・幼稚園や保育園、認定こども園の施設や、園児の1日の生活の様子を知る。 ・幼稚園や保育園の活動の内容や、先生方の取り組みを知る。 ・幼稚園や保育園の先生方の願いを知る。
春休み	◆スタートカリキュラム作成 ・文部科学省の資料や他校の先行研究を基にスタートカリキュラム作成。 ①スタートカリキュラムの大体のイメージや期待する児童の姿を全教職員間で共有。 「安心して自分を発揮できる子をめざして」 ②週ごとの指導計画を活用して、具体的な取り組みを検討。
4月	◆スタートカリキュラム実施 ・毎週指導計画を振り返りながら改善。
5月	◆1か月後の1年生の授業を参観 ・生活科の研究授業を実施。 ・幼稚園、保育園の先生方にも参観してもらい、意見交流。
夏休み	◆保幼小合同で講演会の実施 ・スタートカリキュラムについての講演会を実施。
10月	◆幼稚園・保育園の園長との協議 ・幼稚園・保育園の保育士と小学校の教員でのスタートカリキュラムの振り返りができるように意見交流。
11月	◆今年度のスタートカリキュラムについての検討会 ①幼稚園・保育園の保育士と小学校の教員でのスタートカリキュラムの振り返り。 ②次年度の新1年生の情報交換とスタートカリキュラムの方向性の検討。
1月	
3月	◆次年度のスタートカリキュラムの作成 ①円滑な接続ができるようにアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの整合性を図る。 ②新1年生の実態を踏まえた、スタートカリキュラムの作成。

各教科等	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
国語	あさ	なんていおうかな どんなおはなしかな	どうぞよろしく	こえのおおきさ どうするの	うたにあわせて あいうえお ことばをつくらう
算数			なかまづくりとかず		なんばんめ
生活			わくわくどきどき しょうがつこう		
音楽		おんがくに	あわせて		あつまれ おんがくなかま
図画工作	じぶんのかお		すきすきハウス		はさみめいじんになろう
体育			たのしくあそぼう		
道徳			たのしいがっこう		じかんのきまり
特別活動	入学式		たのしい きゅうしょく		1年生を迎える会

区立 上鷺宮小学校 週ごとの指導計画

【4月第1週～第3週】

	4月6日 (金)	4月9日 (月)	10日 (火)	11日 (水)	12日 (木)	13日 (金)	16日 (月)	17日 (火)	18日 (水)	19日 (木)	20日 (金)	
週の めあて	【第1週目】はじめまして 小学校 環境に親しみ、学校に安心感をもち。						【第2週目】みんな なかよし いろいろな人とかわり、人間関係を広げる。					
8:15	・登校したら、6年生と一緒にランドセルをロッカーに入れてトイレ・水飲みをする。 ・席について読書・お絵かき・折り紙等で遊ぶ。						【朝の支度を6年生と一緒に各自で行う。】 ・登校したら、朝の支度(ランドセルの片付けまで)を6年生と一緒にやる。 ・トイレ、水飲みに行き、席について読書・お絵かき・折り紙等で遊ぶ。					
8:35	1週目の1時間目は、安心して楽しく1日が始められるように、幼稚園や保育園で行っていた活動を行う時間として設定した。15分ごとのモジュールで、体を動かす遊び、歌、読み聞かせなどを取り入れた。						6年生に、朝の時間、給食の片付けの時間、掃除の時間に手伝いをお願いした。教師以外にも安心して存在を作った安心感をもたせられるようにした。					
	【朝の支度を教師と一緒に全員で行う。】 ・ランドセルの中身を出し、道具箱に入れる。 ・給食袋を机の横のフックにかける。 ・ランドセルをロッカーに入れる。 ・提出物と連絡帳を班のかごに入れる。						♥【安心をつくる時間】 ・朝のあいさつ、健康観察 ・手遊び、歌を歌うなどの簡単な遊びを行う。					
1	♥【安心をつくる時間】 (学活)朝の挨拶・健康観察・ふれあいゲーム (音楽)歌を歌おう「どきどきどん 1ねんせい」 (国語)手遊び・読み聞かせ						学活・行事	国語	図工	行事・国語	国語・生活	
2	行事	生活・行事	国語	国語	国語・学活	国語・行事	国語・学活	体育	図工・行事	体育	国語	
3	行事	学活	学活	生活・国語	生活・国語	生活・体育	算数	算数	生活	算数・学活	算数	
4	学活	学活	生活・国語	生活・国語	生活・体育	算数	算数	生活	算数・学活	算数	算数	
5	学活	学活	生活・国語	生活・国語	生活・体育	算数	算数	生活	算数・学活	算数	算数	

♥一人ひとりが安心感をもち、新しい人間関係を築いていく時間

☞教科などへの興味・関心をもち、学習を楽しむ時間

【4月第4週～5月第1週】

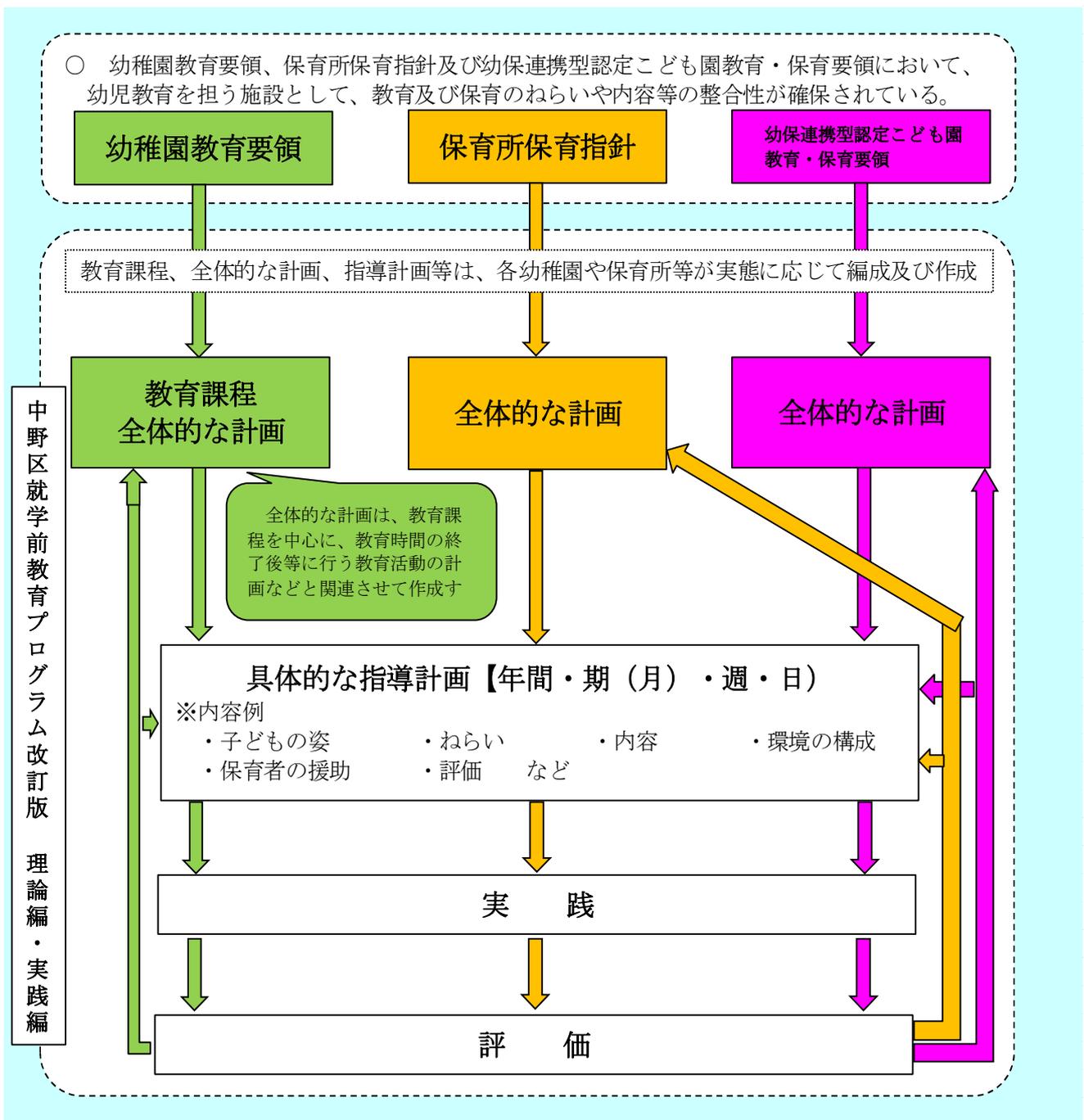
	4月23日 (月)	24日 (火)	25日 (水)	26日 (木)	27日 (金)	30日 (月)	5月1日 (火)	2日 (水)	3日 (木)	4日 (金)	
週の めあて	【第3週】じぶんで やってみよう 自分でできることを増やし、自信をもって生活する。					【第4週】べんきょうって たのしいな 自分で興味をもって調べたり、わかったことを友達に伝えたりする ことを楽しむ					
8:15	【朝の支度を6年生と一緒に各自で行う。】 ・登校したら、朝の支度(ランドセルの片付けまで)を6年生と一緒にやる。 ・トイレ、水飲みに行き、席について読書・お絵かき・折り紙等で遊ぶ。					【朝の支度を6年生が見守り各自で行う。】 ・登校したら、朝の支度(ランドセルの片付けまで)を自分でやる。 ・トイレ、水飲みに行き、席について読書・お絵かき・折り紙等で遊ぶ。					
8:35	♥【安心をつくる時間】 ・朝のあいさつ、健康観察 ・手遊び、歌を歌うなどの簡単な遊びを行う。					♥【安心をつくる時間】 ・朝のあいさつ、健康観察 ・簡単な遊びと今日の予定を聞き見直しをもつ。					
1	国語・行事	国語	図工	体育	国語	生活	図工	生活	図工	生活	
2	生活	体育	図工	国語	国語	生活	図工	生活	図工	生活	
3	算数	算数	国語	算数	算数	生活	国語	生活	国語	生活	
4	音楽	道徳	生活	国語	体育	国語	算数	生活	生活	生活	
5	音楽	道徳	生活	国語	体育	国語	算数	生活	生活	生活	

★身の回りの環境に興味・関心をもち、体験や活動を楽しむ時間

- ♥一人ひとりが安心感をもち、新しい人間関係を築いていく時間
- ☞教科などへの興味・関心をもち、学習を楽しむ時間
- ★身の回りの環境に興味・関心をもち、体験や活動を楽しむ時間

(5) 就学前教育プログラム改訂版（理論編）を活用した教育課程・全体的な計画の編成

幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、幼稚園や保育所等の教育及び保育の基本とそのねらい及び内容等を示したものであり、これらを踏まえて、各幼稚園においては教育課程を編成し、各保育所及び認定こども園においては全体的な計画を作成することが重要です。



本頁以降に、区内幼稚園、保育園、認定こども園の全体的な計画例を掲載します。いずれも、幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に対応した計画となっているため各就学前教育・保育施設においても参考にしながら全体的な計画を作成してください。

①幼稚園教育課程全体的な計画（区立 ひがしなかの幼稚園）

教育基本法 学校教育法 幼稚園教育要領
中野区教育ビジョン 教育委員会教育目標

園や地域の特色 幼児の発達の特性
本園の幼児の実態 教師の願い
保護者や地域の願い・期待

ひがしなかの幼稚園教育目標

心も体も健康で明るくたくましい子どもを育てる

- 夢中になって遊ぶ子ども
- 感じる心をもつ子ども
- よく考え表現する子ども

目指す幼稚園

笑顔いっぱい 宝物いっぱい 一人ひとりが輝く幼稚園<30年度>

- 幼児の発達に即した遊びや生活を通して学びの多い保育を推進する幼稚園
- 一人ひとりの幼児に応じた保育を展開する幼稚園
- 保護者や地域から信頼される幼稚園
- 質の高い幼児教育を展開するために資力向上を促す幼稚園

経営方針

平成30年度経営計画

平成30年度教育課程

<教育目標を達成するための教育課程編成の重点（基本となる考え）>

- 幼児の自発的な活動としての遊びや生活を通して、心身ともに健やかな子どもを育てる。
- 心が揺り動かされる直接体験を通して、豊かな感性や好奇心、思考力や探究心、表現力を育む。
- 様々な人との関わりを通して、人への信頼感を深め、自分も友達も大切にすることを育む。
- 一人ひとりのよさや可能性、違いを受け止め、学びや発達の過程を重視しながら育む。
- 子どもの健やかな成長の基盤である家庭と連携して教育活動を進めながら、保護者が安心して子育てをし、親としての意識が高まるように子育ての支援をしていく。

<教育課程編成、実施に関わる主な指導の重点（活動）>

- 主体的・対話的で深い学びが実現する過程を重視した遊びの充実（指導計画 週日案 反省評価 研究保育）
- 一人ひとりの発達の特性や成長の過程を踏まえた多面的な幼児理解に即した指導（個人記録 個別支援計画 アセスメントシート 介助員の個人記録 巡回相談）
- 互いの良さを認め合い育ち合える学級づくり（人権教育全体計画 学級経営案）
- 基本的な生活習慣の確立（くらしのきほんカード 保健ニュース）
- 自然物や命あるもの、環境を大切にする活動（野菜の栽培収穫調理 なかよし池 飼育物 堆肥作り エコ活動）
- 異学年の幼児の関わり（誕生会 わくわくランド 運動会 当番引継）
- 保幼小中連携教育の推進

<特色ある教育活動>

- 自ら健康で安全な生活をつくり出していくことを促す活動 **オリパラ教育全体計画** **保健計画**
親子で体を動かす機会 中野東中学校の校庭
- 自然との関わりや伝統行事に関わる体験を通して豊かな感性を育てる活動 **栽培計画** **季節行事年間計画**
飼育物 園庭の樹木果実 食育活動
- 異校種、地域との交流を通して人と関わる喜びや相手への親しみを感じたり豊かな体験を積み重ねたりする活動
・講師を招いた体験…自然遊び、運動遊び、琴体験、コマ
・中野東中学校…合同避難訓練、保育実習他
・白桜・塔山小…小学校見学、給食体験、職場体験、校長先生の講話

<保護者との連携>

保育参観計画 保護者会計画
学級懇談会計画 個人面談
親子タイム計画 園庭開放計画
ここにクラブ計画 絵本貸出
園行事への参加・手伝い
わくわくファミリーデー計画
園教育の理解を促す発信（園だより 学年だより、写真掲示、HP）
父母の会活動
保護者が主催する行事

行事計画（誕生会・遠足）

<地域との連携>

東中野地区祭りへの参加
エキヒロフェスタへの参加
未就園児親子の会（月1回）
認証保育所へ園庭開放
高齢者との触れ合い

学校安全計画（安全指導計画・避難訓練計画・不審者対応訓練）

小学校教育との接続（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿）

園内研計画

中野区就学前プログラム(理論編)

指導計画

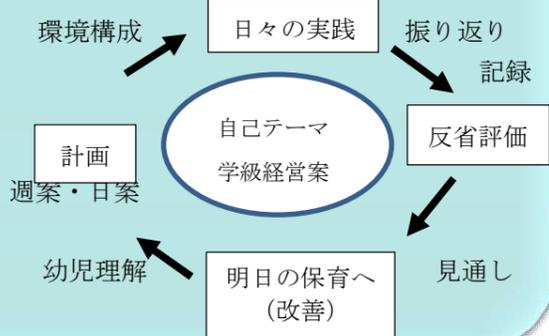
○指導計画（本園の幼児実態から、3歳児（Ⅰ期～Ⅵ期）・4歳児（Ⅰ期～Ⅶ期）・5歳児（Ⅰ期～Ⅵ期）に分け、**ねらい** **内容** **経験させたい活動** **環境構成** **教師の援助** **家庭との連携** の項目で記載）

<各学年の指導の主な重点>

3歳児：幼稚園で安心して過ごし、自分から遊びを楽しんだり、みんなと一緒に活動したりする心地よさを味わえるようにする。

4歳児：遊びや生活体験を広げ、友達と遊ぶ中で、自分の思いや気持ちを言葉や動きで表し、自己を発揮できるようにする教師との信頼関係を築く

5歳児：遊びや生活を進める中で自分の力を発揮し友達と互いのよさに気づき、認め合いながら、つながりを深めていく



教員の研修（学び続ける教師）

<園内研修・研究会>

○園内研究（30年度テーマ：豊かな遊びや生活を目指して～教師一人ひとりの資質向上～）

○研究保育・ビデオカンファレンス ○自己テーマの設定
○学級経営案 ○幼児の読み取り（個人記録・個別指導計画）
○幼児の育ちの振り返り（要録） ○自己申告 ○教材研究

<園外研修・研究>

○職層に応じた研修 ○区立幼稚園教育研究会（月1回）
○中野区幼稚園教育研究会（年3回） ○合同研
○特別支援教育研修会 ○区・都の主催する研修会

個の資質向上

チームひがしなかの（協働体制）

幼稚園力

*学級の枠を超えた保育
*育みたいことの共有化

- 職員会議（月2回）
- 学年会（週2回）
- 支援会議（月に1回）
- 全教職員で行う特別支援研修会（学期に1度）
- 巡回相談
- 園内人権教育研修会
- 園内緊急時対応連絡会

②保育園全体的な計画（区立 弥生保育園）

中野区立保育園の保育目標	一人ひとりの子どもを大切に 集団生活をとおして ○じょうぶな身体 ○豊かな心 を育てる																
保育理念	自己肯定感が生まれ、自分を大好きといえる子どもたちが育つ保育 子どもにも保護者にも地域にも寄り添った保育園であること																
保育方針	当たり前のことを丁寧に言い、一人ひとりを大切に保育 豊かな人間性をもった子どもを育てる																
保育目標	*心身ともに丈夫な子ども		*考えて行動する子ども		*思いやりのある子ども												
社会的責任		人権尊重			説明責任		個人情報の保護		苦情解決								
○児童福祉法、保育指針に基づく児童福祉施設として児童・保護者・地域に対して保育園の役割を確実に果たす。 ○子育て支援事業に積極的に取り組み、子育て相談や保育の紹介、見学等を実施する。		○基本的人権を尊重し、児童憲章の精神に則り、児童の最善の利益を保障する。児童・保護者を個人として尊重する。 ○児童虐待防止と早期発見・対応に努める。			○保護者や地域社会に対して、園の理念・方針や保育活動の目的・計画、児童の様子や活動の内容を、多様な手段を用いて説明する。 信頼関係構築のため、連携や交流を図り情報の開示、共有化を図る。		○児童福祉法の精神に基づいた保育事業を遂行するため、取得した個人情報の取り扱いについては最新の注意を払い保護する。保育にあたり知り得た子どもや保護者に関する情報は、正当な理由なく漏らさない。（児童福祉法18条の22）		○苦情解決責任者である施設長の下に苦情解決担当者を決めて対応し、記録に残すと共に職員間で共通理解を図る。 ○苦情・意見などの内容について真摯に受け止めて対処し、保育の質の向上に努める。								
○発達過程 年齢別クラスで園生活を送る。保育所保育指針、中野区就学前保育・教育カリキュラム、園の理念、保育方針、保育目標に基づき、指導計画を作成する。子どもの発達段階を踏まえ、一人ひとりの発達に合わせ、養護と教育が一体となった保育を展開する。		○季節や伝承行事の計画的実施 主な行事：・顔合わせ会・ミニ運動会・プール遊び・七夕・運動会・弥生ランド・お楽しみ会・弥生ミュージアム・新年子ども会・節分・ひな祭り・ワクワクランド・就学祝いの会・大きくなったねの会・クッキング活動など															
年齢別の保育目標 平成30年度 視点のポイント 健康な心と身体 協同性		0歳 保育士との安定した関わりの中で愛着や信頼関係を築き、安心して過ごす。		2歳 安心して保育者との関係の中で身の回りのことに関心をもち、自分でやってみようとする		4歳 自分の身を守り、安全に気をつけて行動する。		自分でできる喜びと共に、必要な言葉や習慣や態度を身に付ける。									
		1歳 安定した関わりの中で要求や思いを受け止めてもらい様々な活動の中で、自分でしようとする気持ちをもつ。		3歳 身の回りの人と関わりを深めながら、自分のことを積極的にしようとする。		5歳 集団生活や社会生活に必要なルールを身に付け、自分で考え見通しをもって行動する。											
保育の内容																	
領域	年齢	おおむね6か月未満		おおむね6か月から1歳3か月未満		おおむね1歳3か月から2歳未満		おおむね2歳		おおむね3歳		おおむね4歳		おおむね5歳		就学前	
養護	生活の保持	・一人ひとりの子どもに合わせて心地よく生活できるようにする。		・徐々に生活リズムを整えながら、心地よく生活できるようにする。		・生活リズムが整い、心地よい生活ができるようにする。		・生活リズムが安定し心地よく過ごせるようにする。		・生活に必要なことが自分でできるように働きかける。		・生活の流れを知らせ、自分から行動できるようにする。		・生活の見通しをもって、健康で安全に過ごせるようにする。		・先の見通しをもって主体的に生活できるようにする。	
	情緒の安定	・生理的欲求が十分に満たされ、安心して過ごせるようにする。		・大好きな人に甘え、安心して過ごせるようにする。		・安心して自分の欲求や気持ちが出せるようにする。		・子どもが自己主張できる信頼関係を育んでいくようにする。		・一人ひとりの気持ちを受け止め、安心して過ごせるようにする。		・考えたり試したりしている姿を見守り、自分でできたという自信がもてるようにする。 ・身近な人の気持ちを察し、少しずつ自分の気持ちを抑え、我慢ができるようにする。		・目標に向かって行動する姿を認め、自信がもてるようにする。 ・自分の健康に関心をもち、病気予防などに必要な活動を行う。 ・安全に過ごすためのルールを知り、行動する。 ・基本的な生活習慣を身に付け、すすんで行う。		・集団生活の中で、自分の力を発揮し、周囲に認められる喜びを味わえるようにする。	
教育	基本的生活習慣・健康	・首がすわり、手足を活発に動かし、寝返りをするなど著しい発達が見られる。 ・身体を清潔にしていらい、気持ちよく過ごす。（食べ、眠り、排泄する）		・お座り、這う、立つ、歩く。腕や手先の動きも発達する。睡眠が一定してくる。		・歩行が完成し、指先の機能が発達する。 ・睡眠が一回りなり安定して眠る。 ・便器での排泄に慣れてくる。		・歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能や指先の機能が発達する。 ・保育者の言葉かけで危険なことを知る。		・いろいろな活動することにより自分の身体の動きをコントロールし、身体機能を高めていく。 ・保育者の言葉かけにより危険なことや場所が分かる。		・全身のバランスをとり、自分が思ったように身体を動かす。 ・身体の異常や危険なことに気付く。 ・生活に必要な基本的な習慣を身に付ける。		・全身を使ったいろいろな運動遊びを楽しむ ・自分の健康に関心をもち、病気予防などに必要な活動を行う。 ・安全に過ごすためのルールを知り、行動する。 ・基本的な生活習慣を身に付け、すすんで行う。		・全身運動が滑らかで巧みになり、思い切り身体を動かして遊ぶ。 ・自分の身を守り、安全に気をつけて行動する。 ・基本的な生活習慣が自立し、見通しをもって主体的に生活する。	
	食育	・保育者との安定した関係の中でミルクを飲む。		・離乳食が進んで完了食に移行する。		・いろいろな食べものに興味をもち自分で食べようとする。 ・スプーンなどを使って食べようとし、完了食から乳児食になる。		・いろいろな食べものに興味をもち、楽しい雰囲気の中で、友達と一緒に食べることを楽しむ。		・友達と食事を楽しむ中で簡単なマナーを知る。 ・スプーンやフォークを正しく持って、こぼさないように食べる。		・自分が食べる食品に興味をもち、素材の名前を知る。		・食事が健康にとって大切なことを知り、いろいろな食品を食べる。		・食事の大切さを理解し、自分の体に関心をもち、マナーを意識して食べる。	
	人間関係（信頼・思いやり）	・いつも世話をしてくれる人が分かり、あやされた笑ったり、見慣れない人に泣いたりする。		・大好きな人に甘える。 ・人見知りをして、特定の保育者の後追いをする。 ・身近な保育者の手振りを模倣して遊ぶ。		・保育者や友達への関心をもつ。 ・他の子どもと同じことをしたがりが、追いかけてこや物や場所の取り合いをする。		・保育者が仲立ちとなり友達と関わって遊ぶ楽しさを知る。 ・思い通りにいかないと泣いたり、かんしゃくを起こしたりするが、自分のして欲しいことを身振り手振り、言葉などで伝える。		・感情が豊かになり喧嘩も多くなるが、友達といふことの喜びや楽しさを感じる。 ・遊びや生活の中で、ルールがあることの大切さに気付く。		・互いの気持ちや意見を伝え合いながら、仲間と一緒に活動する楽しさを味わう。 ・遊びや生活に必要な決まりを守ろうとする。 ・身近な人との触れ合いを通して、感謝や思いやりの気持ちをもち、自分の気持ちをコントロールする。		・集団生活や社会生活に必要なルールを身に付け、主体的に行動する。 ・仲間同士認め合い、共通の目的に向かって、協力して物事をやり遂げようとする。 ・人との関わりの中で、自分の気持ちをコントロールする。			
	（思考）環境	・自分の手や身の周りのものを見つめたり触れたり、なめたりして遊ぶ。		・好奇心旺盛になる。 ・つまむ、叩き合わせるなどして、玩具で遊ぶ。		・行動範囲が広がり、探索活動が盛んになる。 ・つまんだり、拾ったり、引っ張ったり、物の出し入れや操作を何度も繰り返して遊ぶ。 ・外遊びを喜び、小動物や自然物と関わって遊ぶ。		・身の回りのものや動植物への興味や関心をもつ。 ・保育者と一緒に模倣遊びを十分に楽しむ。		・身近な動植物に興味や関心が広がる。 ・経験したことを取り入れたごっこ遊びを楽しむ。 ・自分の物と他人の物の区別が分かる。		・自然の変化、美しさ、不思議さに気付く。 ・いろいろな事物や出来事に関心を深める。 ・生活や遊びに必要なものを見たり、扱ったりして、文字や数量、図形などに関心をもつ。		・身の回りの様々な環境に関心をもち、考えたり試したりする。 ・簡単な文字や数を日常生活の遊びの中で考え工夫して使う。			
	（言葉）言葉	・周りの音や声に反応する。 ・アーワーと声を出し、喃語を発する。		・語りかけられることを喜び、大人の言うことが分かる。 ・自分の欲求や伝えたいことを指さしや一語文で表す。		・二語文が出てくる。要求語「ちょうだい」「○○して」「いや」などを使う。 ・絵本を読んでもらうことを喜ぶ。		・生活に必要な言葉が分かり、してほしいことを言葉やしぐさで伝える。 ・絵本や紙芝居などを楽しんで見たり聞いたり繰り返しのある言葉の模倣を楽しむ。		・「なぜ?」「どうして?」といった質問を盛んにする。 ・話を聞いてもらう経験を重ねながら少しずつ相手の話を聞く。 ・絵本・紙芝居などを見たり、聞いたりしてその内容を楽しむ。		・日常生活に必要な挨拶をする。 ・保育者や友達と会話を楽しむ。 ・絵本や紙芝居に親しみ、ストーリーや言葉の面白さに気づく。		・日常生活に必要な挨拶をする。 ・自分の感じたことや考えたことを相手に分かるように話し、相手の話をもっと聞く。 ・絵本や物語などに親しみ、想像する楽しさを味わう。		・日常生活の中でその場に応じた挨拶をする。 ・人の話をよく聞き、状況に合わせて、言葉による伝え合いをする。	
	（表現）表現	・心地よいと笑ったり、不快な時は泣いたりして要求を表す。		・いろいろな心の動きを表情やしぐさで表わす。 ・歌や音楽に合わせて身体を動かして遊ぶ。		・みたくて遊びが盛んになる。 ・歌ったり手遊びしたり、リズムに合わせて身体を動かしたりして遊ぶ。 ・なぐり描きを楽しむ。		・保育者や友達と一緒に歌ったり手遊びしたり、リズムに合わせて身体を動かしたりして遊ぶ楽しさを共有する。		・いろいろな素材を使い表現する。 ・身のまわりの音、色、手触り、動き、味、香りなどに気付く感動を素直に表現する。		・想像力が豊かになり、自由に表現して楽しむ。		・想像力を膨らませ、工夫しながらいろいろな表現活動を楽しむ。 ・友達と気持ちを合わせて表現する楽しさを味わう。		・生活経験の中から、自分の思っていること、感じたことをごっこ遊び、造形活動、リズム表現活動で自由に表現する。 ・友達と共通のイメージを持ち、役割を分担しながら、表現活動を楽しむ。	
	配慮点	・生理的欲求のサインを受け止め、満たしていく。 ・子どもが泣いたり笑ったりしたとき、視線を合わせて微笑んだり、語りかけたりする。 ・清潔で心地よい環境を整える		・子どもに合わせて離乳を進める。 ・子どもの気持ちを受け止めて言葉や表情で応じていく。 ・後追いや人見知りは、成長のステップとして温かく見守る。 ・動きを活発になり、何でも口に入れるので、安全な環境を整える。		・子どもの気持ちを十分に受け止め、言葉で返していく。 ・子どもの驚きや問いかけに共感していく。 ・保育者も一緒に遊びながら友達と遊ぶ楽しさや関わり方を知らせていく。 ・安全な環境を整え、危険なことを具体的に知らせていく。		・自分でしようとする気持ちを大事にする。 ・自分でできる喜びを味わえるよう援助する。 ・できるだけ戸外で遊ぶ機会を多くする。 ・だだをこねたり頑固な姿も見られるが、気持ちを受け止め、待ったり見守ったりする。 ・子どもの表現、しぐさ、言葉を受け止め、共感し言葉を通して人と関わることの楽しさを伝えていく。		・だいたいのことができるようになり、保育者の手助けを拒むことも多い。気持ちを受け止め一人でできる経験を増やし自信をもって生活できるようにする。 ・子どもの問いかけを受け止め、一緒に考えたり応えたりして話す喜びを育んでいく。 ・豊かな遊びが展開できるような環境設定をする。		・一人ひとりの子どもの感じたことや思ったこと、想像したことなどいろいろな方法で自由に表現できるように環境設定をする。 ・いろいろな経験を大切にしながら自分で十分に出せるよう、子どもの思いを受け止め、人の気持ちの理解や協調の気持ちを育てていく。		・集団での活動も充実し、友達との関わりの中で喧嘩や葛藤を経験する。相手の気持ちを理解し、互いに必要な存在であることを分かるようにしていく。 ・生活習慣の基礎が育つような環境を整える。 ・生活習慣や生活態度を身に付け、学校でも主体的に活動できるようにする。 ・小学生との交流を通し、小学校を身近に感じる機会をつくる。			
食育の取り組み		○行事会食 ○給食展示 ○メニュー・レシピ紹介 ○食品紹介 ○栽培・収穫 ○クッキング保育 ○三食表 ○誕生日プレート ○マナー指導など *食育計画(別紙)						特色ある保育		○乳児クラスからの継続的な運動遊びを積極的に取り組む 運動プログラム推進園○話を聴ける子を念頭に、継続した取り組み ○年1回本物に触れる機会を(コンサートなど)							
健康支援		○健康・発育発達状態の定期的、継続的把握 ○心身の状態や家庭生活、養育状態の把握 ○年間保健指導計画(別紙) ○嘱託医による内科・歯科健診 ○異常が認められた時の適切な対応 ○健康教育 ○保健だより ○保護者への健康指導						他機関との連携		○南部すこやか福祉センター ○子ども家庭支援センター ○ゆめなりあ 児童相談所 ○南中野児童館							
環境・衛生管理		○子どもの発達保障のための人的・物的環境を整備する ○子ども及び職員の清潔保持、手洗い、うがいの徹底 ○生活習慣確立を支援(早寝、早起き、朝ご飯) ○施設内外の設備、用具の清潔及び消毒、安全点検及び自主点検(月一回) ○全職員の検便						小学校との連携		○保幼小連絡協議会 ○地域教育懇談会 ○小学校との交流・行事への参加 ○保育園行事等の案内状の送付 ○保育要録の送付 ○教員研修の受け入れ ○学校施設の利用 保護者会開催時の協力要請							
安全対策・事故防止		○毎月避難訓練(火災・消火・地震・不審者対応) ○年1回引き取り訓練 ○危機管理訓練 ○年2回の消防点検 ○消防署査察 ○交通安全教室 ○事故報告・ひやりはつと検証と防止策の徹底 ○危機管理マニュアル周知 ○防犯マニュアル周知						地域との連携		○児童館への出前保育 ○地区懇談会への参加 ○実習生、職場体験、ボランティアの受け入れ○児童館との共催での子育て支援 ○デイホーム訪問 ○町内会見守りによる遊園地訓練の実施							
保護者との連携		○保護者会 ○個人面談(てをつなごう使用) ○育児相談 ○子育てに役立つ情報の提供 ○保育参観・参加						朝夕・延長保育		○朝夕・延長保育…子どもが長時間生活する「温かなくつろぎの場」であり、「生き生きと活動できる場」となるよう環境を構成し、安全に保育する。							
地域保護者の支援		○子育て教室 ○体験保育 ○「公園であそぼう」の実施 ○一時保育事業の安定した運営 ○子育て相談						自己評価		○保育所の評価(全体の反省・評価及び保護者にアンケート実施し、保育課程に反映 ○第三者評価受審を想定した準備○保育士の評価(保育の自己評価・自己チェックの実施) ○毎月保育の振り返りに指標を基にしたチャートでのチェック							
研修計画		○園外研修への計画的な参加 ○園内研修の実施															
特別支援教育・保育		分野運営支援担当・すこやか福祉センター・療育センターアポロ園・ゆめなりあと連携して、発達に応じた教育・保育を行う						食物アレルギー対応		区食物アレルギー対応基準に則り対応する。							

③幼保連携型認定こども園全体的な計画（私立 やよいこども園）

基本理念 (事業運営方針)		子ども一人ひとりに生きる力を育み、未来に夢や希望をもてるように、家庭、地域社会と連携して、教育および保育を一体的に行う。				
基本方針		<ol style="list-style-type: none"> 「4つの約束」を基本として教育・保育を実施し、生きる力を育む 人権尊重の精神に立ち、一人ひとりを大切に、みんなと一緒に豊かに育ちあう環境をつくる 子どもが健康で安全な園生活を送るために家庭、地域社会との密接な連携を図る 食育の実践を通して、子どもの「食を営む力」の基礎を培う 地域子育て支援に積極的に取り組む 				
基本目標		<ol style="list-style-type: none"> いいあたま 身のまわりのことに興味と関心をもち進んで関わろうとする。友だちと仲良くまわりを守って遊ぶ。 やさしいこころ 相手を思いやることができる。身近な動植物に愛情をもち、進んで関わろうとする。 じょうぶなからだ 毎日の生活リズムを大切に。積極的に戸外に出て遊ぶ。 がまんづよいこ 人の話を最後まで聞く。物事を最後までやり遂げようとする。 				
教育・保育目標	0歳児	一人ひとりの生活リズムが安定し、安心して機嫌よく過ごす。 ・優しく語りかけ、それぞれの子どもが発する反応に応答しながら発語を促す。	3歳児	・基本的な生活習慣や園のルールが分かって、自分ができるようになる。 ・保育者や友達と関わりの中で情緒の安定を図り、自分なりの言葉で伝えようとする。	就学期	<ul style="list-style-type: none"> ・思いや考えを様々な方法で表現し、いろいろな活動に楽しんで取り組む。 ・友達と共に過ごす喜びを味わい、自分たちで遊びや生活を進め、充実感を味わう。 ・自分の体に関心をもち、心身の成長を喜び合い、就学への期待をもつ。
	1歳児	・自分でしようとする気持ちを大切に、生活の中で次第に基本的な生活習慣を身に付ける。 ・自分なりの表現で表したり、保育者を仲立ちにして友達への関心を広げる。	4歳児	・皆で過ごす中で友だちの良さを知り、関わり合いながら自分の気持ちを表現したり相手の思いを受け入れたりする。 ・自然や身近な事象に興味や関心をもち、自ら進んで関わることを楽しむ。		
	2歳児	・保育者との安定した関わりの中で、こだわりや自分の思いや欲求を言葉で表現する。 ・いろいろな経験、やりたい気持ちを大切に、生活の中で様々な感情体験を味わうことができるようにする。	5歳児	・友達や異年齢との関わりの中で、社会に必要な基本的な能力を身に付け、また相手を思いやる心をもつ。 ・自然や身近な事象との関わりの中で感性を豊かにし、表現することの楽しさ、喜びを味わう。		

保育の内容

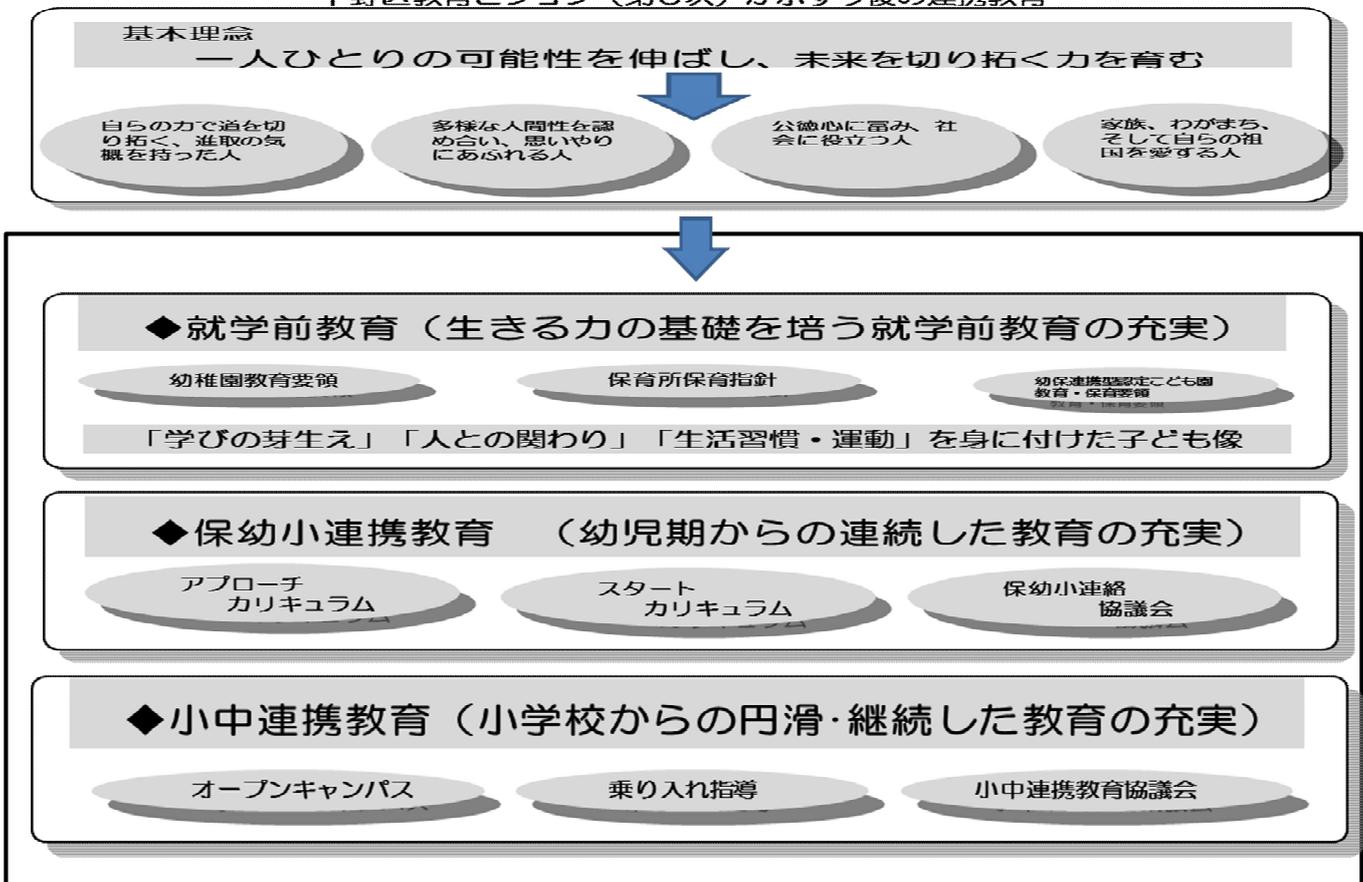
年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	就学期		
生命の保持	一人ひとりの子どもの健康状態などを把握し、いつもと様子が違う場合は、速やかに適切に対応する。また、安心安全な保育環境の維持及び向上に努める。	一人ひとりの子どもの健康状態などを把握し、異常を感じる場合は、速やかに適切に対応する。また、安心安全な保育環境の維持及び向上に努める。 ・清潔で安全な環境を整える。	一人ひとりの子どもの健康状態などを把握し、異常を感じる場合は、速やかに適切に対応する。また、安心安全な保育環境の維持及び向上に努める。 ・清潔で安全な環境を整える。	一人ひとりの子どもの健康状態などを把握し、異常を感じる場合は、速やかに適切に対応する。また、安心安全な保育環境の維持及び向上に努める。 ・清潔で安全な環境を整え、子どもの欲求に応じて語りかけながら優しく対応をし、生理的欲求を満たすようにする。また、家庭と協力して子どもにふさわしい生活リズムが作られるようにする。	一人ひとりの子どもの健康状態などを把握し、変化や異常を感じた場合は、速やかに適切に対応する。 ・清潔で安全な環境を整え、子どもの欲求に応じて語りかけながら対応を促す。	一人ひとりの子どもの健康状態などを把握し、自ら体調の変化に気付いたり、異常を感じる場合は、速やかに適切に対応する。 ・清潔で安全な環境を整え、健康に関心をもち生活に必要な習慣を身に付けるよう援助する。	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・動物や自然現象に好奇心や探究心をもって考えたり、言葉で表現したりする。同時に自然の不思議さに気付く、愛情や畏敬の気持ちをもち、命を大切に思いをもつ。 ・文字や数字、標識などに興味や関心をもち、遊びの中で進んで使うことと相手の考えに相違があること気付く、葛藤したり折り合いを付けるなど自ら判断できるようにする。 	
	子どもの生活リズムに合わせて、生理的欲求が十分満たされ、心地よい生活ができるようにする。 ・保育者の愛情豊かな受容により情緒の安定を図り、心身の成長を援助する。 ・家庭と協力して子どもにふさわしい生活リズムが作られるようにする。	子どもの欲求に応じて語りかけながら優しく対応をし、生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たす。また、家庭と協力して子どもにふさわしい生活リズムが作られるようにする。	子どもの欲求に応じて語りかけながら優しく対応をし、生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たす。また、家庭と協力して子どもにふさわしい生活リズムが作られるようにする。 ・一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、情緒の安定を図るとともに適切な休息の機会を作り、集団生活による緊張の緩和を図る。 ・自分でやりたい気持ちを受け止めて身の回りのことに関わろうとする姿を認めたことへの喜びや自信へつなげていけるようにしていく。	子どもの生活リズムに合わせて適度な運動と休息をとることができるようにし、健康や安全等生活に必要な基本的習慣や態度を身に付けることができるように援助する。 ・一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、人との信頼関係を育み、子どもの心を豊かに育てていく。	子どもの生活リズムに合わせて適度な運動と休息をとることができるようにし、健康や安全等生活に必要な基本的習慣や態度を身に付けることができるように援助する。 ・多様な経験を通し、自己肯定感を育み、自信とともに周りの人との信頼を獲得できるようにする。	子どもの生活リズムに応じた活動内容の調和を図る。 ・適度な運動と休息をとることができるようにし、健康や安全等生活に必要な基本的習慣が確立し、見通しをもった生活ができるように援助する。 ・様々な経験をもとに、自信や自制心が高まるように援助する。			学 び の 芽 生 え
健康	寝返り、はいはい、お座り、伝い歩き、立つ、歩くなどそれぞれの発達に合った活動を十分に行う。 ・つまむ、たたく、ひっぱるなど手や指を使って遊ぶ。 ・一人ひとりの子どもの排泄開閉を把握しながら、おむつが汚れたら、優しく言葉をかけながらこまめに取り替え、きれいになった心地よさを感じることができるようにする。	おむつやパンツが汚れたら、優しく言葉をかけながら取り替え、きれいになった心地よさを感じることができるようにする。 ・安全で活動しやすい環境の中で、歩行の完成とともに行動範囲を広げる。 ・園内の自然の中で、思いきり体を動かすことで身体機能の発達を促す。	走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う運動を取り入れた遊びや、つまむ、丸める、めくるなどの手や指を使う遊びを楽しむ。 ・安心できる保育者との関係のもとで簡単な身の回りの活動を自分でしようとする意欲をもてるようにする。 ・自分から、あるいは言葉をかけてもらうなどしてトイレに行き、保育者が見守る中で自分で排泄する。	戸外で遊ぶことを喜び、十分に体を動かしたり、遊具や用具などを使った運動や遊びを楽しむ。 ・体の異常について、少しは自分から訴える。 ・排便、排便を自分で行い、保育者の手助けにより衣服を自分で着脱する。また、自分で手洗いや鼻をかむなどして清潔を保つ。 ・保育者に寄り添ってもらいながら、午睡などの休息を十分にとる。	進んで戸外で体を十分に動かし、遊具、用具や自然物を使い、様々な動きを組み合わせて積極的に遊ぶ。 ・自分の健康に関心をもち、体の異常について自分から保育者に訴える。 ・排便などの後始末、また、衣服を自分で着脱及び調整をする。 ・鼻をかんだり、顔や手を洗うなど、身の回りを清潔にする。 ・生活リズムが身に付き、午睡や必要な休息をとる。	友達と一緒に戸外で様々な運動器具に進んで取り組んだり、工夫したりして遊ぶ。 ・危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かるとともに、安全に気を付けた遊びや行動をする。 ・自分の健康や、体と食物の関係に関心をもち、 ・体や身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事排渾など自分で行う。 ・健康な生活のリズムを身に付ける。	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なものに触れる中で、感動したり、感心したりなど、感性を働かせ、いろいろな方法で表現する喜びを感じる。 ・みんなで気持ちを合わせ、歌や踊り、劇や楽器の演奏などを進める。 ・友達と一緒に共通の目的をもち、意欲をもって、遊びの場や必要なものを作ったり描いたりする。 	
人間関係	身近な人との関わりを深め、大人の愛情を感じ、信頼感をもつ。 ・生活や遊びの中で、保育者のすることに興味をもち、一緒に遊びながら、周りの友達へ興味をもつ。	一人ひとりの子どもの気持ちを受け止め、人との信頼関係を育み、子どもの心を豊かに育てていく。 ・保育者が遊びの仲立ちをしながら、友達への関わり方を知らせていくようにする。	保育者を仲立ちとして、簡単なごっこ遊びや、言葉のやりとりを楽しむ。 ・友達との関わりを通して、一緒に行動したり、同じ遊びを楽しんだりする。	保育者や友達との安心した関係の中で、一緒に生活したり遊んだりする喜びを味わう。 ・良いことや悪いことがあることを知り、友達と楽しく生活する中でまじりを守ろうとする。 ・異年齢の友達と遊んだり、地域の人と触れ合うことを喜び、 ・外国の人など、自分とは異なる文化をもった人の存在に気付く。	保育者や友達などの安定した関係の中で、いきいきと遊ぶ。 ・共同の遊具や用具を大切に、譲り合って使う。 ・自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いに気付いたりする。 ・気の合う友達との遊びの中で思いやりを深め、簡単な約束を守るようにする。 ・外国の人など、自分とは異なる文化をもった様々な人に関心をもち関わろうとする。	保育者や友達などの安定した関係の中で、意欲的に遊ぶ中で、共通の目的をいなど協力して遊びを発展させる。 ・共同の遊具や用具を譲り合って使う。 ・友達と積極的に関わりながら思いやりを深め、一緒に喜びや悲しみを共感し合う。 ・友達と楽しく生活する中で決まりの大切さや良いこと悪いことに気付く、考えながら行動する。 ・身近な保育者等や友達、また地域の人々との関わりを深め、思いやりやいざわり、感謝の気持ちをもつ。			協 同
環境	園内の自然に親しみ、五感で感じる心地よさを知る。 ・安心できる物的・人的環境の下で絵本や玩具、身近な生活用具などを見たり触ったりする機会を通して、身のまわりの物に対する興味や好奇心の芽生えを育む。	保育者に見守られ、好きな玩具、遊具、自然物に関わり、戸外遊び、一人遊びを十分に楽しみ探索活動をする。	自然に触れて、その大きさ、美しさ、心地よさなどを感じる。 ・身近な小動物、植物、事物などに触れ、それらに興味、好奇心をもちながら大切にすることを教える。 ・保育者と一緒に、水、砂、土、紙、粘土などの素材に触れて楽しむ。	身近な自然に触れ、興味や関心をもって遊びや生活に取り入れようとする。 ・身近な動植物をよく見たり、触れたりなどして驚き、親しみをもつ。 ・様々な用具、材料に触れ、それを使って遊びを楽しむとともに、大切にすることを教える。 ・生活や遊びの中で身近な事象に関心をもち、色、数、量、形などの違いに気付く。 ・園内の行事に参加して、喜んだり楽しんだりする。	身近な自然に触れて生活し、興味や関心を深め、遊びや生活に取り入れようとする。 ・身近な動植物に親しみ、いたわったり、大切にしたり、作物を育てたり、味わうなどして生命の尊さに気付く。 ・様々な用具、材料に興味をもって関わり、考えたり、試したりして遊ぶ。 ・身の回りの物の色、数、量、形などに興味や関心をもち、分けたり、集めたり、数えたり、比べたりする。 ・園内の行事に喜んで参加する。	身近な自然や事象に関心をもち、遊びや生活に活用する。 ・身近な動植物に親しみ、いたわったり、大切にしたり、作物を育てたり、味わうなどして生命の尊さに気付く。 ・身の回りの物や遊具・用具などに興味をもって関わり、考えたり、試したりするなど工夫して遊ぶ。 ・身の回りの物を集めたり、分けたり、整理したりするとともに、物を数えたり、比べたり、順番を言ったりする。 ・生活の中で前後、左右、遠近などの位置の違い、時刻、時間、さらには、簡単な標識や文字、数、量などに関心をもち、 ・園内外の行事に喜んで参加する。	人 の 関 わ り ・ 感 じ る 心	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感じたことや考えたことを友達に分かるように伝え、友達の話を聞いて受け止める。 ・友達の得意な面やよさを気付かせ、生かして遊ぶようとする。 ・小学校との交流などを通して小学生と触れ合い、小学校を身近に感じる。 ・自分のことを認めてもらった経験を通して、自らを大切に思う気持ちを育み、自信をもって行動する。 ・家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人々との関わりをもつ中で、人との様々な関係に気付く。相手の気持ちを考えることができる。その中で、自分が役に立つこともあることを知り、地域に親しみをもつ。 	
言葉	喃語や指さしを優しく受け止めてもらい、発語や保育士とのやりとりを楽しむ。 ・絵本の読み聞かせや、わらべ歌などから、擬音語や擬態語を楽しむ。	簡単な言葉を知り、保育者の話しかけを喜んだり、自分から片言でしゃべることを楽しむ。 ・絵本の読み聞かせや手遊びなどで、繰り返しのある言葉を聞いたり話したりする中で、言葉を習得していく。	保育者と一緒に簡単なごっこ遊びをしたり、絵本や紙芝居を楽しんだり見たり聞いたりして、言葉のやりとりや模倣を楽しむ。 ・生活に必要な簡単な言葉を聞き分け、したいこと、してほしいことを言葉で伝えようとする。	挨拶や返事など生活や遊びに必要な言葉を使う。 ・ごっこ遊びの中で、日常生活での言葉を楽しんで使う。 ・自分が思ったことや感じたことを言葉で表し、保育者や友達との言葉のやり取りを楽しむ。 ・したいこと、してほしいことを話したり、疑問に思ったことを尋ねたりする。 ・絵本や童話などに親しみ、イメージをもって楽しんで聞く。 ・詩の暗唱を通して、言葉の響きやリズムを楽しむ。	親しみをもって日常の挨拶をする。 ・身の回りの出来事に関する話に興味をもつ。 ・保育者等や友達との会話を楽しみ、さまざまな言葉に興味をもつ。 ・絵本や童話などをみたり聞いたりし、言葉の面白さや、表現の仕方に気付く。 ・詩の暗唱を通して、言葉の響きやリズムを楽しむ。	親しみをもって日常の挨拶をする。 ・生活の中で必要な言葉を使うとともに、簡単な文字や記号に関心をもち、人の話を注意して聞き、相手に分かるように話しながら、会話を進める。 ・保育者等や友達との会話を進め、相手に分かるように話しながら、会話を進める。 ・絵本や童話などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう。 ・詩の暗唱を通して、言葉の響きやリズムを楽しむ。			規 範
表現	全身や手を動かす中で身近な物へ興味や関心をもって関わられるようにする。 ・保育士の歌を楽しんで聞いたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しむ。	感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 ・手遊びやリズム遊びを楽しんだり、模倣したりすることを楽しむ。	保育者と一緒に歌ったり簡単な手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。 ・絵本の読み聞かせや、簡単な言葉を生の中でも使う。	挨拶や返事など生活や遊びに必要な言葉を使う。 ・ごっこ遊びの中で、日常生活での言葉を楽しんで使う。 ・自分が思ったことや感じたことを言葉で表し、保育者や友達との言葉のやり取りを楽しむ。 ・したいこと、してほしいことを話したり、疑問に思ったことを尋ねたりする。 ・絵本や童話などに親しみ、イメージをもって楽しんで聞く。 ・詩の暗唱を通して、言葉の響きやリズムを楽しむ。	様々な素材に触れたり、使ったりして遊び、好きなように描いたり、集めたり、形を作ったりすることを楽しむ。 ・生活の中で様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りなどに気付く、驚いたり、感動したりする。 ・保育者等や友達と一緒に手遊びをしたり、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を鳴らしたりして遊ぶ。 ・動物や乗り物などの動きを真似て、体で表現することを楽しむ。 ・絵本や童話などに親しみ、興味をもったことを保育者と一緒に言ったり歌ったりなど様々な表現で遊ぶ楽しさを味わう。	様々な素材や用具に親しみ、感じたこと、思ったことなどを自由に描いたり、作ったりすることを楽しむ。 ・生活の中で様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りなどに気付く、驚いたり、感動したりする。 ・保育者等や友達と一緒に手遊びをしたり、音楽を聴いたり歌を歌ったり、楽器を演奏したりすることを楽しむ。 ・童話、絵本、視聴覚教材などを見たり、聞いたりしてイメージを膨らませ、描いたり、作ったり様々な表現で遊ぶ。	様々な素材や用具を利用して描いたり、作ったりすることを工夫して楽しむ。 ・生活の中で様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。 ・保育者等や友達と一緒に音楽に親しみ、聴いたり歌を歌ったり、楽器を演奏したりすることを楽しむ。 ・自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて楽しんだりする楽しさを味わう。	生 活 習 慣 ・ 運 動	
食育	個人差に応じて授乳や離乳をすすめ、色々な食品に慣れ、幼児食への移行を促す。 ・できるだけ多くの食材に触れ食に興味をもち、食べることの楽しさを知る。 ・おながすく生活リズムの中で、喜んで食べ心地よい生活を楽しむ。	安心して機嫌よく食事をする。 ・いろいろな食べ物を見る、触る、噛んで味わう経験を豊して自分で進んで食べようとする。 ・楽しい雰囲気の中で食事をする。 ・咀嚼力を促し、よく噛んで食べる習慣を身に付ける。	楽しい雰囲気の中で、友達とともに食事をするを喜び、食事に必要な基本的な習慣や態度に関心をもち、 ・食べることへの関心をもち、様々な食べ物や料理を味わう。 ・保育者と一緒に野菜を育て、生長に興味をもつ。	保育者等や友達と、食材をみたり、触れたりしながら興味や関心をもつ。 ・みんなで食べることを楽しさを知る。 ・偏食が出やすい時期なので、個人差を考慮しながら一人ひとりの心身の様子なども把握していく。 ・野菜の栽培活動に興味をもつ。	友達とともに食材に触れたり、いろいろな食べ物に興味をもてるようにする。 ・食事に必要なマナーを身に付ける。 ・野菜を栽培し、育て食べること等により、命の大切さを知る。 ・食事を作ってくれる人に対して感謝の気持ちをもつ。 ・食べられないものや嫌いなものでも少しずつ食べようとする。	友達と食事に触れたり、調理をしたりすることを喜び、食への関心を広げる。 ・三色表をみて、いろいろな食材の栄養にも興味をもつ。 ・野菜の栽培をし、収穫の喜びを味わい、普段の食事に多くの人々が関わっていることを知る。	運 動		<ul style="list-style-type: none"> ・友達と積極的に体を動かす運動に取り組み、競い合う楽しさや、ルールをつくってみんなで遊ぶ充実感を味わう。 ・運動用具の使い方が分かり、活用したり工夫したりして遊ぶ楽しさを味わう。 ・危険な遊び方や場所に気付く、自分で判断して安全に行動しようとする。
主な行事	・入園式・始業式・終業式・遠足・お泊り保育・夕涼み会・運動会・作品展・クリスマス会・餅つき会・生活発表会・豆まき・ひな祭り・ファミリーデー・修業式・卒園式・誕生会、避難訓練（毎月1回）			小学校との接続	●小学校の行事への参加、幼保連携型認定こども園こども指導要録の作成と送付、1年生と年長児の交流活動、幼保小連絡協議会等への参加				
健康支援	●健康状態・発達状態の定期的・継続的な把握（内科健診・身体測定）/毎月の0歳児健診・アレルギー対応・心身状態や家庭生活、養育状態の把握、歯科健診、歯磨き指導			長時間保育の配慮	●個々の年齢、発達に沿った援助及び活動の実施（補食・夕食の提供）				
環境・衛生管理	●園内外の設備、用具等の清掃および消毒、布団乾燥機、換気扇の清掃、各器具のフィルターの清掃、職員細菌検査（検便）			特色ある保育	●「詩の暗唱」言葉の美しさにふれ、自分の言葉を得得・「体づくり」体育講師を中心に組まれた運動・「英語体験」英語講師による英語にふれる体験・異年齢の子とふれあう「小学校と連携した教育活動」・「ふれあい」遊びの工夫」園庭で思いやり遊ぶ園生活・体験活動の重視（お泊り保育・野菜づくり・生活習慣を身に付ける等）				
安全対策・事故防止	●避難訓練（火災・地震・消火・通報・不審者への対応）の実施、防犯訓練、消防訓練、安全点検			苦情処理・解決	●苦情解決責任者である園長の下に、苦情解決担当者を決め、速やかな解決に努める。また、第三者委員を設置する。誠実に対応し保護者等との相互の理解を促す。また職員で共通理解を図る。				
保護者への支援	●情報提供、地域の子育て支援（一時保育事業、未就園児への支援、園庭解放）			地域との関わり	●中野区弥生地区まつりの参加・弥生地区活動センターとの合同避難訓練・園の行事への招待 ●高齢者とのふれあい、職場体験、実習生・ボランティアの受け入れ				
研修計画	●園外研修への計画的な参加・園内研修（テーマに基づく研修・実践研修、月1回の園内研究会議）			自己評価	●日々の保育の反省点・改善点を見つけて活かしていく（保育日誌、週案、月案、年間指導計画、自己申告書の評価反省）学期毎に園全体の評価を行う。				

Ⅲ 就学前教育プログラム改訂版（理論編）の指導資料としての意義

本就学前教育プログラムの改訂版（理論編）は、生きる力の育成を軸とした就学前教育と小学校教育との接続を踏まえ、乳幼児期の子どもの発達と学びの連続性、0歳児から5歳児の発達に応じて確実に経験させたい内容を保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領に基づき、教育課程の編成や全体的な計画、指導計画の作成等に活用できる指導資料です。また、中野区教育ビジョン(第3次)の基本理念である「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」の具現化を目指す筋道でもあります。

さらに、これからの幼児教育の充実・発展は、「保幼小連携教育」や「小中連携教育」と相まって、0歳から15歳の子どもたちの健やかな成長への礎でもあります。そのため、本改訂版「理論編」に合わせ、次年度には「実践編」の指導資料を作成する予定です。

中野区教育ビジョン（第3次）が示す今後の連携教育



具体的な取組み

- ◆ 「就学前教育プログラムの改訂」 【理論編】 【実践編】
- ◆ 「合同研究会」
- ◆ 「学校教育向上事業」 【保幼小連携教育】 【小中連携教育】
- ◆ 「保幼小連絡協議会」
- ◆ 小中連携教育協議会
- ◆ 「講演会」
- ◆ 地区教育懇談会

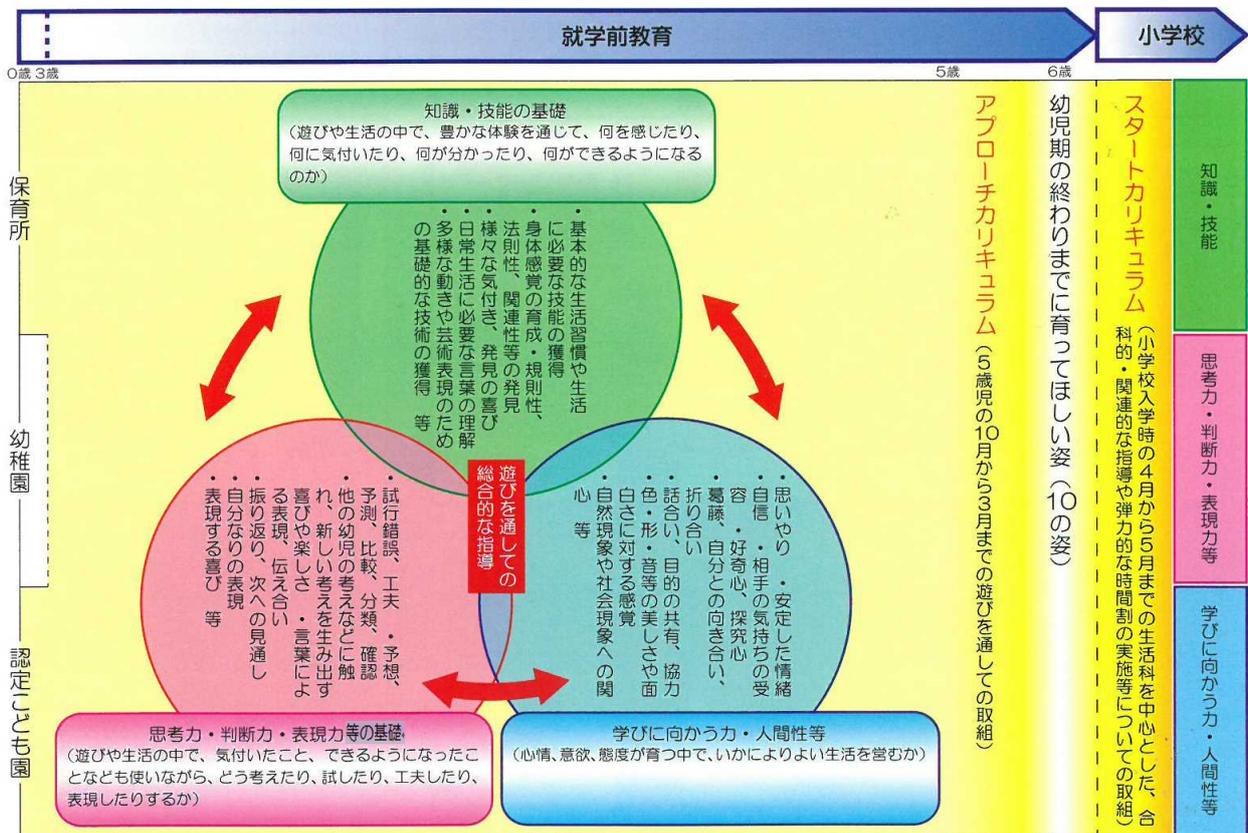
IV これからの方向性

平成30年度の組織改正に伴い、教育委員会事務局に就学前教育推進担当が設置され、東京都教育委員会作成の「就学前教育カリキュラム改訂版ハンドブック【新幼稚園教育要領等対応】」（平成30年3月）の普及・啓発に取り組んできました。

年度当初には、区内の公立・私立全ての就学前教育・保育施設を訪問し、東京都「就学前教育カリキュラム改訂版ハンドブック【新幼稚園教育要領等対応】」の趣旨を説明し、各就学前教育・保育施設の実情を把握して根拠のある教育・保育の充実及び支援にあたってきました。また、東京都「就学前教育カリキュラム改訂版ハンドブック【新幼稚園教育要領等対応】」における「3つの柱」を具現化に向けて、「中野区就学前教育プログラム改訂版（理論編）」作成のために連携教育検討委員会を立ち上げ「理論編」の作成及び、幼稚園教諭、保育士・保育教諭による合同研究会を開催して「実践編」の作成にあたってきました。

一方、文部科学省や厚生労働省・内閣府が公示した幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、「就学前教育・保育」においては、下記のように「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力の基礎」「学びに向かう力・人間性」の3つの柱が示されています。この3つの柱は、小学校学習指導要領や中学校学習指導要領等においても示されています。

今後「生きる力の基礎」から「生きる力の育成」となる0歳から18歳に至る3つの柱への変更・統一が見込まれ、「中野区就学前教育プログラム改訂版（理論編）」の「学びの芽生え」「人との関わり」「生活習慣・運動」から3つの柱への転換がこれからの方向になります。



(敬称略 職名は委員在任時のものである)

連携教育検討委員会委員

【幼稚園】

関 政子	私立	やはた幼稚園長
	私立	やはたみずのとう幼稚園長 (認定こども園・幼稚園型)
永見 俊光	私立	こまどり幼稚園長
宮本 実利	区立	かみさぎ幼稚園長
若槻 容子	区立	ひがしなかの幼稚園長

【保育園】

谷崎みよ子	私立	とちの木保育園長
根元 由佳	私立	やよいこども園長 (認定こども園・幼保連携型)
木村 設子	区立	鍋横保育園長
滝瀬 恭子	区立	弥生保育園長

【小学校】

堀 聡明	区立	上鷲宮小学校長
松井 敏	区立	南台小学校長

【中学校】

竹之内 勝	区立	第八中学校長
弓田 豊	区立	中野中学校長

【教育委員会事務局】

戸辺 眞	教育委員会事務局次長
宮崎 宏明	教育委員会事務局指導室長
所 水奈	教育委員会事務局主任指導主事
中野 貴博	教育委員会事務局指導主事 (就学前教育推進担当)
四宮 範明	教育委員会事務局指導主事 (小中連携教育担当)
古屋 寿子	保育園・幼稚園分野 運営支援担当係長
佐藤 美紀	就学前教育推進担当主査
大見 由美	就学前教育推進員

【参考文献】

就学前教育カリキュラム改訂版 (東京都教育委員会 平成28年3月)
就学前教育カリキュラム改訂版ハンドブック【新幼稚園教育要領等対応】
(東京都教育委員会 平成30年3月)

【編集】

中野 貴博	教育委員会事務局指導主事 (就学前教育推進担当)
棚田 政治	教育委員会事務局研修支援担当